

大管長会

スペンサー・W・キンボール
N・エルドン・タナー
マリオン・G・ロムニー

十二使徒評議員会

エズラ・タフト・ベンソン
マーク・E・ピーターセン
リグランド・リチャーズ
ハワード・W・ハンター
ゴードン・B・ヒンクレー
トマス・S・モンソン
ボイド・K・パッカー
マービン・J・アシュトン
ブルース・R・マッコンキー
L・トム・ペリー
デビッド・B・ハイト
ジェームズ・E・ファウスト

顧問

M・ラッセル・バラード・ジュニア
レックス・D・ピネガー
チャールズ・A・ディディエ
ジョージ・P・リー
F・エンツィオ・ブッシエ

国際機関誌

編集主幹：ラリー・A・ヒラー
編集副主幹：キャロル・D・ラーセン
子供の貢編集：ハイディ・
ホルフェルツ
デザイナー：ロジャー・ギリング

聖徒の道 1月号

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京都港区南麻布5-10-30
印刷所 株式会社 精興社
配 送 東京ディストリビューション・センター
東京都世田谷区上用賀4-9-19
定 価 年間予約2,200円
海外予約2,200円
INTERNATIONAL MAGAZINE PRIMA 0733 JA Printed in Japan

郵便振替口座番号 東京0-41512

口座名 末日聖徒イエス・キリスト教会
東京ディストリビューション・センター

もくじ

福音を分かち合う	スペンサー・W・キンボール	2
聖典と生ける予言者	マーク・E・ピーターセン	5
回復された真実の教会	マリオン・D・ハンクス	9
家族を強めなさい	エズラ・タフト・ベンソン	12
福音を教えるための 主のプログラム	マリオン・G・ロムニー	16
いざ救いの日を樂しまん	W・グラント・バンガーター	18
日本に宣言された祝福	菊地良彦	21
教会の出する国	ゴードン・B・ヒンクレー	24
互いに愛し合いなさい	スペンサー・W・キンボール	28
神権者に課せられた3つの責任	マーク・E・ピーターセン	30
神権を持つ者が 受ける義務と機会	マリオン・D・ハンクス	33
神権によって成長する	柏倉仁	36
私は神権の力を今も見ています	田中健治	39
神権の召しを全力を 尽くして遂行する	スペンサー・W・キンボール	43
末日聖徒の女性に	ゴードン・B・ヒンクレー	46
課せられた責任		
犠牲は天よりの祝福をもたらす	バーバラ・B・スミス	49
神殿で受ける祝福	イレイン・A・キャノン	52
女性の模範	菊地良彦	55
母親の責任と祝福	マリオン・G・ロムニー	59
悔い改めと赦し	マリオン・G・ロムニー	62
完き者となる	マーク・E・ピーターセン	65
「みんな、どこにいるの」	マリオン・D・ハンクス	67
奇跡の国	ゴードン・B・ヒンクレー	69
福音を分かち合う	スペンサー・W・キンボール	73
誓約に伴う神権者の責任	マーク・E・ピーターセン	76
「しもべは聞きます。	マリオン・D・ハンクス	80
主よ、お話し下さい」		
神聖な任務に備えて	安芸宏	83
教員会を守護する神権	中野正之	86
自己の才能をのばし、 神と隣人に奉仕する人となろう	ゴードン・B・ヒンクレー	89
備え	バーバラ・B・スミス	93
天と地を結ぶ愛	イレイン・A・キャノン	96
ふたりの姉妹の模範	菊地良彦	98
証	カミラ・E・キンボール	102
母親と未婚の女性たちの義務	マリオン・G・ロムニー	103
ローカル・ニュース		108

生ける予言者の声は 永遠に響き渡る

1980年は、日本の聖徒にとって祝福された年であった。東京神殿も完成を見、去る10月27日に献堂を終えた。また、10月30、31日、11月1日にわたり、東京と大阪で地域大会が開催された。今月号は、地域大会での教会幹部、指導者の全説教、証の特集である。

東京神殿献堂式は、10月27日に神殿で、また28、29日の両日にわたって日本東京ステーキ部センターで行なわれた。合わせて7回のセッションであったが、それぞれがみたまに満ちており、聖徒の胸に新たな決意を与えるにはおかなかった。日本に神殿が建てられたということは、神がアジアの民に多くのことを期待しておられることを示している。この神殿には、アジア各地から多くの兄弟姉妹が参入することであろう。前回の地域大会から5年。キンボール大管長が覆いを取って会衆の面前に掲げて下さったあの神殿が、今や、東京の地にひときわ麗しくそびえ立っているのである。

地域大会には、東京と大阪を合わせて1万5千人程の会員が集った。会場は、生ける予言者と使徒の声に耳を傾ける聖徒の熱い思いで満ちた。全国から集まった聖歌隊は、声高らかに神を讃美し、みたまにあふれる大会をさらに靈的に高めた。予言者、使徒、教会指導者を前にし、直接にその声を聞くことは、末日聖徒の力であり、証であり、信仰である。その場で過去の自分自身を見つめ直し、新たな確信と決意のもとで人生の再スタートを切った兄弟姉妹も多かったことであろう。地域大会のために捧げた犠牲と働きは、その瞬間に幾倍もの祝福として返ってきたのである。

神は、すべての神の子供たちをお救いになるために、万事を備えて下さった。神は今も、予言者を通して人々に語りかけておられる。ここで、大会の光景を思い起こし、説教を一つ一つ味わって読んでいただきたい。生ける予言者の声は、永遠にこの地に響き渡るに違いない。



福音を分かち合う

大管長

スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆様、前回私たちがこちらにまいりました時、この同じ会場で神殿を建設する発表をしたことを、私は今、思い出しています。その時、皆様方は大いなる感銘を表わして下さいました。その神殿も今や完成されました。そして今、私たちはこの偉大な日本の皆様の上に、恐らくこれから起こるであろう大いなる出来事に思いをはせています。

今朝、この麗しい地で皆様にお会いでき、感無量でございます。前回、1975年8月の地域大会以来、この国において教会が目覚ましい発展を遂げてきたことに、私は強く胸を打たれています。

また、1830年4月6日に、ニューヨーク州フェイヤットで教会が設立されて以来、この教会全体も目覚ましい発展を見てまいりました。教会の設立に立ち会ったわずか6名の会員から、今日では実に450万人の会員を擁するようになっています。私は150年の教会歴史のうちの85年を生きてきて、その驚くべき発展をつぶさにこの目で見てまいりました。

しかしながら、それでもその数は少ないと思います。私たちはすべての国民、民族、国語の民、人々に福音を宣べ伝えるよう主から責任を託されており、その責任を果た

そうとするためには、歩みを速めることができます。

小さいソルトレーク市には街角ごとに礼拝堂があり、ステーキ部もたくさんあります。このような状態を全世界で実現するようしなければなりません。それは確実に実現されつつあります。そこで私たちは皆様に、皆様方の偉大な国における教会の発展に尽力して下さるようお願い致します。と申しますのは、教会の伝道プログラムと教会の発展はひとえに、皆様方一人一人と主に負っているからであります。皆さんがステーキ部や伝道部、または皆様自身の家庭で行なっておられる業については特にこのことが言えると思います。今朝このようにして大勢の皆様方を前にし、私は素晴らしい機会が私たちの前途に横たわっていることを感ずるのであります。

もしも今日この会場においての皆様方が1年以内に他の家族をひとつ教会に導くならば、やがて私たちの利用している建物では足りなくなり、教会は急速に世界各地に広まるに違いありません。

隣近所の人々を見過ごしにしないようにして下さい。福音を必要とし、待ち望んでいる立派な人々が大勢いらっしゃいます。そのような人々は機会さえあれば、福音に

耳を傾けるのであります。しかし、福音を彼らに伝えることができるのは、皆様方や私たちを置いてほかにいません。福音は値ぶみのできない貴いものであります。幼い子供たちですら、この福音を他の人々に分かち合えるとは何という驚くべきことでし

ょうか。少年や少女も、学校で、また遊んでいる時に、友達や知人に福音の教えを伝えることができます。

現在、3万人以上の若い男女、また夫婦の方々が専任宣教師として伝道に携わっていることは実に素晴らしいことであります。



しかしそれとてても、伝道プログラムのごく一部分にしかすぎません。警告を受けた者は隣人に警告するようにと、主は言っておられます。すべての男女、子供たちは、この大会を終えてお帰りになる時に、親戚や友人の方々に福音を伝えようとの決意を持ってお帰りになるようにして下さい。

この教会のすべての若い男性、また多くの若い女性は、伝道に出るようこれからも計画して下さるようお勧めします。また、若い男性や若い女性が清くふさわしい生活を送れるように、家庭の夕べや家庭生活において彼らを教え、しつけるようにして下さい。なぜならふさわしい生活を送っていない人は宣教師になれないからであります。

宣教師を召す今ひとつの理由は、これら若い男性たちに2年間訓練を得る機会を与え、彼らが将来ワード部の監督やシオンのステーキ部の高等評議員、ステーキ部長会の一員になる準備をさせることであります。

さて、もうひとつの種類の伝道活動があります。それは老いも若きも年齢を問わず、全員が行なわなければならない伝道活動です。死者や、自分自身の家族の系図と神殿活動がそれです。いまや、日本には美しい神殿があり、これまで以上に神殿に参入しやすくなりました。ほどなくして、東洋の偉大な国々のほとんどに神殿が建てられる日が来ることでしょう。私たちはすべての家族がそれぞれの家庭の夕べで、また家族の集いで、さらに教会の集会においても、いつも神殿と系図のことを語り合うよう願っています。

皆様方全員が記録をつけて下さるように、すなわち家族の記録を持たない家族のないように願っています。先祖の記録だけでなく、日記を書いて自分自身の記録も残すようにして下さい。

兄弟姉妹の皆様、信仰箇条第12条には次のようにあります。「われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を守り、敬い、支うべきを信ず。」私たちはこのことを信じており、出向いた先々の地でこのことを教えて参りました。皆様の国に、また皆様の指導者に忠実であって下さい。国の法律を守って下さい。良い公民、良い隣人であって下さい。いついかなる時にも真理と正義に従う立派な模範であって下さい。自分に倣う者になるよう子供たちに教えて下さい。

さて、兄弟姉妹の皆様、皆様が推し進めておられる業を天の御父は喜んでいらっしゃいます。今後も引き続き天の御父に喜んでいただける方法で神のみ業を行なうようにして下さい。私たちがこの大会で感じられた福音の精神と教えを持ち帰って、それを心に深く浸透させることができるよう願っています。

この話を結ぶにあたり、私の証を述べたいと思います。まさしくこの業は主の業に他なりません。神は生きておられ、私たちは神の姿に似せて造られました。私たちの救い主、贖い主であるイエス・キリストは生きておられます。そして私たちに何をすべきかを教えておられます。そして主は聖なる聖典の中で、また過去、現在の主の予言者たちに下された主ご自身の、また御父の啓示によって、なすべき事柄を私たちに告げておられます。

私はこのことを証申し上げると共に、皆様に誠実であるよう、また主のみ業の中にあって歩みを速めるよう申し上げたいと思います。皆様に、私の愛と祝福を、イエス・キリストのみ名によって残したいと思います。アーメン。



聖典と生ける予言者

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

愛する兄弟姉妹の皆様、こうして皆様とお会いできることを心からうれしく思います。スペンサー・W・キンポール大管長をお迎えしていることを、心から感謝しています。キンポール大管長は教会の大管長であるばかりでなく、主の予言者、聖見者、啓示を受ける者であります。現代における神の代弁者です。私は、このことが真実であることを皆様に証します。

主イエス・キリストについてのキンポール大管長の証を伺えることは、本当にすばらしいことです。末日聖徒の持つ最も大切なものメッセージは、主イエス・キリストについての証です。私たちは、キリストがまさに生きておられるというキンポール大管長の証を、心から支持します。イエス・キリストは神の御子であり、私たちの贖い主、救い主であります。イエス・キリストのみ名以外に、人類に救いをもたらす名前は存在しません。これが世の人々に対する末日聖徒の証です。

あらゆる時代に、主はその民を救おうと努めてこられました。古代において多くの予言者を遣わされました。すでにアダムの時代に福音を与えられました。ノアの時代、モーセの時代にもそうでした。そのほか大勢の予言者が主のみ言葉を語りました。イ

ザヤも偉大な予言者のひとりです。彼はキリストについて証しました。しかし、予言者たちの言葉にもかかわらず、古代の人々はしばしば道を踏みはずしてしまいました。どのような時代にも道を踏み誤る人々がいるものです。その結果、幾度も背教が起きました。しかし、これらの背教にもかかわらず、主は予言者たちのメッセージを後の時代の人々に伝えようとされました。聖典が残されたのです。旧約聖書という聖典です。この偉大な書物は、様々な時代の人の手を経て私たちにもたらされました。

しかし、聖典だけでは十分ではありません。時の絶頂において、イエス・キリストは肉体をもってこの地上に来られました。そして、人類の間に主の教会をお立てになり、十二使徒を召されました。多くの奇跡を行なわれ、天の御父について証されました。また、御自身が神の御子であることも証されました。しかし、主は多くの人々から拒絶され、敵意を持つ人々の手によって十字架にかけられました。それから3日後に、主は栄光の中に復活されたのです。そして復活が実際の出来事であることを示されました。

復活は現実に起こります。主は御自身が復活した体を持っていることを示すために、

弟子たちの前で食物を召し上がりました。さらに弟子たちを自らのもとに招き、御自身が靈ではなく骨肉の体を持っていることを実際に触れて確かめるようにと言われました。それから主は天に昇られました。その時使徒たちに、すべての造られたものに福音を宣べ伝えるように指示されました。

使徒たちはそのように努力しましたが、敵に妨げられ、黙示者ヨハネを除いてすべての使徒が殺されました。しかし、主はそのヨハネさえも人々の間から取り上げられたのです。

再び背教の時代がやってきました。それから100年以内に、互いに対立する30ものキリスト教の教派が生まれました。キリストの時代までさかのぼることのできる教会はひとつも存在しません。すでにペテロやパウロの時代に背教が始まっていました。教会は人がつくった教派に分裂し始めていたのです。新約聖書に収められているほとんどの手紙は、この背教と戦うために記されたものです。

御存知のように、コリントの町には4つの異なった教派が存在していました。ある人はパウロにつき、ある人はギリシャの偉大な説教者についていました。ペテロにつく人もいました。キリストにつく人もいました。パウロの時代にさえ、このコリントの町に異なる4つの教派があったのです。したがって、キリストの時代までさかのぼれる唯一の教会が存在するというのは、まったく道理にかなわないことなのです。

真実の教会は人々の間から消え去りました。しかし、ここにも一冊の書物が残されました。それは新約聖書です。新約聖書は私たちに何を告げてくれるでしょうか。イエス・キリストの生涯についてです。イエ

スが神の御子であることを証し、死人の中からよみがえられたことを証します。また、全人類が復活した骨肉の体をもって死よりよみがえることを証しています。この書物は大背教の時代があったことを告げています。しかし、末日に福音が回復されることも宣言しています。この新約聖書と旧約聖書を合わせて、私たちは聖書と呼んでいます。幾世代を通じて聖書が保存されてきたことは、ひとつの大きな奇跡です。神はこの聖書を私たちが用いるために保存してされました。この書物は、ナザレ人イエスがまさに神の御子であるという不滅の証に基づいているのです。

救い主は別の時代にも、人類に福音を伝えようとされました。それは古代アメリカにおいて起こりました。古代においてこの地に多くの人々が住んでいたように、古代アメリカにも大勢の人が住んでいました。キリストはその民のために予言者をお立てになり、キリストの福音を説かれました。そして、イエス御自身が古代アメリカの住民にみ姿を現わされたのです。パレスチナで復活されたイエスは、古代アメリカ大陸を訪れて、御自身を現わされました。御存知のように、イエスは復活された後に弟子たちをお呼びになり、御自身の体に触れるように言われました。主はその時に、復活とは骨肉の体の復活であることを示そうとされたのです。古代アメリカでも、主は同じことをされました。2千5百人の群衆がキリストのみ前に立ちました。そして、一人一人がイエスに近寄ってみ体に触れたのです。彼らははりつけの釘跡に触れました。イエスは群衆に向かって「われはイエス・キリストなり」と宣言されました。群衆はその傷跡に触れ、この御方がまさしくイエ

ス・キリストであることを知りました。そして、いっせいに呼ばわって「ホザナ、ホザナ」と叫び、イエスの足下にひれ伏してイエスを拝しました。

主は人々の間に教会をお建てになり、12名の特別な弟子を選んで福音を宣べ伝えられました。そして、その地に住むすべての人が改宗しました。それから200年の間、古代アメリカには全き平和が続いたのです。すべての人々が福音に従って生活しました。彼らは義人であり、罪を犯す人はいませんでした。互いに持ち物を分かち合ったので、貧しい人はいなかったと記されています。しかし、そのような時でさえ、背教の影が忍び寄ってきたのです。人々は背教への道に足を踏み入れ、ついには完全に滅びてしましました。

しかし、この時にも一冊の書物が残されました。古代アメリカの予言者によって記された聖典です。聖書と同じように、イエスがキリストであることを証するこの書物は、様々な時代を経て私たちの手に渡ってきたのです。

しかし、聖典だけでは私たちは救われません。一般に人々は聖典を誤って解釈する傾向があるからです。聖典は真実ですが、それだけでは人は救われないので。生ける予言者が必要です。現代の啓示が必要です。神権の権威と権能が必要です。これらすべてのものが聖典と共に必要なのです。生けるキリストの教会も必要です。神はそれを御存知でした。では、神はそのために何をなさったのでしょうか。

古代の予言を成就するために、神は現代において新たにひとりの予言者をお立てになりました。また、それに続く予言者と現代におけるイエス・キリストの使徒をお立

てになったのです。そのほかに、何をしてくださったでしょうか。もう一冊の書物を与えてくださいました。予言者ジョセフ・スミスを通して与えられた啓示を記した書物です。

現在私たちの手もとには何があるでしょうか。四大標準聖典、つまり旧新約聖書、モルモン經、教義と聖約、高価なる真珠です。これらの書物は私たちに何を教えてくれるのでしょうか。それは、イエス・キリストが全能の父なる神の御子であるということです。しかし、聖典だけでは十分でありません。生ける予言者や使徒たちの手によって教会が運営されていかなければならぬのです。主は現代において、予言者と使徒をお立てになり、四大標準聖典をその手に委ねられました。彼らは全世界に対するイエス・キリストの証人になったのです。2人か3人の証人によって、すべてのことが明らかにされると主は言われたではありませんか。私たちには4つの証言があります。四大標準聖典がキリストのことを証しているのです。これだけではありません。生ける予言者の生ける声があります。現代の使徒たちの生ける声があります。私たちは皆様に証します。まさに私たちが、現代の生ける使徒であり、予言者あります。私たちの証は真実であり、偽りではありません。神は私たちを通して働いておられます。特に主の予言者、聖見者であられるスペンサー・W・キンボール大管長を通して、神はこのみ業を行なっておられるのです。

私たちはひとりの偉大な指導者がいます。私たちはその補佐をする者です。そのひとりの指導者こそ、現代の世の人々に対する神の代弁者なのです。神が再び天からみ声を発せられたことを証するには、本當

にすばらしいことです。皆様に救いがもたらされたことを宣言するのは、何と喜ばしいことでしょうか。

私たちの知る限り、あらゆる時代を通じてキリストの真の福音が東洋にもたらされたことはありません。しかし、私たちはそれを皆様にお持ちしました。皆様は先祖を大切にする民であると聞いております。それはすばらしいことです。皆様は家族を愛していらっしゃると思います。皆様の御両親も家族を愛していらっしゃると思います。また、祖父母の方々も家族を愛しておられるでしょう。このようにして、代々さかのぼってこの愛は続いていくのです。

皆様の先祖の方々は、真の福音がなかったために、これまで救いを得ることができませんでした。しかし、その福音が今、皆様のところにもたらされたのです。それだけではありません。皆様を通して先祖の方方にも福音がもたらされるのです。神は何とすばらしい祝福を東洋の人々に与えてくださったことでしょうか。皆様自身の救いだけでなく、すべての先祖の方々の救いがもたらされたのです。これがイエス・キリストの福音の真髄です。主が授けられた福音に従って生活するならば、主は皆様の家族だけでなく、先祖の方々もすべて救ってくださるのであります。

主は皆様に神殿を授けてくださいました。神殿は全き福音をもたらすものです。神殿なくして、全き福音は存在しません。その中では、神の王国に昇栄するために必要な儀式が行なわれます。神はあわれみによって、この偉大な機会を皆様にお与えになりました。神殿は皆様方のみならず、皆様の先祖の方々にとっても、救いの門となるのです。これらのすべての事柄が、主イエス・

キリストのあわれみと思いやりによってもたらされたのです。

確かにイエス・キリストは救い主です。皆様方だけでなく、皆さま方の先祖の救い主でもあります。救いの門戸である神殿を皆様に与えてくださいました。イエス・キリストのみ名をほめたたえようではありませんか。イエスは救い主、贖い主であり、神の御子であります。また、万物の創造主であります。すべてのものは主によって造られ、主によらないものはひとつとしてありません。ですから、主のみ名をあがめ、たたえようではありませんか。

私たちが主を愛し、主に仕えることができるよう、また主の戒めを守ることにより主への愛を示すことができるよう、へりくだってイエス・キリストのみ名によりお祈りします。アーメン。





回復された真実の教会

七十人第一定員会員
マリオン・D・ハンクス

ア イスルキヨウダイシマイノミナサマ,
アリガトウゴザイマス, シンセツ。ア
リガトウゴザイマス, ウツクシイオハナ。
アリガトウ。

私は今朝、回復されたこの教会が真実の教会であることを証したいと思います。この時満ちたる神権時代に、主は予言者ジョセフ・スミスを通して次のような啓示をお与えになりました。

「神の王国の鍵はこの世の人の手に委任され、福音はここより転じ行きて世の果にまで達せん。あたかも人手によらず山より切り出されたる石の転がり出でて、ついに全世界に充ち満つるが如し。」(教義と聖約65:2)

この啓示にあることをすべて成就させるために、神の器として、また予言者として立てられたのがジョセフ・スミスです。長年にわたって大勢の人々が、このジョセフ・スミスという人物とその業績を説明しようと試みてきました。何年か前のことですが、イギリスで他の教派のひとりの聖職者が興味ある言葉を書いています。この人は長年の間ジョセフ・スミスの業績について研究した結果、ジョセフが自分の理解を越えた人物であることを認めざるを得なくなりました。こう書いています。

「モルモニズムに対する最大の問題とは、ジョセフ・スミスのように学問のない者がどうしてあのような素晴らしい考え方や、様々な原則を発明することができたのか、しかも多くの歴史的事実を踏まえ、壮大な想像力を駆使しなければ生まれて来ない事柄をどうして生み出すことができたのか、その上彼がそれらを書き残す時に、どうしてあのように明らかに文化的背景を異にする文体を使うことができたのか、ということである。」また彼はこうつけ加えています。「一方、彼に敵対する者が、あれは作り話にすぎないと言っているが、そういうことでは今述べた問題の答えにはならない。というのは、それが、ジョセフ・スミスのように無学の者がなぜあのような素晴らしいシステムを作り得たかという問い合わせに対する説明となっていないからである。このことは、一般に考えられている以上にもっと大きな問題なのである。100年以上もの間語り継がれる作り話を作り出そうとすれば、大変に有能な学者の助けがなければできないことなのだ。」つまり、彼はジョセフ・スミスという人物を理解できなかったのです。ジョセフ・スミスが神の助けを得て行なった業は、並の人間には決してできないものです。いかなる学者といえども、ジョセフ・

スミスがもたらしたものをもたらすことはできません。

数年前のこと、ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアで、ひとりの観光客に若い宣教師が福音を教えました。その観光客は宣教師に深い感銘を受けました。素晴らしい人物だと感じたのです。しかし宣教師が伝えるメッセージは理解できず、従って受け入れることができませんでした。私は彼がその宣教師のことを口にするのを何度も聞きました。大変に立派な人物だったと言うのです。しかし、福音のメッセージは受け入れられませんでした。しかしそ

れからしばらくして、彼はもうひとりの、全く別のタイプの宣教師から教えを聞きました。そして私が決して忘れることのできない言葉を彼は発したのです。これは私たちすべてが記憶すべき言葉でもあります。彼の目には涙があふれていきました。心の琴線に触れるものがあったのでしょう。彼はこう言いました。「宣教師のせいじゃないんですね。宗教そのものがこういう気持ちにさせるのですね。」

その宗教こそ私たちが信奉する福音です。ジョセフ・スミスは確かに主のみ手にある最も高貴な器となったのです。そして最も



大切なことは、ジョセフ・スミスが予言者としてメッセージを教えたということです。そのメッセージとは何でしょうか。

イエスは、導きと教えの業をお始めになるにあたり、荒野に40日間お入りになり、誘惑をお受けになりました。その誘惑は、私たちすべてが受ける誘惑を代表するものです。

空腹の時に物を食べて自分自身を喜ばせること。

人前で奇跡を行なうことにより人の注目を集めること。

この世のすべてのものを得るために悪魔を喜ばせること。

イエスはこのすべての誘惑を退けることによって伝道の備えをし、ガリラヤのナザレに行かれました。そして会堂で教えを説かれました。イエスは、私たちが今学んでいる旧約聖書を開いてその中からひとつの聖句をお読みになりましたが、その言葉は、新約聖書のルカによる福音書4章18節に記されています。

「主の御靈がわたしに宿っている。貧しい人々に福音を宣べ伝えさせるために、わたしを聖別してくださったからである。主はわたしをつかわして、囚人が解放され、盲人の目が開かれることを告げ知らせ、打ちひしがれている者に自由を得させ、主のめぐみの年を告げ知らせるのである。」

これは私たちの使命です。キリストからジョセフ・スミス、そしてこの回復された教会を指導する者としてジョセフ・スミスの後を継いだ一人一人の予言者に至るまで、すべての人が私たちにこれと同じ使命を強調してきました。私たちはこの召しをどのようにして果たすことができるでしょうか。

真理を教えましょう。その真理とは、神

が私たちの御父であり、その御父に似せて私たちが造られたということ、またイエスが神の御子であり、私たちを愛するが故に十字架におかかりになったということ、さらに私たちが神の息子、娘であるということです。また人生の目的と永遠の生命について真理を教えるのです。もしも私たちが自分が何者なのかがわかれれば、自分がだれにつく者なのか、そして与えられた使命が何なのかを理解することができるでしょう。

この宗教で私たちが教えなければならないものは、まだほかにもあります。すなはち私たちは、幸福な人生の送り方というものを模範を通して教えなければならないのです。それには互いに兄弟姉妹として接し、神が定めた方法で結婚して互いに愛し合い、堅固で誉れある家庭を作り、罪を悔い改めて心と体を清めることにより靈性を増すようにしてなければなりません。確かにこの宗教は、どのような生活を送らなければならないかを教えてくれるのであります。

もうひとつ大きな祝福があります。それは、福音の原則が真実であることを、私たちが自分自身で知ることができるということです。私たちは、これこそが主が私たちに望んでおられる生き方だということを、自分で知ることができます。

イエス・キリストは私たちの救い主です。ジョセフ・スミスは、福音と教会と神権を回復する器として主に選ばれました。またキンボール大管長は、現時点において、この地上において再び人類に託されたすべての鍵をお持ちの方です。福音が伝えるメッセージは真実です。私はそのことを証します。イエス・キリストの聖なるみ名によりお話し致しました。アーメン。



家族を強めなさい

十二使徒評議員会会長
エズラ・タフト・ベンソン

愛する兄弟姉妹の皆様、私たちはこの5
日間、忘れ得ぬ時を過ごしてきました。
愛に満ちた、思い出に残る日々でした。き
ょう皆様が帰宅される時、家族は永遠に存
続するものであるとの確信を強くしてお帰
りいただきたいと思います。

皆さんは月曜日の家庭の夕べの時に、神
殿が献堂されたこと、素晴らしい献堂の祈
りのこと、また主の神殿で家族を永遠に結
び合わせる結び固めの儀式を受ける計画の
あることをお話になることでしょう。

そうです。モルモンの家族は永遠に存続
するのです。

「救いは家族の問題であって、家族は堅
固な基であり、文明の隅石である。国家は
決してその国を築く家庭以上に強くなるこ
とはないし、また教会も教会内の家庭をし
のぐことはできない」と言われますが、こ
れは本当です。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、家族
をこの世においても永遠の世においても最
も大切な組織であると考えています。教会
は、あらゆることを家族を中心にして考
えるように教えています。この世においても
永遠の世においても、家族の生活は他のあ
らゆる事柄以上に優先させるべきものであ
ります。教会は両親が持つ愛と義務を尊重

しています。私たちは、家庭と家族が永遠
に存続することを確信しています。このた
め、教会は最も聖い建物すなわち神の神殿
を建て、私たちが誓約により永遠に結ばれ
る手段を提供しています。私たちは家族が
永遠に存続することを信じています。この
ため教会は離婚を否定しています。父親に
とって最も大切な義務は自分の家庭の中には
あることを私たちは教えています。母親は
家庭において全時間母親としての務めに専
念するよう、私たちは教えています。両親
は子供たちに福音の基本原則を教えて下さ
い。そうすることによって、神を信じる信
仰、家族への信頼、国家に対する信頼を子
供たちの心に植え付けることができます。
いかなる組織も家族に取って代わることは
できませんし、その大切な役割を代行する
こともできません。

きょう、私は家庭と家族の問題についてく
どくど話すつもりはありません。御存知の
ように、昨今は離婚が非常に増えています。
家庭と家族の崩壊は増加の一途をたどって
います。秩序ある家庭の代わりを務め得る
ものはこれまでありませんでした。また、
今後もそういうものは現われないに違いあ
りません。国家を存続させるには、家庭を
守り、強めなければなりません。

では皆さんの家族を強めるにはどうすればよいのでしょうか。どんなことができるでしょうか。私たちがもっと注意を向ける必要のある基本的な事柄があると思います。家庭を強めるために今すぐ実行できる5つの簡単な事柄を提案したいと思います。

第1に、両親の皆さん、家庭でもっと多くの時間を過ごして下さい。教会の若人は物的な満足だけでは心が満たされません。母親に代わることのできる人はいないのです。母親のように子供の世話をできる人はいないのです。育児という母親の神聖な務めを妨げるようなことを母親に求めてはなりません。神の目に良しとされる忠誠として第一に尽くすべきものは、教会と家族に対する忠誠です。母親の皆さん、まず御自分の家族の必要を満たすために全力を尽くすことが、社会と国家に対する最良の貢献なのです。

父親の皆さん、たとえ仕事の上で成功しても、家庭で失敗するならば、すべては失敗したことになるのです。

以前のことですが、私はある実業家が、クリスマスに16歳の息子に送った手紙の話を読みました。この人は、息子のために何でも買ってあげられるような人でした。けれども、クリスマスの朝に息子が起きて、いつもプレゼントの置いてある暖炉の所へ行くと、彼の名前が記された封筒が置いてありました。そこで少年が封筒を開いてみると、次のように書いてありました。

愛する息子へ

週日に毎日1時間、そしてもし望むならば日曜日に2時間、どんなことにも邪魔されない時間をプレゼントします。

愛をこめて
父より

私はこれを読んだ時、次のように考えました。何と賢い父親だろうか、そして何と幸せな息子だろうかと。

そうです。これこそが若人の必要としているものなのです。

第2に、毎日家庭で礼拝を行なって下さい。私は、讃美歌を歌い、聖典を読み、毎日家族の祈りを捧げるようお勧めします。

一日の行動を検討し、順番に聖典、特にモルモン經を読む時として食事の時間は絶好の時です。

第3に、人生の問題について親としてもっと教えを与えるようにして下さい。性の問題、友人との関係、デートの問題、若人を襲う多くの誘惑について教えて下さい。この責任を回避している親があまりにも多いようです。この教育は学校に任せっきりにしておいてはなりません。これを最もよく教えることのできる場所は家庭です。このように子供たちを教え導く時、親子の愛と信頼が深まることにあなたは気づくことでしょう。

数年前、教会はすべての両親に対して、毎週家庭の夕べを開くように勧めました。日曜日の夜を家族が集まる夕べとして、他の日と区別し、教会の活動や約束を設けないように指示しました。父親と母親は息子、娘たちを家庭に集めて、祈りを捧げ、讃美歌やその他の歌を歌い、聖典を読むのです。家庭の夕べは家族の問題を話し合い、個人や家族の才能を確認するのに好い機会です。家庭の夕べは、福音の原則を教える時であり、ゲームやリフレッシュメントを楽しむ時です。

音楽について少しお話したいと思います。讃美歌やその他、人の心を打つ歌を歌うことにより、子供たちに人生の神聖な事柄を理

解させることができます。子供の音楽教育をトランジスター・ラジオやロック音楽に任せきりの親があまりに多過ぎます。当然のことながら、これには子供の人格形成に対して好ましくない副作用が伴います。良い音楽は家庭生活を豊かにします。

この才能発表の最も大切な点は、子供たちがほかの人々の前で恥ずかしがらずに発表できるようになるという点にあります。

そうです。子供たちは家庭で正直、愛、協力について学ぶのです。家庭の夕べと福音の勉強の時間を通じて、子供たちは、安息日を聖く過ごすこと、正直に什分の一を納めること、道徳的に清い生活を送ることなどの基本的な戒めを学ぶのです。

毎週家庭の夕べを開く人々には、次のような祝福が約束されています。

「もし聖徒たちがこの勧告に従うならば、偉大な祝福がもたらされることを私たちは約束します。家庭に愛があふれ、両親に対する従順な態度が培われることでしょう。イスラエルの若人の心に信仰が育まれて、彼らを襲う悪い影響力や誘惑に立ち向かう力を得ることでしょう。」（大管長会、1915年4月27日、*Improvement Era*「インプレーブメント・エラ」18:733-734）

第4に、家族として一緒にいろいろなことを行なって下さい。家族のレクリエーションや文化活動を家族全員で行なって下さい。一緒に休日を楽しみ、一緒に働き、良い映画の観賞を家族全員で行なって下さい。毎週、何時間かは、家族が一緒に楽しむことのできる時間を計画して下さい。そうすれば、大きな祝福がもたらされることでしょう。子供たちは両親である皆さんと子供たちお互いに対して感謝の気持ちを持つことでしょう。



私は父親であると共に、祖父でもあり、曾祖父でもあります。私の最も楽しい思い出は、自分の子供や孫や曾孫と過ごしたひとときの思い出です。

第5に、親子の関係をもっと親密なものにして下さい。これは、これまで申し上げた4つの事柄と密接な関係があります。若

人は、父親、母親ともっと親しく、しばしば交わることを必要としています。このことに代えられるものはありません。

子供たちが話したがっている時に、それに応じて下さい。子供たちが幼い時に話し合う時間をとって下さい。そうすれば、大きくなつてからも子供たちは皆さんのもとへ来るものです。子供たちも話す問題によく耳を傾けて下さい。子供たちに、毎日、信頼していることを感じさせて下さい。子供たちをやさしく見守り、愛していることを伝えて下さい。子供たち一人一人に、その子供だけの何か特別な思いを伝えて下さい。

忙しい父親にとって子供たちが休む前の時間は非常に貴重です。子供たちの枕元へ行って、一人一人と話し、質問に答え、どれほど愛しているかを子供たちに伝えて下さい。子供たちが両親を敬い、両親が子供たちを愛すること、これが家庭を天国の一部とするのです。

今すぐできる簡単な事柄を5つあげます。

第1は、家庭でもっと多くの時間を過ごすことです。

第2は、家庭で毎日、家族の礼拝を行なうことです。

第3は、人生の問題について、親として教えを与えることです。

第4は、家族として一緒にいろいろなことを行なうことです。

第5は、親子の関係をもっと親密なものにすることです。

日本の聖徒の皆さん、私たちの家族を強めようではありませんか。

皆さんの家族関係は次の詩のようでしょうか。

「私たちはみなここにいる。

お父さん、お母さん、お姉さん、弟、みんな愛し合っている。

だれひとり欠ける者もなく、家族みんながそろっている。

この夕べに、冷たいすき間風と共にやって来る、不意の訪問者はありません。

古い暖炉を囲むこのひとときが、みんな大好きです。

どうかこの集まりと場所を祝福して下さい。世のわざらいはここにはありません。おだやかな平安に包まれ、親しみ込めた愛の思いがこのひとときを支配しますように。

家族はひとり残らず、ここにいます。」

神は家族を永遠に存続するものとして定められました。私は全身全霊をもって、この言葉が真実であることを証します。願わくは神の祝福により、私たちが家庭を強めることができますように。願わくは私たちの家族が一つに結び合わされて、やがて時が来た時に、私たちがひとり残らず、お父さん、お母さん、お姉さん、弟、全員が愛を込めて支え合ってきたことを天の御父に報告できますように。だれひとりとして欠ける者がなく、全員がふるさとにもどったことを。

神の祝福があって、どうか私たちが家庭を強めることができますように。どうか、私たちすべての家族の愛と一致がこの世を越えて、絶えることなく保たれますようにイエス・キリストのみ名によりお祈りします。アーメン。



福音を教えるための 主のプログラム

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

愛する兄弟姉妹、私が話す間皆さんと共に祈って下さるように、また私たちの上に主のみたまがあるように願っております。

福音を教えるための主のプログラムについて、2、3述べてみたいと思います。

福音とは、今この世にいる神の靈の子供たちが皆主のみもとに帰ることができるようにするための、主御自身の計画です。

この地球の創造に先立って、主は靈界で、やがてこの世に生を受ける機会を与えられるはずのすべての靈の子供たちに、この計画を説明されました。皆さんすでに御存じのことですが、この計画を示された時、神の靈の子供たちの3分の2はこれを受け入れました。しかし、残る3分の1の靈たちはこれを拒んだのです。今この地上に生きている人々はもちろん、かつて地上に生を受けた人々、またこれから生まれてくるすべての人々は靈界でこの計画を受け入れていたのです。私たちが今ここにいるという事実は、私たちがそれを受け入れたということのしるしです。

主はこの計画に引き続き、私たちの父祖アダムを通して靈の子供たちを地上に送ることを始められました。すべての人がそうであるように、アダムも前世においてはこ

の計画を知っていました。しかし、現世に来ると共にその記憶を取り去られたのです。アダムを初めとする地上に生を受けたすべての神の子供が福音を学ばなければならぬ理由はここにあります。すべての人は現世において福音を学ぶ権利があります。福音の知識を持たずに、また福音に従わぬで救われる人はひとりもいないからです。主は3つの面から成るプログラムを立てられました。それを通して人々を教えるためです。まず第一は、この世の人々にその計画を知らせる責任は主がとられるということです。主は御自ら、また天からみ使いを遣わして、アダムとイヴにその計画をお教えになりました。主はふたりに完全な計画を教えられました。そしてアダムから今日に至るまでそれを繰り返してこられたのです。新たに主はエノクに福音を教え、ノア、アブラハムへも伝えられました。時の絶頂の時代には主御自身がこの世に来られ、人々に教えを説かれました。また主とみ使いはそれをシェレド人、ニーファイ人にも教え、この最後の神権時代には、主御自身と天父がジョセフ・スミスを訪れてその姿を示され、天からみ使いと啓示を送って再びその計画を明らかにされたのです。

さて次は、福音を教えるための主のプロ

グラムは両親の肩にかかっているということです。主はアダムとイヴに、御自身が教えた福音を子供たちにも教えるようにと特にお命じになりました。そしてふたりはその通りにしたのです。聖典には、ふたりは子供たちに「すべての事を知らしめたり」（モーセ5：12）と記されています。しかし、かの悪魔がアダムとイヴの子供たちの中に来て「信ずるなかれ」と言ったのです。その結果、多くの者が信じないようになり、「人はその時より、肉体、肉欲、悪魔に従う者となり始め」ました。（モーセ5：13）

主はあらゆる時代に予言者を通して、子供たちを教えるようにと命じてこられました。主は、アブラハムを知っており、アブラハムがその子供たちに教えていくことも知っていると言わされました。主がアブラハ

ムにそのような大きな祝福と約束を授けられたのは、いずれにしてもアブラハムがある程度、行ないを示していたからなのです。

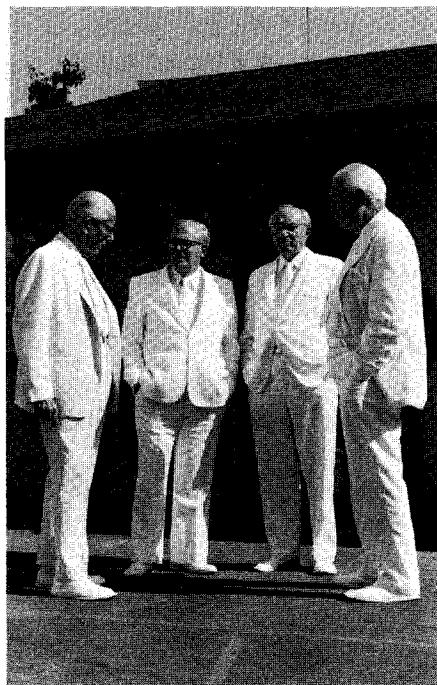
この最後の神権時代に、主は両親たちに子供を「光明と真理の中に」（教義と聖約93：40）導くよう言われました。そして、ジョセフ・スミスを初めとする指導者の兄弟たちを、命ぜられたままに子供を教えなかったことで叱責されました。

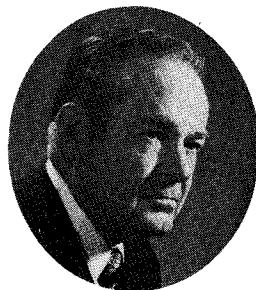
つまり、人々に福音が伝えられるには、主が予言者や他の義しい人々にそれをあらわし、両親がその子供たちに教えることが必要なのです。

福音を教えるのに必要な三番目の事柄は、神権者の働きです。主は神権者に「各会員の家庭を訪れ、彼らが声を擧げてもひそかにても祈りをなし、またすべて家庭の務めにいそしむように勧め」よと命じておられます。主はそのためのプログラムを教会の中に定められ、ここ数年は特にこのプログラムを強調しておられます。聖徒たちに福音に従順な生活を送るように励ます、このホームティーチングと呼ばれるプログラムを進めていくのは、神権者です。

主は大管長会を通して、私たちが家庭の夕べと呼んでいるプログラムも定められました。この家庭の夕べでは、週に一度、家族をひとつに集め、福音を教えます。

以上述べてきた事柄が、私たちが果たしていかなければならない責任です。私はこの席で話してきたことが真実であると証すると共に、もし皆さん方がそれぞれに責任を果たされるなら、皆さんと皆さんとの子供たちとは救いを受けると約束いたします。皆さんがこれらのことを行なうように、贖い主、イエス・キリストのみ名を通してお祈りします。アーメン。





いざ救いの日を楽しまん

七十人第一定員会会員

W·グラント・バンガーター

兄 弟姉妹の皆様、私が子供の頃には、日本人にはめったにお目にかかりませんでした。またその頃の私にとって、日本人とは、海の彼方に住む奇妙な国民でしかありませんでした。それに私たちとは違った、まるでわけのわからない言葉を話します。

ですから子供の頃の私は皆さんをきっと怖がっていたと思います。皆さんがそばに来たらきっと一目散に逃げたことでしょう。これと同じ思いを、私たちはレーマン人やメキシコ人に対して抱きました。またギリシャ人やイタリア人に対しても同様でした。

高校時代の頃のことですが、私はヘンリー・モリシタという人と知り合いになりました。彼は学校で一番のフットボールプレーヤーでした。それから後、いろいろな日本人の方とお会いするようになりました。その中のひとりが、農業を営んでいたユーカス・イノウエという人でした。私は彼がその器量を高めて立派な指導者になるのをこの目で見て参りました。彼はありきたりの人間でいることに満足せず、自分の能力を常に伸ばして、様々な事業に成功を収めました。そして、ユタ郡の地方自治体の長になったのです。私たちは長い間近所づきあいをしてきました。彼は私たちのステーク部では高等評議員の職にありました。そ

して今、皆様の神殿の第一副神殿長を務めています。私にとって、彼は愛する兄弟であり、親しい友人です。私は彼と顔を合わせても、もう逃げたり隠れたりしません。もっとも彼が話す言葉は、いまだもって私には奇妙に聞こえます。

また私は、アドニー・小松長老、菊地良彦長老というふたりの方々に、偉大な信仰とみたまの力を感じます。おふたりは、教会の七十人第一定員会に大きな影響力を及ぼし、謙遜と献身の偉大な模範を示して下さっています。私は以上述べたような方々を通じて、日本人の方々に賛嘆の念を持つようになりました。私は、日本人の方々が勤勉な、しかも活力にあふれた方々であることを知っています。皆様は秩序を重んじる方々、生まれながらにして丁重さを身につけた魅力あふれる方々です。皆様がこの地上の民の中で最も偉大な民に数えられることには、疑いの余地がありません。

こうしたことについて考える時、エペソ人への手紙の中の一節が、大きな意味を持ってくるのです。

「そこであなたがたは、もはや異国人でも宿り人でもなく、聖徒たちと同じ国籍の者であり、神の家族なのである。」(エペソ2:19)

私の今回の日本滞在はほんの短期間ですが、この美しい国を去る時にはきっと涙がこみあげてくることでしょう。

神権者の群れの中で管理の職に就くということは、私にとって靈的に大変な重荷です。22年前に伝道部長としてブラジルに行った時のことです。教会員数は3千人足らずで、教会管理の重荷を共に担ってくれる人はほとんどいませんでした。私は地球の半分の重さが両肩にのしかかってきたように思ったほどです。しかし今日、ブラジルには10万の教会員がいて、地元から地区代表やステーキ部長が召されています。また伝道部長も地元の人です。それに神殿があり、神殿長会も地元の会員から召されました。さらに、他の国々へ向けて宣教師を送り出しているのです。彼らは神の民です。奇しきみ業が彼らの中に展開しているのです。

同じことがここ日本の地にも起こりました。忠実な家族と偉大な指導者とを持ったこの民の群れは一体どこから来たのでしょうか。

うか。ある人々は、世界は無から作られたと言います。しかし私たちは、主がこの世界を創造される時に言われた言葉が真実であることを知っています。主は「これらの材料をとりて」(アブラハム3:24)と言われました。ここ日本の地において神の王国を確立する材料は、皆様方の内にあります。必要なのは、その材料を見いだし、組織することです。東京にはまだ組織されていないステーキ部がどれだけあるか、わかっている人はいるでしょうか。ベンソン会長は過ぐる日曜日に、新たにひとつのステーキ部を東京の地に見いだしました。十二使徒のハワード・W・ハンター長老は4年前、メキシコ・シティーで、1日に12のステーキ部を「発見」しました。そうです。東京には新しいステーキ部は25も50も潜在しているのです。ペテロは次のように述べています。

「あなたがたは、以前は神の民でなかつたが、いまは神の民であり…」(Iペテロ



2:10)

すべての教会員は、神の民を生者、死者を問わず主の前に確立するという召しを持っています。では、私たちはなぜ神の民となることを望むのでしょうか。それは、祝福があるからです。皆様はどのような祝福をお望みでしょうか。裕福になって経済的な問題から逃れることでしょうか。そうであれば、監督のもとに行って借金を求めることはしないで下さい。ある地域で、19の家族が事業を始めるために借金をしましたが、全部失敗してしまいました。このように、監督から借金をして始める事業は失敗します。事業で成功したければ自分の一を納め、借金をしないようにすることです。皆様は健康な体を持ちたいとは思いませんか。そう思うならば知恵の言葉を守ることです。離婚して教会に背きたいとお思いの方はいらっしゃるでしょうか。そうしたい方は、情欲をもって禁じられているものに目をとめるようにして下さい。神を信じる家族と共に愛ある家庭を築きたい方はどうでしょうか。その方は毎週家庭の夕べを開き、子供たちに祈ることを教えて下さい。そして、この世のものをすべて捨てて神の民の群れの中に入りたいとお思いの方は、どうぞ予言者の声に耳を傾けて下さい。必ずしもすべての教会員が予言者の言葉を記憶しているわけではありません。この大会で予言者は何を言われたでしょうか。まず宣教師となるように、次いで神殿に参入するように、そして子供に福音を教えるように言われました。

また私はキンボール大管長とお近づきになって久しいのですが、私の半生において私に最も大きな影響を与えた人は大管長ではありません。このように言いましても、

大管長は気分を害されないと思います。私の人生に最も大きな影響を与えた人、それは父と母です。その影響力は他のすべての人の影響力を合わせたものよりも大きいものです。こう申し上げて、妻が気分を害さなければよいと思っています。

またキンボール大管長は、少年はすべて伝道に出るべきであると言われました。またきょう、大管長は「歩みを速めるように」と言われました。さらにピーターセン長老は、昨日の宣教師大会で、イザヤ書第2章の言葉に心を留めるように言われました。

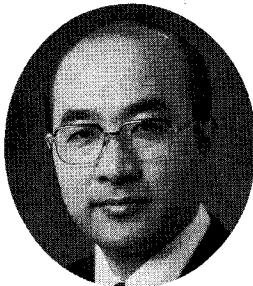
「終りの日に次のことが起る。主の家の山は、もろもろの山のかしらとして堅く立ち、もろもろの峰よりも高くそびえ、すべての国はこれに流れてき、

多くの民は来て言う、『さあ、われわれは主の山に登り、ヤコブの神の家へ行こう。彼はその道をわれわれに教えられる、われわれはその道を歩もう』と。律法はシオンから出、主の言葉はエルサレムから出るからである。」(イザヤ2:2-3)

これは偉大な聖句です。この聖句には万感の情が込められているのです。あたかも予言者イザヤが私たちに、この世の未来の行く末を示現を通して示してくれているようです。きょう、日本の民の間でこの予言が成就しました。神殿の建立と共に、永遠の完き福音が日本の地にやって來たのです。

いざ救いの日を楽しまん
もはや迷うことはなし
よきおとずれは世にひびき
あがないの日は近づく

イエス・キリストのみ名によりお話し致しました。アーメン。



日本に宣言された祝福

七十人第一定員会会員
菊地 良彦

愛する兄弟姉妹の皆様、そして宣教師の皆様、この歴史的な教会の150年祭にあたる今年、この日本の地に住む私たちは、天のお父様から数え上げられない程の豊かな祝福をいただいています。その中でも神殿を与えられたことは特別な祝福です。これはこの国で伝道が開始されて79年目に与えられた神様からの祝福です。

後に大管長となった、ヒーバー・J・グラント長老が、キリスト教国でないこの日本の国を最初の宣教師たちと一緒に訪れるため、ソルトレーク・シティーを発ったのが、79年前のことです。

私たちは18番目の主の宮居を天のお父様からいただきました。愛するスペンサー・W・キンボール大管長によって、今週の月曜日に、天のお父様に、この「神の宮居」を奉獻していただきました。日本人はもちろんのこと、アジアに住む数多くの人々に祝福が与えられるようになりました。

兄弟姉妹の皆様、韓国の兄弟姉妹たちがその国に神殿が建てられるまで、御夫婦で、この東京の神殿においてになれるよう、是非、お祈りしていただきたいと思います。

ヒーバー・J・グラント長老は、1901年7月24日にソルトレーク・シティーを出発しました。その日は、開拓者たちがソルト

レーク盆地に到着したことを祝う54周年記念日でした。町の人々は喜びに胸をはずませていました。町は霊的な雰囲気に包まれていました。その中で多くの教会幹部はグラント長老とその一行を見送りました。

彼らが日本に着いたのは、1901年8月13日でした。私たちは今、天のお父様から「最も輝かしい祝福」を受けようとしています。そして現実に今、その最も素晴らしい祝福を受けるために、天のお父様から神殿をいただきました。

グラント長老は靈感に満たされて、日本の国民に次のようなメッセージを述べています。私はその一部をここでお読みしたいと思います。

「我々は皆様方に値の知れぬ大切な祝福を差し上げます。それは世のものではなく、生ける真の神が威厳と栄光の中に住みたまゝ、支配されておられる天との祝福であります。皆様方の先祖は良いものを受け、善を行なうよう導きを受けて参りました。それは靈妙に輝くかすかな光に似ておられます。我々が皆様にお伝えするのは完全な真理の光、光の源であられる偉大な御方からの教えなのであります。この光と真理を受け入れ、永遠の神の御前に通じる唯一の道を歩んで下さい。かようにすれば、皆様の心は

平安と愛と喜びに満たされ、あらゆる国々の偉大で高潔な人々とひとつになる方法を知ることができるでしょう。」("Address to the Great and Progressive Nation of Japan" *Millenial Star* 『発展途上にある偉大な国、日本に対して語る』「ミレニアル・スター」

1901年9月26日、pp. 625—27)

グラント長老は、私たち日本人にこのように言われたのです。

ああ、私たち日本の聖徒たちに今注がれようとしている祝福は、何と栄光に満ちていることでしょう。

このグラント長老が予言なさった「大いなる光と真理」は、キンポール大管長が献堂なさった神殿で、今まさに、私たちに与えられようとしているのです。

グラント長老は続けて次のように言っておられます。

「あらゆる人々が、さらに大いなる光と真理の現わされる時代を待ち望んでいました。我々は皆様方に宣言します。大いなる啓示が下されたと。我々はこの啓示を皆様方にお伝えするために、いと高き所より命を受けて参りました。」



私は今、この薄い、極めて薄い幕の彼方におられるヒーバー・J・グラント大管長に感謝を申し上げたいと思います。

グラント大管長、そしてその一行の方々、薄い、それはそれは薄い幕の彼方においてになる皆様方、そして永遠の父なる神様、そしてイエス・キリスト様、そしてここにおいてになる教会の偉大な、靈的な指導者の皆様に、私は日本人を代表して、また全アジアの民を代表して、ありがとうございますと申し上げたいと思います。

兄弟姉妹の皆様、私たちは、今週の月曜日から、この予言が成就したのを目のあたりに見てきました。神殿の完成を見ました。

おお、何と、何と主の愛の深いことよ。おお、何と、天の御父の愛の深いことよ。おお、何と、教会の立派な指導者たちの愛の深いことよ。

グラント大管長はじめ、たくさんの人々の犠牲によって捧げられた「さらに大いなる光と真理」が現わされるに至った今日、兄弟姉妹の皆様、皆様はこの「大いなる光」と「大いなる真理」の素晴らしい恵みをどのように心得、どのように御自分の生活の中に取り入れようとしておられるでしょうか。

夫婦の絆を強くしようではありませんか。

指導者が言われたように、家庭の夕べを熱心に開こうではありませんか。

熱心に、それはそれは熱心にお祈りしようではありませんか。

たくさんの指導者がお勧め下さるように、真面目に聖典を学ぼうではありませんか。

若い兄弟姉妹、神の宮居に入れるように努力しようではありませんか。いかなる世の汚れにも染まらないように、世の汚れに「絶対」染まらないように清くあって下さい。

系図を調べましょう。神殿を訪れますよ

う。

私たちの愛を、日本人に、またアジアの人々に対して愛を深めましょう。

什分の一を納めましょう。

知恵の言葉を守りましょう。

断食献金を納めましょう。

大管長の神殿の献堂の祈りにあったように、日々の生活の中で熱心に、この与えられた素晴らしい祝福を人々に伝えるように努めましょう。

私たちが利己的な思いをもって私たちの中にこの福音を包み込んでしまう時、私たちはその福音を失ってしまうと、教会の指導者は言っています。福音を「熱心に分かち与えようと努力する時に、私たちは福音を守る」ことができると、モンソン長老は言っておられます（*Ensign*「エンサイン」1977年10月号, p. 11）。

もう一度私はこの席をお借りして、ランサー・W・キンボール大管長に、ありがとうございます、ありがとうございますと申し上げます。そしてロムニー副管長、ベンソン会長、ピーターセン長老、ヒンクレー長老、ハンクス長老、バンガーター長老、小松長老、その他の教会幹部の皆様、スミス姉妹、キャノン姉妹、その他大会の準備をして下さった方々、またデモンテ・クムズ兄弟に感謝を申し上げます。田中長老をはじめ、用意を整えて下さった方々に感謝申し上げます。

また、この2週間半の間、陰でお祈りして下さったキンボール姉妹はじめ、他の教会幹部の姉妹の皆様に感謝申し上げます。

この祝福を忘れないようにしましょう。イエス・キリスト様は本当に生きておられて、私たちにもっと主のみ業に励みなさいと述べていらっしゃいます。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



教会の出する国

十二使徒評議員会会員

ゴードン・B・ヒンクレー

二 んにちは。兄弟姉妹の皆さん、きょうこのようにして皆さん方と共に集うことができたいへん光栄に感じています。この素晴らしい特権に心から感謝したいと思います。約20年前、私は大管長会からアジアの地域における教会のみ業を管理する責任を受けました。そして日本の多くの場所で教会員の方々に繰り返し話をしてくれました。そして私こそこの日本の地で起こった奇跡の証人であると申し上げます。私は今でも日本の初期の教会の姿をはっきりと覚えています。私は日本各地に広がる教会のすべての支部を訪問しました。南は沖縄の那覇から、北は札幌、小樽、室蘭、旭川に至るまで訪問しました。そして私たちは小さな家で集会を開きました。教会の手で正式に建てられた集会所はどこにもありませんでした。教会員は少なく、福音の知識も乏しい、いわば子供のような存在でした。多くの人が教会に入り、そして信仰を失って去って行きました。しかし、これまで大勢の人々のたゆみない努力によって、かなりの数の教会員が信仰を保ち続けてきました。男女を問わず彼らの信仰は犠牲と不人気という火の中で試されてきました。今日、こうして皆さん方の顔を拝見致しますと、感謝の気持ちで一杯になります。皆さんが果

たして下さったことに心から感謝したいと思います。皆さんの信仰と努力に感謝します。皆さんは多くのことを成し遂げられました。皆さんは喜んで自分の財産を捧げました。主のみ業のために自分の才能を惜しみなく捧げてきました。

私の心は喜びで満ちあふれています。神殿の獻堂式やこの大会で聖歌隊の素晴らしい歌声を聞き、またこの壇の前に飾られている美しい花をして、この国の民が持っている芸術の才に感謝せずにおられません。

先程、菊地長老はグラント大管長がその一行と日本の地を訪れた時のことをお話になりました。グラント大管長はかつてこのように記しています。

「私には、この伝道部が教会の中で最も成功した伝道部のひとつになるという搖るぎない確信がある。最初はゆっくりとした歩みかもしれない。しかし刈り入れは偉大なものとなり、やがてそれは世の人々を驚かすものとなるであろう。神がそのみ手をこの国の上に注いでこられたからである。」

私は、グラント大管長がこの言葉を述べた時、予言者として語られたことを信じています。今、この日本の地には約5万人の末日聖徒がいます。私はこの大きな会場の

上に掲げられている国旗を見上げていました。この国旗に象徴されるように、この国はまさに「日出する国」で同様に私は、この国が「教会の出する国」であると感じています。

そこで今日ここに集っている皆さんにひとつチャレンジを差し上げたいと思います。私は5年前にこの地を訪れた時、神殿が建設されるまでに教会員が5万人になるよう努力して欲しいと申し上げました。しかしほんのわずか及ばなかったようです。現在、教会員数は48,627名だと聞いています。一問一ただ今菊地長老が、今月その5万人を達成したと教えて下さいました。(笑い)スバラシイ!兄弟姉妹の皆さん、本当に素晴らしいことです。

では、今から5年後のことについて考えてみましょう。その時、日本の教会員は10万人になるでしょう。そうするためにには、毎年1万人の教会員が増えればよいわけです。私は、皆さん方がそれ以上にできると思います。皆さん方が必ずそれ以上のこと達成することを知っています。またそうできることを確信しています。また主の祝福があって、皆さんはそれ以上のこと達成できると思います。

私の好きな聖句のひとつに、第IIニーファイの第29章の聖句があります。その第7節で、主はニーファイを通して次のように言われました。

「国民は一つより多くあるを知らずや。汝らの神にして主なるわれが万人を造りしを知らずや。またわれが海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずや。」

このように主は、将来に関する約束をされた時に海の島々のことに触れられましたが、私には日本がその島のひとつに入つて

いたのではないかと思えてなりません。日本は海の島々から成る国です。文字通り多くの島々からなる国です。主が海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずやと述べられた時、私は主が今日の皆さんのことと述べられたのだと思います。

兄弟姉妹の皆さん、今日は日本の教会歴史における大いなる日です。昨日、私たちは日本で働く1500人の宣教師に会いました。そのうち1200人は海外から来た宣教師です。私はそれを見て、これは何と素晴らしいことだろうかと思いました。この独立国家日本に、1200人の宣教師が自由にやってきて生活し、回復されたイエス・キリストの福音を教えているのです。日本の政府はこのみ業に対して何の制限も加えていません。この国のお客として自由に入国することを許しています。これは本当に素晴らしいことです。今日は世界の平和の日、私たちの国、皆さんの国にとって平和の訪れる日です。今日こそ、私たちの頭上で平和の光が輝く間に歩みを速める時です。私はこのような状態がいつまでも続くように願っています。しかし、私たちはこのことを十分に認識してみ業に励む必要があります。その機会に応えて一生懸命に働くなければなりません。その機会は私たちの前に横たわっているのです。私たちはこの国に住むすべての民にこの福音を宣べ伝える責任を負っています。この国にはイスラエルの血が流れています。初期の時代、グラント大管長はこう記しています。

「この国の民の血管の中にはリーハイの血が流れている。」以前、私はイスラエルの血をひく民が日本にいると思うかと尋ねられたことがあります。私は、何の疑いもなくそう思うと答えました。私はこの民の改

宗の奇跡をこの目で見、イスラエルの血を引く人々がここにいることを確信するようになりました。

兄弟姉妹の皆さん、私たちの前に横たわっている将来に目を向けながら、主が愛し

ておられるこの国にシオンを築こうではありませんか。私は皆さんにこう提案したいと思います。来年の8月に、伝道部、ステーク部の全会員が、80年前日本を訪れた宣教師を記念する日を祝うようにして下さい。



そしてその日を迎える備えとして、ここに集っておられるすべての人々、また皆さんに影響を与えることのできるすべての人が、この素晴らしい書物を読むように提案致します。日本の民についての約束が記されているこのモルモン經を読んでいただきたいのです。これが、私が皆さんにお願いしたい第1の備えです。

第2に、すべての成人会員は神殿の推薦状を受けるにふさわしくあってもらいたいということです。私が今ここにもっている神殿の推薦状は、私がこれまで手にしたどのクレジットカードよりも価値あるものだと思っています。なぜならば、この推薦状は私が主の宮居に入る資格を与えるものだからです。これが第2の備えです。

第3に、祈りの気持ちで一生懸命努力していただきたいということです。主の導きを願い求め、皆さんに福音を分かち合える人々を捜していただきたいのです。そうすればこの地上ではかでは得ることのできないような喜びを得るに違いありません。主は皆さんを祝福され、さんは他の人々に祝福をもたらすのです。そして多くの人々が教会の中で成長するのを目にする時、心の中に麗わしい快い思いを抱くに違いありません。

兄弟姉妹の皆さん、必ずできます。皆さんにはすでに何ができるかを証明して下さいました。しかし、まだもっと偉大なことが起こるのです。この部会の初めに、聖歌隊が、「恐れず来たれ聖徒」を歌って下さいました。そこで皆さんに申し上げたいと思います。

「恐れず来たれ聖徒 進み行けよ
その旅はつらくとも 恵みあらん

無益な憂いは 扱いて努めよ
されば喜ばんすべてはよし」
(讃美歌23番)

私はこの讃美歌の言葉が真実であることを信じています。もし私たちが期待されるような努力をするならば、主は私たちの必要に応じて祝福を与えて下さるでしょう。私は今朝、イスラエルの民がエジプトから導き出された時の話を読んでいました。紅海の岸辺にたどり着いた時、イスラエルの民は恐れました。後方にはエジプトの軍勢、前方には大海が横たわっていたからです。ひき返せば滅ぼされてしまいます。また前進すれば、大海でおぼれるしかないので。そこでモーセは主に請い願いました。主はモーセに、前進するよう命じよ、と言われました。モーセはそのつえを高く掲げました。すると海はふたつに分かれ、イスラエルの民は救いの道を進んでいったのです。これは現在の私たちについても言えることです。私たちには、そのつえを高くかかげる予言者がいます。そして主は私たちに前進せよと告げておられます。神の祝福があって私たちがこの日本の民の救いのために前進することができるよう願っています。またこの日本の地に主の王国を築き、また私たちが住むこの国に祝福をもたらされるように心から祈っています。そしてこのみ業が真実であることを証し、皆さん方一人一人の上に天の祝福があるように祈り、すべてをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



互いに愛し合いなさい

大管長

スペンサー・W・キンボール

愛する兄弟姉妹の皆様、この素晴らしい地域大会を終えるにあたって、皆様方一人一人に今一度私の深い愛をお伝えしたいと思います。そしてこの大会にお出で下さったことを心から感謝申し上げます。

先程、ヒンクレー長老はこの国でこれまで起こったことについて詳しく話して下さいました。私はこのヒンクレー長老が述べられたことに賛意を表し、提案なさったことに心から従いたいと思います。

本当に忘れがたい栄えある大会でございました。私たちは皆この大会をいつまでも忘れないことでしょう。もう一度私の気持ちを申し上げたいと思います。5年前の1975年8月にこの地を訪れて以来の、この美しい国における教会の発展に私は深く心を打たれています。

5年前、私たちは皆様方に証をさせていただきました。そして本日、さらに多くの証を述べてまいりました。兄弟姉妹の皆様、ここで証されたことがすべて真実であると今一度、皆様方に証したいと思います。

ある教会幹部の方はジョセフ・スミスについてお話をされて下さいました。御存じのように、ジョセフ・スミスが森に入って、祈って以来、偉大なことが起こりました。多くの驚嘆すべきことが起こったわけでご

ざいます。私は、教会員がほんの一握りしかいない時代のこともよく覚えています。当時初めてのステーキ部がアメリカの東部で組織されました。そして、アメリカのロサンゼルスやサンフランシスコで初めてステーキ部が組織された時のことをよく覚えています。この少年が森に入って以来、偉大な驚嘆すべきことが数々、起こってまいりました。ジョセフ・スミスの祈りに答えて、御父と御子が親しく現われたもうたのです。御二方はこの14歳の少年にみ姿を現わし、回復された福音の貴い教えを与えられたのでした。その時以来、全米に数々のステーキ部ができました。そして、今全世界の国々にステーキ部ができつつあります。世界中でたくさんの素晴らしい人々が教会に入っています。今や、神様のみ業は大きく前進しつつあります。その発展の過程を見て、私たちは大きな喜びを感じています。

14歳の少年が森に入って祈ったことで、現在3万を越える専任宣教師が世界各地に出かけて行き、御父の子供たちに福音を宣べ伝えているのであります。

福音は宣べ伝えられ、教会は栄え、人々により主は讃美されていらっしゃいます。神は実に生きていらっしゃいます。イエス・キリストは神の御子であり、すでに栄光を

受けられた御方です。私たちは皆様方とひとつになって、これらの大いなる祝福の故に主に感謝を捧げるものであります。

兄弟姉妹の皆様、皆様の回りに家族を引き付けておくようにして下さい。もしも何か誤解があるならば、それを晴らすようにして下さい。互いに赦し、忘れるようにして下さい。過去の退廃的な気持ちを持ち続けることのないように、また愛と命をそこなうことのないようにして下さい。皆様の家庭を整えて下さい。互いに愛し合い、また自分自身のように隣り人を愛して下さい。本日、教会の幹部の皆様がお話されたように神の戒めを守り、神に近づくようにして下さい。

何回も申し上げるようでございますが、

私たちは皆様方を愛し、また皆様方がこのみ業のために固い決心を持って邁進されていることに心から感謝しています。神の祝福が皆様の家庭に、家族に、子供さん方に、また皆様の行なうすべての事柄の中にありますように祈っています。それぞれの家庭へお帰りになる時に、この素晴らしい大会で味わった気持ちをそこなうことのないようにどうかお気を付けてお帰り下さい。

私は深くへりくだつて証を述べると共に、皆様へ祝福があるよう主にお祈り致します。真理と誉れをしっかりと保つようにして下さい。私は皆様に私の愛と祝福をお残し致します。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。





神権者に課せられた 3つの責任

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

兄弟たちの美しいコーラスに心から感謝します。スペンサー・W・キンポール大管長をお迎えしてここに集会を開けることは、実に名誉なことです。キンポール大管長は主の予言者であり、聖見者であります。予言者ジョセフ・スミスは福音を回復するために主より召され、多くの天使の訪れを受けて様々な権能と神権を授かりました。ジョセフ・スミスに与えられたこれらすべての権能は、現在キンポール大管長に授けられています。そしてこの権能のゆえに、キンポール大管長は大いなる神の予言者と呼ばれるのです。ですから、先程も申し上げましたように、キンポール大管長と共に集うことは、非常に名誉なことなのです。

兄弟の皆さん、私たちにとってもうひとつ名誉なことは、聖なる神権を有していることです。皆さんを受けている祝福にあずかっている人が、この世でいかに少数であるか考えてみてください。現在ここに神権者が集まっていますが、全世界の人口から比較すれば、ほんのわずかな数にすぎません。しかし、この世で聖なる神権を持つ者は、私たちだけなのです。世界各地に住む忠実な男性教員だけが神権を有しているのです。末日聖徒の兄弟たちは、この地上

で全能なる神を代表しています。神は私たちに神権を与えてくださいました。そして、その神権を尊ぶように望んでおられます。

私はここで、神権者の持つ3つの責任についてお話をしたいと思います。

第1の責任は、神権を持つ者としてふさわしい生活をすることです。神の戒めを守るには、まずそれが何であるか知らなければなりません。一人一人が聖典を学んで、戒めについて知る必要があるのです。そうすれば、戒めを勤勉に守ることができるでしょう。

また主は私たちに奉仕するように望んでおられます。私たちは言行を一致させ、主の器として清くなければなりません。神権を持ちながら、それを尊重しない人など考えられないことです。私たちは美しい生活をすることによって、神権を尊ぶのです。清い生活を習慣とし、思いを清くし、心の中によこしまな気持ちを抱かず、あらゆる点において正直に振る舞います。うそをつかず、人を欺いたりごまかしたりせず、正直に義務を果たし、謙遜な気持ちで神権を行使します。もし私たちが謙遜でなければ、神権を尊重していることにはなりません。

私たちは人に親切にします。主は私たちに、「心をつくし、勢力をつくし、思をつく

し、体力をつくして」(教義と聖約4：2) 神を愛するように、命じられました。これは、神権を持つすべての兄弟に課せられた義務です。現代におけるこの啓示では、神への愛が「神の役務をなす」という言葉で表わされています。つまり、心を尽くして主を愛するだけでなく、心を尽くして主に仕えるように命じておられるのです。それに続く大切な戒めが、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ」(マタイ22:39)です。ここで主は、私たちがこの戒めに従って生活できるように、もうひとつの戒めを与えておられます。それは黄金律と呼ばれています。つまり、「何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりにせよ」(マタイ7:12)という戒めです。これは人に思いやりを示すための大切な方法です。

さらに、道徳的に清くなりなさいという戒めがあります。私たち神権者は高潔な人になるべきです。不道徳なものは、それが何であれ生活の中に取り入れてはなりません。情欲をもって女性を見てはなりません。男性に対しても同じです。汚れた写真を見

たり、不道徳な話をしたりしてはなりません。兄弟の皆さん、主が私たちに清く汚れない人物になるよう望んでおられることをいつも忘れないで下さい。

神権者に与えられた第2の責任は、家庭を尊ぶことです。私たち神権者は、義によって家庭を治めます。いかなる場合も暴君として君臨してはなりません。家庭の中でも黄金律に従って生活し、妻子に対してはやさしく思いやりをもって接するべきです。不親切な行為や妻子の虐待、過度の罰を慎み、家庭の中に愛を育むために最善を尽くすのです。家庭内で争わず、不敬な言葉を使わず、知恵の言葉に従って生活し、子供たちに毎日福音を教えるようにしたいものです。

ここで皆さんにひとつの提案をしたいと思います。それは、各家庭で毎日聖典を読むことです。新約聖書から毎日1章ずつ読んで下さい。1日に10分とはかからないでしょう。マタイによる福音書から始めて毎日1章ずつ読めば、その福音書は全部で28章ですから、1カ月で読み終わります。それから、マルコ、ルカ、ヨハネによる福音



書と読み進んで下さい。毎日1章ずつ読んでいくのです。マルコによる福音書は16章から成っていますから、16日で読み終わります。同じようにルカによる福音書、ヨハネによる福音書を読みます。四福音書を読み終えたら、ニーファイ第三書を読んで下さい。私たちが毎日救い主について読むならば、私たちの生活はいかに高められることでしょうか。

家庭の中で毎日祈っていただきたいと思います。朝晩欠かさずに家族の祈りを捧げ、食事の前には食物を祝福して下さい。

大管長会は、毎週月曜日の夜に家庭の夕べを開くように勧告しています。皆さんは神権者として、家庭の夕べを導く責任があります。家庭の夕べが毎週楽しいものとなるように計画して下さい。家庭の夕べの時間をすべて聖典の勉強に当てる必要はありません。歌を歌い、ゲームを楽しみ、愉快な時を過ごしましょう。奥さんにはおいしい食物を用意してもらいましょう。それから30分間、子供たちに福音を教えるために使います。このようにすれば、皆さんの生活は本当に豊かなものになるでしょう。また、家族を福音に改宗する助けになるでしょう。家族を改宗することは、皆さんに与えられた責任です。皆さんは、御自分の家庭における宣教師になるのです。このようにして家族を改宗するならば、彼らは生涯にわたってその祝福にあずかるでしょう。

もう一度申し上げますが、神権者は家庭にあって清く高潔な人でなければなりません。家族に正直と純潔について教えて下さい。兄弟の皆さん、奥さんとの関係を清く保つように。そこに汚れた行為を取り入れてはなりません。彼女が全能なる神の娘であることを忘れないで下さい。どうぞ、奥

さんとの間に清い関係を築いて下さい。また、行ないだけでなく言葉においても清くあって、家庭の中に徳を築き上げて下さい。

神権者に与えられた第3の責任は、教会で活発になることです。不活発であっては、自らを救うことはできません。支部やワード部から与えられた責任を受け入れて下さい。現在何の責任も受けていない人がいましたら、監督か支部長のところへ行き、そのことについて話し合うことです。そして責任を受けた時には、それに伴う義務を自覚し、立派にその責任を果たして下さい。

私たちは、すべての神権者がホームティーチングを行なうように願っています。有能なホームティーチャーになっていただきたいと思います。訪問先の家族に福音を教え、家族全員を改宗に導くために努力しましょう。また、組織の会長または副会長として召されている人は、効率よくその責任を果たして下さい。教義と聖約第107章の中で、主はこの点について次のように指示しておられます。

「今や神権者皆各々その義務を覚れ。また己が任命せられたる務めを全く勤勉に勤むべし。」(教義と聖約107:99)

私たちは神権者として、末日聖徒の立派な模範を示そうではありませんか。教会の管理役員を支持し、彼らに対する批判を慎もうではありませんか。そして、私たちに与えられている神権を尊重しようではありませんか。これは義しい生活を送る時にのみ可能になるのです。

日々皆さんが神権を尊重されますように、また戒めを守って主の王国建設のために働かれますように心から祈ります。イエス・キリストのみ名により、アーメン。



神権を持つ者が受ける 義務と機会

七十人第一会員会員
マリオン・D・ハンクス

キンボール大管長また兄弟の皆様、今晚は。今宵皆様とこのように一堂に会すことができ、うれしく思っております。私たちは主の祝福を得るために、今ピーターセン長老がお話して下さった原則の中から幾つかを選んで、皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

私たちは、神権を持つということが非常に神聖な義務であることを知っています。それは、主が私たちに心からの信頼を寄せて下さっていることを表わすものであると同時に、私たちに素晴らしい機会を与えてくれるものもあります。聖典の中には、神権を受けることによってそうした機会を得た例が幾つか出ています。

神は御自身の子供たちのために、福音と呼ばれる計画をお作りになりました。その計画の真髄は、神が御子イエス・キリストを犠牲として捧げて下さったことです。神はその子供たち一人一人を愛しておられます。そして神は、子供たちに福音の計画を教えるために独自の方法をお選びになりました。それは神の代理あるいは器となる人を立てることです。福音の計画は非の打ち所のない完全なものです。それに対して私たち人間は不完全です。神はその不完全な私たちを御自身に代わって語り、行なう者

として用いられるのです。それは、福音を他の人々に教えることによって、私たちが神の愛を自ら経験しなければならないからなのです。これが神の計画です。神はもっと別の驚くべき方法をもってその目的を達成できたはずですが、そうなさいませんでした。それは、私たちが神のみこころにかなう者となるために、私たちに人に奉仕する機会をお与えになったからなのです。

その機会のひとつとしてピーターセン長老が話して下さったものは、神と同胞への奉仕です。ピーターセン長老は、私たちがいかなる召しであっても喜んで引き受け、私たちを指導する人々を支持するようにと言われました。しばしば私たちは、自分に何が求められているかを理解していないことがあります。その完璧な例が聖典に出てきます。皆様は、タルソのサウロが古代の聖徒たちを迫害したことを覚えておられると思います。使徒行伝の9章に、神権を持つ者にとって大変重要なことが書いてあります。サウロは聖徒たちを迫害するためにダマスコに行こうとしていました。彼が大いなる示現を受けたのはその時です。救い主御自身が彼にこう語られました。「なぜわたしを迫害するのか。」(使徒9:4) サウロはこの言葉に大きな衝撃を受け、目が見

えなくなり、また口もきけなくなってしまった。一体何が起こったのかわからなくなってしまったのです。サウロは町に入つて行くように、そしてなすべきことが告げられるのを待つように言われました。

神権者として神聖な召しにあるすべての人は、その時に何が起こったかを銘記する必要があります。使徒行伝9章10節にこう書かれています。

「さて、ダマスコにアナニヤというひとりの弟子がいた。この人に主が幻の中に現れて、『アナニヤよ』とお呼びになった。彼は『主よ、わたしでございます』と答えた。

そこで主が彼に言われた、『立って、「真すぐ」という名の路地に行き、ユダの家でサウロというタルソ人を尋ねなさい。彼は今祈っている。

彼はアナニヤという人がはいってきて、手を自分の上において再び見えるようにしてくれるのを、幻で見たのである。』(使徒9:10-12)

これに対してアナニヤがどう答えたか覚えていらっしゃいますか。聖典にこうあります。

「……主よ、あの人があルサレムで、どんなにひどい事をあなたの聖徒たちにしたかについては、多くの人たちから聞いています。

そして彼はここでも、御名をとなえる者たちをみな捕縛する権を、祭司長たちから得てきているのです。」(使徒9:13-14)

アナニヤが何を言いたかったのか、おわかりでしょうか。「主よ、なぜそのような人物をその職に召されるのですか。なぜそのような者に祝福をお与えになるのですか。」アナニヤはそう言いたかったのです。「主よ、あなたは彼があなたの民にどんなにひどい

ことをしたか覚えておいででしょう。」それに対して、主がどうお答えになったか記憶していらっしゃいますか。

「さあ、行きなさい。あの人は、異邦人たち、王たち、またイスラエルの子らにも、わたしの名を伝える器として、わたしが選んだ者である。

わたしの名のために彼がどんなに苦しむなければならないかを、彼に知らせよう。」(使徒9:15-16)

つまり主はこう言われたのです。「そのことは承知している。サウロは、自分が犯した罪に対して自分で答えを出さなければならないのだ。私は彼に与える務めの中で、彼がどのような苦しみを味わわなければな



らないかを示そう。私は彼が完全だから彼を召したのではない。私が彼を召したのは、ある特別な方法で私に仕える力を、彼が持っているからだ。」

そして次の聖句は、聖典の中で最も美しく心温まる聖句のひとつとして私が考えているものです。

「そこでアナニヤは、出かけて行ってその家にはいり、手をサウロの上において言った、『兄弟サウロよ、あなたが来る途中で現れた主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされたために、わたしをここにおつかわしになったのです。』

するとたちどころに、サウロの目から、うろこのようなものが落ちて、元どおり見えるようになった。そこで彼は立ってバプテスマを受け……た。」（使徒9：17—18）

かの偉大な使徒の伝道の業はこうして始まりました。皆様は、なぜあのような人が教会の要職に召されたのだろうかと、いぶかしく思う誘惑にかられたことはなかったでしょうか。また、「あの人は不完全です。主が不完全な人をお召しになるはずがないではありませんか」と言いたくなつたことはありませんか。ここにその疑問への答えがあります。「さあ、行きなさい。彼を支持し、強め、彼に従いなさい。そうすれば私は彼を祝福し、私の業を彼に成し遂げさせよう。」

皆様にお考えいただきたいことがもうひとつあります。使徒行伝の10章に、コルネリオという人の話が出ています。当時、福音はユダヤ人にしか教えられていませんでしたが、このコルネリオが異邦人として最初に福音を聞く者となるように選ばれたのです。コルネリオは示現の中で、人を遣わ

してペテロと呼ばれる人を招くようにとのお告げを受けます。また同じ時にペテロも示現を受け、コルネリオの招きへの備えをすることになります。こうしてふたりは主により合わせられました。伝道に熱心に携わっておられる宣教師の方々、また聖徒の方々は、この話に偉大な教訓が隠されていることを自覚しなければなりません。それは簡単なひとつの聖句に集約されています。ペテロがコルネリオを見つけたのです。使徒行伝の10章24節にこうあります。

「……コルネリオは親族や親しい友人たちを寄び集めて、待っていた。」

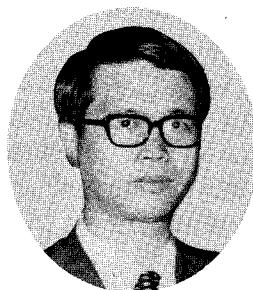
コルネリオはこう言いました。

「……今わたしたちは、主があなたにお告げになったことを残らず伺おうとして、みな神の前にまかり出ているのです。」（使徒10：33）

こうしてペテロはこのグループ集会で、福音を宣べ伝えました。コルネリオと彼の親族や親しい人々は集まって、ペテロの言葉に耳を傾けたのです。

神権を受けるということは、何と素晴らしい祝福でしょうか。またそれは、老若を問わず男性の質を決めるテストでもあるのです。私たちは、神の業についてその全貌を見渡すことのできない時が往々してあります。そのような時でも、主と指導者に従順に従うことができるでしょうか。

愛する兄弟の皆様、神権を持つ者として受ける偉大な義務と機会を、皆様一人一人が真剣な気持ちでお受けになりますように。主が皆様方を祝福されますように。イエス・キリストのみ名によりお話しました。アーメン。



神権によって成長する

地区代表
柏倉 仁

神 殿献堂式の素晴らしい年に、5年ぶりでキンボール大管長、また教会幹部の方々をお迎えして地域大会を開くことがありますことを心から感謝します。

さて私は、この末日に生を受けた神権者として世にあって世の者とならず、イエス・キリストの福音をよく守って生活することほど、主が喜ばれることはないと考えております。では、世の中にあって福音をよく守って生活するために、私たちはどのようにすればよいでしょうか。まず聖典の中に私たちを励ましてくれるよいみ言葉があります。ローマ人への手紙第12章1—2節にはこうあります。

「兄弟たちよ。そういうわけで、神のあわれみによってあなたがたに勧める。あなたがたのからだを、神に喜ばれる、生きた、聖なる供え物としてささげなさい。それが、あなたがたのなすべき靈的な礼拝である。あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。」

このみ言葉の中で、主は主の福音に忠実であり、この世と妥協しないでむしろ心を新たにすることによってよい生活をするよ

うに望まれています。しかし、現実の世の中では、ほとんどの人が実際の生活と福音を中心とした生活とのギャップを数々味わっていることと思います。このギャップを埋めて、よいクリスチャンとして生活するためには、私たちに教会が必要なのです。教会は私に次のような機会を数多く与えて下さり、世の誘惑に打ち勝つ力を与えて下さいました。

第1、神権定員会の交わりを通して最も偉大な友愛の交わりを経験しました。

第2、悪い習慣をやめて生活を正す動機を与えてくれました。

第3、教会での責任は人生に新しい次元をもたらし、より高い所に達するよう動機づけてくれました。

第4、福音の原則により家庭を治めることができ、お互いの認識、尊敬、礼儀が生まれてきました。

第5、自分だけが喜ぶのではなく、多くの愛する人たちと永遠の道を歩むことに力を注ぐ気持ちが強くなりました。

このように、教会に参加することにより世の中にもあって靈性を高めるよい機会を持っています。さらに聖典を勉強することにより、福音に忠実に生きることがどんなに大きな祝福をもたらすかを学ぶことがで

きます。

聖典には、福音を守って生活する人たちに与えられる祝福のことが書かれています。

エレミヤ書第17章7—8節を見てみましょう。

「おおよそ主にたより、主を頼みとする人はさいわいである。彼は水のほとりに植えた木のようで、その根を川にのばし、暑さにあっても恐れることはない。その葉は常に青く、ひでの年にも憂えることなく、常に青く、絶えず実を結ぶ。」

ピリピ人への手紙第4章4—7節にはこうあります。

「あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈りと願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と想いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。」

このように現実の世の中で福音を守るということは、試練であったり、忍耐であったり、迫害であったり、侮辱であったりしますが、私たちは信仰と希望と愛をもって福音を私たちの生活の中に取り入れて誠実に生きたいと思います。

現在の予言者キンボール大管長は、奉仕を通して私たちの信仰が強まり、心に大きな喜びと目標ができるることについて、次のように言われました。

「奉仕のしかたを知るのは実際に奉仕することによってである。私たちは隣人への奉仕に携わる時、その行ないによって人を助けるばかりでなく、自分の問題を新たに

視点から見つめることになる。人のために励む時、自分のことを考える時間が少なくなる。奉仕の奇跡のまさしく中枢に、自分を無にすることで自分を発見するというイエス・キリストの約束が存在するのである。」

十二使徒のヒンクレー長老は、自己鍛錬について次のように言われました。

「高潔、忠誠、強さなどの諸徳の原動力は、いと高き所から語られた真理の要求に従って自己鍛錬する時、その人の心の中で起る種々の葛藤を通して形成される。」

これらの言葉は私たちが福音に忠実に人生を送るための人生の目標に対してとてもよい助けとなります。主は生きておられます。私たちを愛して下さいます。

ヨハネの第一の手紙第5章3—5節にはこう記されています。

「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない。なぜなら、すべて神から生れた者は、世に勝つからである。そして、わたしたちの信仰こそ、世に勝たしめた勝利の力である。世に勝つ者はだれか。イエスを神の子と信ずる者ではないか。」

このように私たちは指導者の勧告に従い、奉仕する機会をすべて受け入れ、各々の責任をよく果たし、終わりまで力一杯頑張ろうではありませんか。心を世のものに向けることを避けようではありませんか。神権を行使する時には、正義の統治の原則に従おうではありませんか。

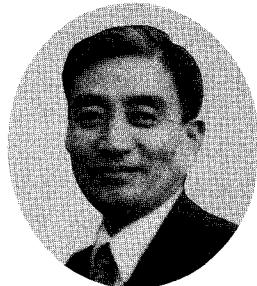
このようにして主の戒めを守る時に、喜び、幸せ、成長、進歩を得ることができるということを、私は心から証します。予言者ジョセフ・スミスが主とイエス・キリスト様にお会いになって末日聖徒イエス・キリスト教会を回復して下さったことを証し

ます。予言者キンボール大管長をはじめ教会幹部の方々ご出席の神権者の皆様の上に、主の導きと祝福がありますようお祈りしま

す。このお話を証をイエス・キリスト様のみ名によって申し上げます。アーメン。

キリスト教聖徒イエス・キリスト 大阪地域大





私は神権の力を今も 見てています

地区代表

田中 健治

愛する兄弟の皆さん、今日は。きょう私は神権によって変わっていったひとりの人の歴史についてお話ししたいと思います。これは実際にあったことです。

人の価値は人格の高さで決まります。人格の質は心に抱く思いで決まります。ほかの人の成功をねたみや羨みの思いなしに心の底から喜びたい。子供の頃、駆け足の競争がありました。先頭を走っている友達に拍手を送りながら、また私より前へ出たい友達には道を開けてあげ、一番最後から何の疑いももたないで喜んで走っていたその時の心を取りもどしたい。美しい女性の清らかさに見とれて、心から讃めることができるように、悪い気持ちまた様々な不純な考えなしに、心から尊敬して清らかさをたたえるその気持ちを取りもどしたい。このように考えていたひとりの青年の話です。

自分の心の中の罪に気づいてからの数年間というものの、赦しと生まれ変わり、聖霊の導きを与えてくれる教会を探す毎日が続きました。「外面のみを見る人々」からの讃め言葉は、自分の内部の思いとの大きな違いを責めるだけで、辛い毎日でした。正しい標準を学ぶことは、自分の弱さ、醜さを見せつけられるだけです。それは辛いこと

でした。しかし一番高い標準を学んだ者として、それから逃げることは神の存在を否定することであり、暖かい家庭と神の教えが結びついたそれまでの25年の生活を否定することになります。

私はきょうこの場所に、私の父が来てくれていることを本当に感謝しております。

みたまの助け、聖霊のことが分かるならば、きっと私の心は変わって本来の神の子としての心の働きがもどってくるに違いない。神の子しか神の国に入れない。それを可能にするものはただ「水と霊によってバプテスマを受ける」ことでした。どこに神の力をもった教会があるのでしょうか。「本当のバプテスマを受けさせて下さい」と祈り始めて半年が過ぎました。生活のバランスを正しく取らず、無理を重ねる毎日で、私は病気になりました。眼の網膜の結核は失明の恐れをもってきましたが、同時に、診療のために私を父母のいる家庭へもどる機会もくれたのです。1953年3月21日からの1週間は、私の永遠の人生の中で最も思い出深い時期となりました。翌日私は病院へ行き、40歳までは治らない、失明の恐れの多い、確かな治療法のない病気と診断されて大学病院から帰り、母の敷いてくれた布団に寝っていました。私の休んでいた部屋

の机の上には、昨夜手に取ってみても全く興味を引かず、各所に見られるやや偏った神秘的主張をしている珍しい教会としか印象を与えなかった、ジョセフ・スミスの見神録とモルモン経物語が置いてありました。午後2時頃、先週友達からの紹介でレッスンを受け始めた母と妹のところへ、2回目のレッスンのために宣教師が訪ねて来ました。色々な教派の神父さんや牧師さんと話して納得できないために、何も起こるはずがないと再三断わる私を、私の心の悩みを知る母はやや強制的に家庭集会に引っ張り込みました。

28年も前のその集会を今でも映画のようになります。太った大きい白人の長老は、細くて色黒のやや足が悪いために少しびっこを引く小さい長老と共に、開会行事のあと、私にいきなり尋ねてきました。「神様は生きていらっしゃいますよ。」私は答えました。「そうあって欲しいと私も思っています。」「神様には肉体がありますよ。私たちと同じように話すこともできるのです。」私は「聖書の初めの創世紀に、人は神に形どって造られたと書かれているので、それは本当でしょう」と返事しました。心の中で、ほかのどの教会も神が肉体を有しているとは教えていないことを知っていました。喜んだ宣教師たちは大きい声で、「私たちの教会は本当の神様の教会です」そう宣言しました。私は「そうでしょう」と賛成してさし上げました。しかしその後もう一言付け加えました。「どの教会でもそう言っていますよ。」次に私は質問することにしました。「どうして本当の教会と言うことができですか。」ここで私は新しい言葉を衝撃的に学ぶことになったのです。他の多くの教会教派の中で自分の教会が正しい理由を挙げる

のは、普通大変困難だからです。数時間の実りのない討論を覚悟していた耳に、「それは神権があるからです」との数秒間の解答が返ってきました。何回も聖書を読んでいるのに、何十年も教会に集っているのに、理解できないこの言葉の意味を探って私の思いははじめて謙遜になりました。もちろん聖書事典にも出ていない言葉なのです。「神権とは何ですか。」この質問はその後の私の一生を変える大切な質問となりました。

「生身の不完全な人が完全な神様のお仕事をするためには、神様が与えて下さる力をもった権能が必要です。それを神権と言うのです。」「なるほどそれで少し分かりましたが、もっと分かりやすく意味を教えて下さいませんか」と私は尋ねました。「大学の入学試験を考えて下さい。どんなに同じような試験をやっても、大学が依頼した先生の試験に合格しなければ、何度塾か何かの試験に合格しても大学に入ることはできません。この先生は権利を持っているからなのです。このような実際の力のある神が、その力を表わして下さる権能が神権なのです。」

「もしかしたら祈りがきかれたのかも知れない」との思いが心の中に湧き上がるのを感じながら、2時間、回復の話を聞いていました。ジョセフ・スミスが神とイエス・キリストに実際に会われたこと、数々の天使たちの訪れ、教会の回復と発展、それに伴って起こった迫害、殉教、その後の新しい発展、教会が商売ではなく、すべての人がふさわしければみたまにより神と交通できることなど、これらがもし本当のことであれば、この不思議な教会はこの地上での唯一の正しい教会であると感じさせられました。

本当か嘘か。これを確かめることが、私の一番大切な仕事になったのです。本当か嘘かを確かめる方法は、聖書にはっきりと書いてあります。それは、それを教えている宣教師を見れば分かることです。この若い人たちが話してくれたように、熱心に生活しているかどうかを是非知りたい。それが私にとって一番大切なことになりました。私は宣教師と母から許可をもらって、2日間彼らと行動を共にすることにしました。私たちは自転車で出掛けました。多くの家庭集会、街頭伝道を見ました。簡単だけれども良くバランスの取れた食事、讃美と正しい愛のある言葉が出る口からは、悪口やのろい、愛のない言葉は聞かれませんでし



た。教会堂もなく、何の物質的、社会的とりえもないふたりの若者が、恐れもなくだれにでも正しく良いことを勧める姿は、まさに美しいものでした。生身の不完全な人を神の良い目的に駆り立て、優れた人格を築き上げる力を目の当たりにしました。このように人を純粹に動機づける力が神権ならば、それはこれを受ける人にとって、また受けた人と交わる人にとって大きな祝福となることを感じることができました。

モルモン經をいただいて一晩のうちに3分の2を読み、聖書だけで解決できない多くの難しい教義がはっきりと明快に教えられているのを見ました。しかし「ジョセフ・スミスが天才で書くことができたと言うのならば信じができるけれど、モロナイ天使の話は技術屋の私には信じることができない」と答えました。そんな私に、アイザック長老は黙ってモロナイ10:4—5を示してくれました。そこには赤い線が引いてありました。

「またこの記録を受ける時、それが真実なものかどうかをキリストの御名によって永遠の父なる神に問え。もし誠心誠意でその上キリストを信じながら問うならば、神は聖霊の力によってこの記録が確かなものであることをあなたたちに示したもうにちがいない。そして聖霊の力によって一切の事の真実であるかどうかがあなたたちに解る。」

「田中兄弟、あなたは自分で分かりますよ。心からお祈りして尋ねて下さい。」そう一言彼は言いました。翌朝早く私は祈る場所を求めて弟と共に赤城山に登りました。3月26日、美しい晴れた青空に霧氷がきらめき、名物の風もなく、雪をかき分けながらの5時間の登山でした。午後1時頃荒山という

峰に着いた私は、疲れて日だまりの枯草の上に横になった弟から少し離れて祈りました。簡単なお祈りでした。しかし私は心にはっきりと分かりました。これは本当のことであるとどなたかがささやくように私の心の中に清い純粋な影響力が働くのを感じました。疑いの気持ちがとけて消えていくようでした。これこそが聖霊の力であると分かりました。感謝の祈りも簡単でした。「分かりました。バプテスマを受けます。ありがとうございました。」弟を起こして下りは1時間半、走りに走って私は宣教師に会い、自分が奉職している学校の先生方の許可を受けてきますと言って帰りました。何という素晴らしい日々だったことでしょう。許可をいただき、4月18日にバプテスマを受けました。

片道8時間の安息日の前から始まる旅行。お給料をいただいてその封を切らず、什分の一を送るために郵便局まで30分自転車を走らせながら、「もし汝が心光を持てば」と歌った林の道。やがて病気がもっとひどくなって入院した3年8ヶ月の闘病生活。働けなくても数限りなく喜びと感謝を見いだすことのできた入院生活。やがてひとりの姉妹との出会い。眼の見えるうちに交際しなさいという両親の言葉に励まされ、ただみたまの保証して下さる望みだけに頼って互いの愛を育てた病室でのデートの2年4ヶ月。片眼だけは完全に残されて、社会に復帰できた私に与えられた東京での仕事。そして結婚、続けてラッシュして靈界から駆けつけてくれた3人の子供たち。共に成長してきた幾年もの年月。教会堂の建設。ハワイの神殿での結び固め。お金がないはずなのに家族そろって、また夫婦で何度かハワイやアメリカへも行くことができまし

た。その間に多くの宣教師たちは、素晴らしい伝道部長と共に日本で奉仕して下さり、ひとつの支部はひとつのステーキ部に、さらにそれが分割されるという状態にまで発展しました。そしてとうとう神殿をいただけるようになったのです。後退を知らず、みいつ堂々と進む神の王国を私は28年の間見続けてきました。そして人を変えてこの世をも変える力を持っている神権の働きを見、力を感じ、正しく行使される時に必ず現われる神の栄光を見てきました。今私は声を大にして、神権を有し、生ける神と真実交わって指導して下さる予言者を持つ、この世にひとつしかない末日聖徒イエス・キリスト教会が本当に信頼できる神の教会であることを、心の底から証し申し上げます。

また、皆様に助けられて私のふたりの息子が伝道に出ることができました。今から7年前に、キンボル大管長はステーキ部大会において下さり、7人の子供たちに100円硬貨を下さいました。その中のふたりは私の息子でした。この時の7人の中から6人の宣教師が生まれました。今私はひとつの質問をしたいと思います。日本中にこのような本当に清くなりたい、本当の神様の子供になりたいという人が大勢待っています。この中で、これから伝道に出ることを計画している人は手を挙げていただけますか。また、今伝道している方々と伝道から帰られた方々は手を挙げて下さい。私は本当に神権の力を今、見せていただいています。

これらの感謝と証をすべて、イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



神権の召しを全力を 尽くして遂行する

大管長

スペンサー・W・キンボール

愛する神権者の皆様、このように多くの方々とお会いできることは喜ばしいことです。今宵この会場には偉大な力がみなぎっていることがひしひしと感じられます。

私たちには神権の力が与えられております。どのような職にあるかは余り問題ではありませんが、私たちがどのような人物であるか、またどれ程神権を尊んでいるかは極めて大切なことであります。

皆様が進歩成長し、非常に力強くなつておられる姿を見て喜びで一杯です。この大会が力の源となって、すべての男性が神権を尊ぶ気持ちを強めて下さるようにと祈っております。

また、今宵この会場にアロン神権を持つ大勢の若い方々がおられる事を喜んでおります。特に本日は、若い方々のことについてお話ししたいと思います。現在執事の方は皆、活発であつてふさわしければ、やがて教師となり、祭司となり、またメルケゼデク神権者になれるということをここで申し上げたいと思います。

指導者の方々、伝道部長会、ステーキ部長会、監督会の方々は、若い兄弟たちの成長に応じて助けを与えるようにしていただきたいと思います。私たちは銀行預金にい

つも気を配ると同様、これらの兄弟たちのことをいつも心に掛けるようにしなければなりません。彼らの誕生日や活動に目を向けるようにしなければなりません。

だれも神権を自分勝手に得ることはできません。たとえこの国のすべてのお金を積んだとしても、神権を買うことはできないのです。国王といえども、力ずくでそれを手に入れることはできないのです。皆様は教会で働き、神権を受けるにふさわしいことを証明して初めて、神権指導者によっていろいろな職に召されるのです。

この教会の子供たちは皆、8歳の時にバプテスマを受けなければなりません。私たちは子供がごく幼ない頃から、彼らにバプテスマについて教えます。家庭の夕べや家族の祈りでそれを教えます。言葉を換えて言えば、子供が12歳あるいは16歳、または18歳になるまで教会の教義を教えるのを待つというようなことはしてはならないのです。子供が生まれたらすぐに教え始めるのです。

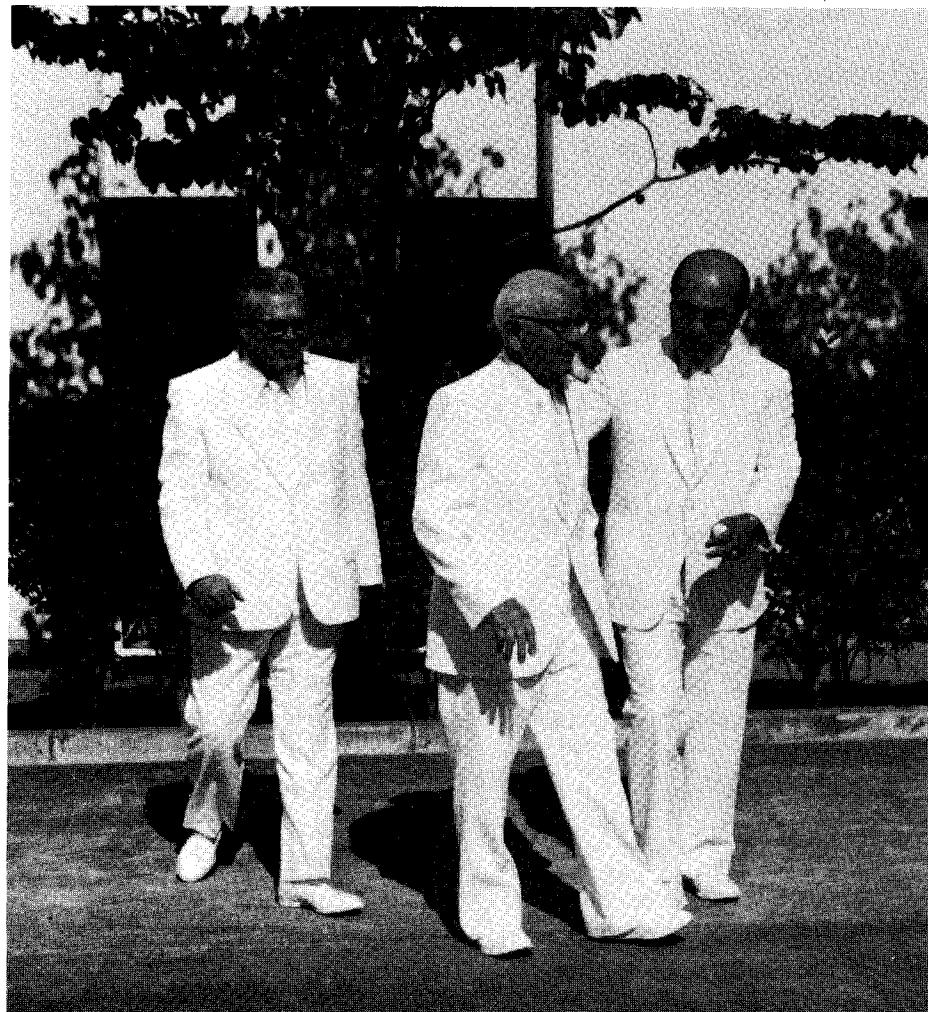
また、男の子はバプテスマのことがまだはっきりと頭の中にあるうちから、アロン神権を受けて執事になる4年後のことを考え、話し始めます。男の子は4年の間、神権について教えを受けます。そうすればす

べての少年は、聖餐のパスをする日を心待ちにするようになるに違いありません。そして、その時が神聖であることを心にきざみ込むのです。少年たちはいつもこのように考えます。「これは主の聖餐だ。だから義しい生活をし、ふさわしく振る舞わなければならぬ。主に代わって儀式を執行するのだから、それにふさわしくなければな

らない。」このように考えるのです。

その後、少年は教師になることについて考えるようになります。私たちは資格のあるふさわしい少年には14歳で教師の職を与えます。そして、教師の職を受けた少年はホームティーチングを初めとする数々の務めを果たすようになります。

やがてその少年は、祭司になる日を待ち



望むようになります。祭司に与えられる素晴らしい機会としては、バプテスマを施すこと、またパンと水を祝福してその神聖な象徴を執事に渡し、会衆が聖餐を受けられるようにすることがあげられます。

皆様はこうおっしゃるかもしれません。
「ええ、私たちは皆そのことを知っています。なぜ知っていることを話すのですか。」私がこう申し上げる訳は、現在まだアロン神権を受けていない少年たちが教会内に大勢いるからです。まだ執事や教師、あるいは祭司にもなっていない既婚者が大勢いるからです。

さて若い男性は、メルケゼデク神権を受けて、長老の職に聖任される時を待ち望み、それによってもたらされる数々の祝福に思いをはせます。

兄弟の皆様、この世の男性は皆、神権の本当の意義を知ってさえいたら、皆様の持つておられる神権を持つことを切に望むということがおわかりでしょうか。大神権を持たない人、すなわち長老や七十人、大祭司の職にない人はだれも神の位に到達することはできないのです。今日はまさに、その神権を得、それを最大限に用いる日です。

新約聖書にシモンという人の話が出ています。彼は使徒たちの所へ行ってお金を差し出し、こう言いました。「わたしが手をおけばだれでも聖靈が授けられるように、その力をわたしにも下さい。」(使徒8:19)シモンはお金で神権を買おうとしたのです。皆様は神権を得るためにお金など差し出しません。それは、ふさわしくさえあれば、天の御父から賜として無償で与えられるのです。

皆様は長老を聖任する時、執事を聖任す

る時、また神権に伴う儀式を執り行なう時はいつでも、主に仕えているのです。神権を持つ私たちは、教会で活発でなければなりません。兄弟たち、私たちの神権の召しを全力を尽くして果たさなければなりません。

その召しを全力を尽くして遂行するとは十分にその力を用いることです。皆様は神権を偉大なもの、素晴らしいものにしようとしていますので、その神権により必然的に皆様の生涯で一層実りあるものとなるのです。

兄弟の皆様、神権について皆様にお話することは喜ばしいことです。まことに清く、神聖なことです。言葉では尽くせない栄えあることです。

主の祝福があって、皆様方年配の兄弟たちが愛と思いやりに富んだ父親となり夫となれるようお祈り致します。奥様方に重荷を残すことのないように祈っています。また、子供たちが働くことの大切さをよく学べるように祈っています。手を使った実際の労働を学べますように。子供たちに仕事を分担し果たさせるようにして下さい。責任を果たすことは立派な人格を築き上げるのに役立つからです。

私はこの教会がまことの教会であることを知っています。この教会にある神権は実に神聖で、大切なものです。神権は決して複製できませんし、売買することもできないものです。主の助けがあって私たちが召しを全力を尽くして遂行できますように祈っております。私はこのことを証し申し上げ、皆様に私の祝福をお残し致します。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



末日聖徒の女性に 課せられた責任

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

愛する姉妹の皆様、こうして皆様と共に集うことができ、心から感謝し、栄誉に感じています。私は何か皆様方のお役に立つことを述べなければならないと強く感じています。そのために聖きみたまの導きがあるように祈っています。皆様方の中にはまだ結婚していない若い方々、結婚して幼い子供を育てているお母さん、そしてお孫さんのいらっしゃる方などいろいろな方がおられることでしょう。私たちは皆様方一人一人に深い関心を抱いています。私たちはお母さん方に深い関心を寄せています。なぜなら、次代を担う世代を導くのは皆様方の責任だからです。また若い少女の皆様にも関心を抱いています。なぜなら、皆様方は次の世代の子供たちの母親となる人々だからです。次の世代の子供たちは、信仰の内で育てられるならば、教会歴史上他に類を見ないほどの力強い世代を築き上げることでしょう。そこで今、皆様方に、4つの目標を提示したいと思います。

第1に、皆様方がそれぞれ自分の知識と理解力を引き続き高めていただきたいということです。高校や大学を卒業しただけでは十分ではなく標準聖典を一回読んだだけでも十分ではありません。私たちは毎日の生活で進歩、成長する必要があります。毎

日、主の言葉を読まなければなりません。もし組織立てでそれを行なうならば、私たちは測り知ることもできないような知識を貯えることができるでしょう。また私たちはほかの書物も読む必要があります。女性の皆様は皆料理の専門家になることができます。また家事の面でももっと上手になれるはずです。またすべての女性が自分の国だけでなく他の国の文学に精通することもできます。主は女性を含むこの教会の人々に次のように言われました。「正に研究と信仰とによりて学問を求むべし。」(教義と聖約88:118)「最も善き書より知恵ある言を探し求めよ。」(教義と聖約88:118)驚くべきことは、学ぶことには限界がないということです。この学問を修める機会を無にしている女性は、自分に与えられる大いなる祝福を拒む人です。また子供たちに与えられる祝福をも否定することになるのです。私はマーク・E・ピーターセン長老の義理のお母さんが住んでいたワード部で少年時代を過ごしました。私には、彼女がひとりのおばあちゃんだという印象しか残っていませんが、彼女はいつも非常に熱心に学問を求める人でした。また、教会における偉大な影響力を持った教師でした。ある時には、大祭司のグループに招かれて教えたこ

ともありました。それほど彼女の知識は偉大でその能力は素晴らしいかったです。

愛する姉妹の皆様、皆様はこの教会の会員として大いなる責任を負っています。それは主御自身が皆様方の上に託されたものでもあります。その責任とはすなわち、主の福音とこの地上の偉大な事柄の知識を絶えず増し加えることです。

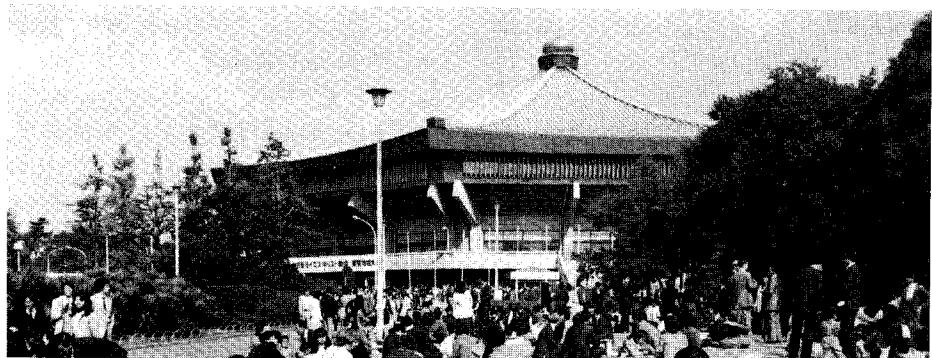
第2に、皆様方の家庭を悪の力に対抗できるような堅固なものとしていただきたいということです。私はこれまで主の力が日本の上に注がれていることを見てきました。主のみたまが日本の上に注がれています。しかし同時に、悪魔の力も強まっていることを知っています。悪霊も働いています。姉妹の皆様にこの悪の力に対抗するため家庭を堅固にしていただくよう強くお願いしたいと思います。まず自分自身から始めて下さい。「絶えず徳を以て汝の想を飾る」ようにしていただきたいと思います。家庭における皆様方の模範ほど効果的な教師はありません。

次に、家庭で絶えず祈るようにしていただきたいと思います。皆様方が主の前にひざまずくことなしに一日を過ごすことがないようにしていただきたいと思います。また家族の祈りも捧げるようにして下さい。子供たちの前で祈り、子供たちが自分で祈るよう助けていただきたいと思います。そうすれば子供たちは主を愛するようになるに違いありません。毎週月曜日には、家庭の夕べを開いていただきたいと思います。皆様方の中には、教会員でない方と結婚している方もいらっしゃることでしょう。そのために、多少の問題が生ずるかもしれません。しかし、どのような夫であっても家庭の夕べを開くことに反対を唱える人はい

ないと思います。子供たちが一緒に歌い、共に学び、共に祈る時、主の言葉を少し読んで下さる。子供たちのために読んで下さい。恐らく子供たちは、皆様が読まれることをすべて理解できないかも知れません。しかし、彼らはそこから必ず何かを学び取っていることを知るでしょう。ですから、悪の力に対抗できるよう皆様方の家庭を堅固なものとしていただきたいのです。

第3に、皆様方の物質的な備えを十分にしていただきたいということです。お金を少しずつ貯める計画を立てて下さい。もし少しずつ貯めていくならば、数年後にはある程度まとまったお金ができるでしょう。私は若い頃、最も費用のかかる伝道部へ召されました。当時、世の中は世界恐慌の中にありました。私の父はたくさんの土地を持っていましたが、収益はほとんどありませんでした。その時、私たちは2、3年前に亡くなった母が貯金をしていたことを知りました。それは母が何年もかけて貯めたお金でした。お蔭で私は金銭的に何の心配もなく伝道をすることができました。私たちの将来というものはどうなるかわからぬものです。ですから、まさかの時のためには少しずつ貯めておくことがとても大切になります。

お金に関してもう少し述べるならば、什分の一を正直に納めるよう心からお願いしたいと思います。主は、主の什分の一と捧げ物を正直に納める者に偉大な約束を与えて下さいました。主は、天の窓を開いてあふれるばかりの恵みを注いで下さると言われました。私はその約束が真実であると信じています。私は主がその約束を果たす能力があると信じています。また私は主がそうなるということを証します。



食糧を貯蔵し、家庭に余分のお米を蓄えるようにして下さい。法律的に許される範囲でできるだけ多くのお米を蓄えていただきたいと思います。来るべき窮乏の時に備えて、自分たちを守るようにして下さい。姉妹の皆様、家庭の物質的な備えを十分に行なうように努力して下さい。

第4に、子供たちが責任を受けられるように備えていただきたいと思います。今日、教会が直面している最大の責務は、有能な指導者を訓練することです。この訓練は子供の時に、家庭で始めるべきです。男性は執事になった時に、女性も同じ年齢の頃から訓練すべきです。なぜなら、備えができるれば責任を与えることができるからです。皆様方のお子さんを伝道に備えさせていただきたいと思います。彼らはこの教会の会員として、19歳または20歳になった時に御父のみ業の建設のために2年間を、それまでの人生の什分の一として捧げる義務を負っています。同時に彼らが可能な限りの教育の機会をとらえて努力するように励まして下さい。皆様方がそれを行なうならば、心の中に深い感謝の思いを持って主の前に立ち、皆様方に注がれた驚くべき祝福に感謝する時が訪れる事でしょう。

ヨハネはその書簡の中で次のように述べ

ています。「わたしの子供たちが真理のうちを歩いていることを聞く以上に、大きい喜びはない。」(IIIヨハネ1:4)

最後に、もう一度申し上げたいと思います。教会の次代の力を決定するのは皆様方です。したがって、多くは皆様方の双肩にかかりています。子供たちの前に立つ時、どのような障害に遭遇しても福音に従って生活するという模範を示して下さい。特に家族を持っている方々は、注意していただきたいと思います。中国の諺に、「家族を治めるよりも国を治める方がたやすい」という言葉があります。私もその通りだと思います。しかし満足すべきことは、教会の計画に従って子供を育てる両親は、子供が平安と知恵と指導力を得て成長するのを目のあたりにできる事です。こうして子供たちは皆様方の喜びの源となることでしょう。そして数年を経て、皆様方がこのように家庭を治め、夫が責任を果たせるように一生懸命に助け、正義と徳と才能を具えた女性として夫のそばに立つ者となれるよう願っています。神の祝福がある、皆様方がこのことを達成できますよう、心からへりくだりイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



犠牲は天よりの祝福 をもたらす

中央扶助協会会長
バーバラ・B・スミス

二 こで皆様方にお話ができますことを感謝いたします。まず、この美しい花を備えて下さいましたことに心から感謝申し上げます。また、素晴らしい歌声と麗しい姉妹たちに感謝しております。

こうして、東京の地で皆様方と一堂に会せることは素晴らしい特権です。私は、5年前にこの場所において、キンボール大管長が東京神殿の建設について発表なさったことを覚えています。キンボール大管長は、覆いを取って東京神殿の完成予想図を見せ、そして皆様方の喜びの拍手を耳にされました。皆様の目には涙があふれ、私もそれを押さえることができませんでした。その時、キンボール大管長は、神殿の完成を見るためには犠牲を払う必要があるとお話しになりました。また、神殿をいただぐにふさわしい民となるために備えるようにと言われました。今日、私は、そのようなふさわしい民になられた皆様を目にすることができる、心から嬉しく思っています。

ここで、やはり神殿を建てるために犠牲を払ったある姉妹のお話をしたいと思います。彼女の名前は、ザイナ・D・H・ヤングと言い、中央扶助協会第3代会長でした。ヤング姉妹は家族で改宗しましたが、両親は、信仰のために、多くの財産、住み慣れ

た家、友人たちを残して、予言者や他の聖徒と一緒にイリノイ州へと移住したのです。ある時、ヤング姉妹は病気にかかって予言者の家へと運ばれ、そこで、予言者の夫人から手厚い看護を受けました。彼女の母親もまた病に倒れてしまいましたが、とうとう息を引きとりました。ヤング姉妹はその悲しみをどうすることもできませんでした。あまりの悲しみに、教会へ入ったこと、家や友人と別れて聖徒の群れに加わったことが正しい選択であったのかどうか疑いました。そのような時にひとりの友人が現われて、福音に対する考え方や理解などについて彼女に話してくれたのです。それらの事柄は、福音の原則に対する靈感と導きと理解を与えるものでした。その友人は、ザイナに約束されている数々の永遠の祝福を目指して生活するよう望んだのです。その友人とは、エライザ・R・スノーでした。スノー姉妹が友人ザイナに捧げた詩を読みたいと思います。

高きに栄えて 住めるわが父
いつ、かえり行きて み顔を見るや
わが靈かつては みそばに住みて
幼きそのとき 育てられしか

この歌詞について少し考えてみていただきたいと思います。もし皆様が丁度ヤング姉妹と同じような苦しみの中にある時に、このような詩を贈られたらどうお感じになるでしょうか。

み親は一人か 深く思えば
永遠の真理は告ぐ 天に母ありと
この身を横たえ 世を去るときに
父母と高きにて われは会えるや
仰せのみわざみな 成しとげしどき
受け入れみそばに 住まわせたまえ
これは、実際の詩を全部あげたものでは

ありませんが、エライザ・R・スノーがその姉妹ザイナ・D・H・ヤングのことをどれほど気遣っていたかがおわかりいただけると思います。彼女は、犠牲が天よりの祝福をもたらすことをよく知っていたのです。エライザ・R・スノーは非常に思慮深い人でしたので、ヤング姉妹は彼女との交わりを通して助け励されました。

主は、この教会においてすべての姉妹が互いに愛を交換できるようにして下さいました。主は、扶助協会という組織をお与えになりました。扶助協会において、私たち



は福音の原則と天父との深い交わりを学びます。また、現世について、人生の目的について学びます。これらの事柄は、苦境の時にあって力となるのです。しかし、すべてこれらの祝福は、まさに初めに予言者ジョセフ・スミスが次のように宣言したことに端を発しているのです。

「私は今、姉妹の皆さんに代わり、主のみ名によって鍵をあける。この協会は祝福されて、今より知恵と知識が豊かに注がれるであろう。この瞬間より、貧しい者、助けの必要な者にとって良き時代が訪れ、彼らは喜びを知るであろう。」主は、私たちを誓約の民とすべく備えておられるのです。主は、私たちが主と交わした誓約の内に留まることができるようになると私たちを教え、訓練しておられるのです。このようにして、私たちはこの混乱した世の中にあっても平安を得ることができます。また、悩む時に目的を、失望した時に希望を持つことができます。エライザ・R・スナーはもうこの世にはいませんが、私たちは彼女の持っていたと同じ姉妹愛を互いに持つことができます。扶助協会は、そのような完全な愛、すなわちキリストの愛を教える所です。スペインでは、そのような愛を特に「絶えざる愛」と訳しています。またミクロネシアでは、愛は「生活を変える力」であると言っています。そしてここ日本では、決して尽きることのない愛とは、見返りを求めずに捧げる深い愛を指すようです。

私は、皆様方一人一人が誓約の民、すなわち主の誓約の子供となる大いなる祝福を味わうよう願って止みません。また、御子様方も同じ祝福を享受できるよう備えさせて下さい。

日曜日に大阪空港に着きました時、私は

新婚旅行に出かける4組の夫婦に出会いました。花嫁は美しい装いで花むこの横に立っておりました。しばらくその様子を見ていましたと、見送りに来た人々がふたりに祝福の言葉を投げかけ、そして3回ずつふたりを胴上げしたのでした。また、私は美しい着物を着た人々を見て大変感動いたしました。そして、長いそでの着物と蝶のように結んだ帯は未婚を表わすことを教えていただきました。特に、お母様方が黒いものを着ていたのを大変印象深く思いました。これらの慣習は日本独自のものであり、いつまでも残しておきたいものです。この世から永遠にわたって結ばれるために主の宮居に入る準備をすることは、変えることのできない大切な習わしです。そうすることによって、私たちは主が備えて下さったあらゆる祝福を手にすることができます。

大管長会は、扶助協会に信頼を置いています。十二使徒定員会、七十人第一定員会のすべての会員もまた同様の気持ちを抱いています。この信頼は、私たちを今日から明日へと導き、さらには永遠の価値へ向けて成長を促すのです。そして遂に、私たちは再び天父のみもとに帰り、天父が用意されたすべての祝福にあずかるのです。

願わくは、私たち一人一人がその祝福を確実に自分のものとすることができるよう生活したいものです。神は真に生きてましまし、イエスはキリストです。ジョセフ・スミスは予言者であり、福音を回復いたしました。そして現在、私たちは予言者によって導かれています。私は、これらのことを行なうことをイエス・キリストのみ名によって心から証いたします、アーメン。



神殿で受ける祝福

中央若い女性会長
イレイン・A・キヤノン

私 たちは、この日本の地においてたくさんの人々と素晴らしい時を過ごしました。ここ数日間は、長い間いすに座ってずっと特別な集会に出席することができました。そして皆様と共に涙を分かち合い、皆様と共に主のみたまを感じたのです。また、この国に神殿が建つという奇跡を目のあたりにすることことができました。

何日かここにいますと、次第に皆様方も親しくなってきます。そこで、今、私は皆様方の言葉で証を述べたいと思いますが、理解して下さることを願っています。これは私にとって至難の技とも言えることです。私は、日本人に生まれなくてよかったのかも知れません。日本に生まれるとむずかしい日本語を話さなければなりませんから。しかし、この私に日本で伝道した息子がおります。そこで、皆様の言葉で自分の気持ちを伝えようと決心した時に、息子に電話をして助けを求めました。ですから、もし私がうまくできなかったとしたらそれは息子のせいですからどうぞ御容赦下さい。私があえてこのようにするのは、皆様に愛を示したいからです。また、皆様に対する敬意を表するために、努力して話したいと思います。

「アイスルキョーダイシマイタチ、ワタ

シハ、ココロカラシュヲアイシティマス。コレガ、シユノキヨーカイデアリ、マタ、スペンサー・W・キンポールガシユノヨゲンシャデアルコトヲアカシシマス。カミサマガイキティラッシャリ、ワタシタチヒトリヒトリヲアイシティラッシャルコトヲ、ワタシハ、イエス・キリストノミナニヨッテアカシシマス、アーメン。」

昨夜、私たちは神殿の献堂式をすべて終えた後に素晴らしい晩餐会に出席し、そこでプレゼントを受けました。それは、仙台のこけし人形でした。その時、人形と一緒にそれにまつわる話もうかがいました。昔、人々は家の中で困ったことが起きると、娘を売ってその場を切り抜けたそうです。そして、その娘をいつも思い起こすために、人形を作ったと言うことでした。これを聞いて、私はとても悲しくなり、では娘は家の思い出に何を持っていただろうかと一晩中、考えました。私は、人形を家に持って帰り、皆様方の思い出にしたいと思います。そして、私たちのことを覚えていただるために、東京神殿にひとつの人形を残していくつもりです。これは、若い女性の象徴です。このように白い磁器でできています。これは、神殿の花嫁の部屋に置かれることになっています。ですから、御覧になりた

い方はどうぞ神殿の花嫁の部屋にいらっしゃって下さい。

さて、話は、私がまだ新聞記者であった頃のことになるのですが、それを通して、特に、私が神殿結婚についてどのように感じているかを述べてみたいと思います。これは女性の集いであり、結婚なくして女性について語ることはできません。若い頃、私は新聞社に勤めていました。まだ結婚はしていませんでしたが、非常にロマンチストでした。当時、新聞社での私の仕事は、

あらゆる結婚式に出かけて行って、カメラマンのために花嫁の形を整えることでした。花嫁が本当に美しく撮れるように形作るのです。そのために、カトリックの大聖堂やギリシャ正教会、ユダヤ人の教会また仏教の寺院へ行きました。一般の家をはじめ大邸宅へも行きました。それぞれ儀式は違っていても、そこには常に同じ雰囲気がありました。スミス姉妹は先程、花むこの傍に立っている花嫁についてお話しになりましたが、結婚式には必ず花むこと花嫁がいま



す。どこの結婚式場に行きましたも、花嫁は美しくそして花むこは幸福そうでした。また母親は目に涙をため、父親はいかめしい顔をしていました。そしてひとつの例外もなく結婚式には愛の雰囲気があふっていました。そして、とうとう私も結婚しました。私たちは、主の宮居である神殿で結婚致しました。その日の花嫁である私は、生涯で最も美しい私でした。また花むこがおり、泣いている母がおり、いかめしい顔をした父がおりました。そしてそこには、同じように温かい愛がみなぎっていました。しかし、主の家にはほかにそれ以上の何かがあったのです。それは、特に私の結婚式だからという理由ではありません。私は、その後も、神殿結婚またその他の結婚式に數え切れないほど出席してまいりました。神の宮居で、主のみたまに包まれて神権の権能により執り行なわれる結婚式は違います。

皆様方全員が、もうすぐ結婚なさるというわけではありませんが、すべての人は神殿に行ってそこで特別な祝福を受けるために準備する必要があります。まだ結婚なさるつもりではない方々も同じです。神殿では驚くべきことが起こるのです。

私は、皆様に家に帰って時間のある時に聖典からふたつの話を読むようお勧めします。ひとつは、サムエル記の最初の章にある話です。そこには、子供を授けていただくために断食して神殿に参入した女性のことが書かれています。主は、彼女の祈りを聞いて祝福をお与えになりました。2番目は、私たちすべての姉妹が覚えておく必要のある重要な事柄を含んでいます。これは、ルカ伝の2章にある話ですが、まず全章を読んでみて下さい。そこに、たった3節で

すがアンナという女性のことが記されています。アンナは、しばしば神殿に参入しておりました。彼女は主に仕え、断食し、祈りを捧げていました。本当に素晴らしい女性でした。ある時、ヨセフとマリヤが幼な子イエスを連れて神殿に来ました。それは丁度、イスラエルのすべての赤ん坊が神殿に集められた時でした。その時、アンナはみたまの導きによってその赤ん坊が他の赤ん坊とは異なることを知ったのです。神殿にしばしば参入するならば、実際にイエス・キリストを見た時に、確かにその方がイエス・キリストであるということがわかるようになるでしょう。さらに、数々の祝福が私たちの生活にもたらされるはずです。子供に恵まれ、正しい方法で結婚することができます。喜びを得、以前よりももっと多くの善い行ないができるようになります。また、救い主に近づいて主を知るようになると、主は、私たちの生活を平安で満たして下さるでしょう。そして、どのような問題に突き当たってもそれを克服することができます。

自分自身をよく備えて神殿に参入して下さい。姉妹の皆様、神殿結婚の衣装と神殿着を自分の手で美しく作り上げて下さい。皆様にはそれができます。そして、神殿に入った時に、それを特別な衣装として厳かな、また従順な気持ちで身につけて下さい。姉妹たちは、兄弟たちの助け手となって下さい。願わくは、主の祝福が私たち一人一人の上にありますて、私たちが主の宮居に入るにさらにふさわしくなるよう心からお祈り申し上げます。これらのこと、すべてイエス・キリストのみ名によってお話を致しました。アーメン。



女性の模範

七十人第一定員会会員
菊地 良彦

愛 する姉妹の皆様、こんにちは。私たち日本の聖徒は、月曜日以来、たくさん祝福をいただいております。また、私と妻は恵まれまして、キンボール大管長、キンボール姉妹、ならびに現在皆様の前の席に着いておられる教会幹部の方々と共に、フィリピンや香港、台湾、韓国の地を訪れ、また神殿の献堂式に列席する機会をいただきました。さらに、きょうこのように、皆様の前でお話できるこの機会を喜んでおります。

私はきょう、聖典の教えに基づいて、主の備えたもうた道はとこしえに変わることがないということを皆様にお話したいと思います。

モルモン經には、たくさんの立派な宣教師の話、多くの予言者の話、啓示や奇跡、教義の話、裁きの話、イエス・キリスト御自身の話が数多く記されています。確かにこのモルモン經は、「ユダヤ人と異邦人にイエスは永遠の神なるキリストにましまして、万国の民に現われたもうことを」証する本です（モルモン經の前文参照）。

この集会は女性のための集会ですので、私はこの本の中から、美しい女性の模範を取り上げ、お話をしたいと思います。この聖典には、不平を言うことなく、自分の夫

すなわち自分たちの指導者である当時の教会の神権者に従った立派な女性たちのことが記されています。

きょうこの場においての姉妹たちは皆、自分がニーファイの妻であると仮定して下さい。

私たちは今、エルサレムを発って、長い間、荒野を旅しています。聖典には次のように記されています。

「私たちはみな荒野を旅して多くの艱難をふみこえ……私たちの妻は荒野の中で子供を生んだ。」（Iニーファイ17：1）

衛生用品や水、薬、そのほか出産に必要な物がない状態で、彼女たちはたくさんの子供を産みました。

皆様は今荒野を旅しているとして、そこで直面する艱難や苦労を想像することができるでしょうか。聖典にはこう記されています。

「私たちはこれまでまことに書きつくし難いほど多くのつらい難儀に逢った。」（17：6）

そればかりではなく、「荒野の中で生肉を食べて暮らした」（17：2）と、聖典に記されています。

もしも皆様がご自分の娘さんに「生肉」を夕食として与え、「これが今晚の食事で

す」と言わなければならないとしたらどうでしょうか。あるいは、ご自分の息子さんにそのように言わなければならない状況にあったとすれば、どうお考えになるでしょうか。

しかし彼女たちは、自分たちの指導者である夫に従いました。献身的に従順に従いました。ですから神様は、その偉大な信仰に対して大きな祝福をお与えになり、次のようにおっしゃいました。

「われは荒野の中で汝らの光とならん。もし汝らわが命令を守らば、われは汝の前に道を備うべし。故に汝らわが命令に従わば約束の地に導かれ、かくして汝らを導く者のわれなることを知るなり。」(I ニーフアイ 17:13)

神様はその信仰に応じて彼女たちを祝福なさいました。確かに彼女たちは、当時の指導者であり、神権者である夫に従順に従いました。聖典には次のように記されています。

「皆は非常によろこび」(17: 6)を得、また「つぶやかずに旅行に堪えるようになった。」(17: 2)

そのために主の祝福が豊かに注がれて、「子供らに充分の乳を飲ませることができ」と、聖典に記されています(17: 2)。また彼女たちは、「まことに男子のように身体が強かった」(17: 2)とも記されています。

数々の電器製品が出回り、スーパーマーケットで何でも物が自由に買える現代の世において、自分の夫が働いて得たお金で家計をやりくりすることのできる皆様にとって、この出来事は何という偉大な教訓を与えてくれることでしょう。

私はモルモン經を読むたびに、ニーフア

イの妻がまことに、まことに立派な信仰の持ち主であることを強く感じます。

偉大な夫の後ろには偉大な妻が必ずいるとよく言われます。

教会が立派に発展するためには、姉妹たちのそのような力添えが必要です。しかし、女性たちの組織である扶助協会と、若い女性たちを育てる若い女性組織が立派に組織立てられ、そしてその中で姉妹たちが神の教えを十分に学べる状態にならなければ、本当の意味で、姉妹たちは自分の夫を助けることはできません。

このようにニーファイの妻からたくさん事柄を学べますが、きょう私は、現代の教会で最も偉大な女性のひとりを御紹介したいと思います。それはキンポール大管長の愛する恋人であり、永遠の伴侶であるキンポール姉妹です。

この方のことを少しお話したいと思います。キンポール姉妹が女性について、女性の常に学ぶべき事柄について、扶助協会について、また教会の指導者を支持することについてどのように考えておられるかを御紹介します。

「私にとって一番大切なのは夫です」と、キンポール姉妹は言っておられます。「私は夫の世話をし、夫に必要なことを何でもします。……夫を手伝うこと以上に大切なことはほかにありません。」(Church News「チャーチ・ニュース」1979年1月6日, p.6)

この言葉から大切なことを学べます。また、キンポール姉妹は次のようにも言っておられます。

「たとえ夫から頼まれなくても、何か必要なことがあれば、喜んで夫の手伝いをしたいといつも思っています。」

「私は女性の役割の大切さを痛感してい

ます。公の生活の中で女性の果たす役割が大きいことを決して忘れません。」

「私たち、知識を増し加えることが女性にとって大切であることを、キンポール姉妹から学ぶことができます。彼女はこう言っておられます。

「そのことは非常に大切であると、私は思います。すべての女性は、進歩成長し、学び続けるという責任を負っています。ゆっくりと腰をおろし、何もせずに物思いにふけっている時間など全くありません。」

キンポール姉妹は、妻として、母親としての自分の役割の大切さを痛感しておられます。私はこの度御一緒に旅行する機会をいただき、その様子を目のあたりに致しました。私たち夫婦はこの旅行中の彼女の素晴らしい模範から、多くのことを学ばせて

いただきました。

キンポール姉妹は、御主人をわざわざないよういつも気を配っておられます。家庭のことについてはすべての責任を引き受けておられます。水道代やガス代や電気代を支払い、家屋の補修を手配し、庭の芝生の手入れをし、家庭菜園をつくるのは、御自分の責任であると考えておいでです。

キンポール姉妹はまた、次のようにも言っておられます。

「数カ月前からカレンダーに目を通して、あらかじめ予定に組んでおかなければならぬ事柄にいつも心を留めるようにしています。」

またキンポール姉妹は、教会の姉妹たちにとって一番大切なのは教会に関すること、神のみ業に関することを優先することであ



ると教えておられます。

キンボール姉妹はまた、多忙な日々の合間にねって、花や野菜の手入れを楽しんでおられます。

姉妹の皆様、どうか皆様も、キンボール姉妹のように、美しい自然を観賞する目を持つようにしていただきたいと思います。私たちはあまりにも忙し過ぎます。しかし、読書したり、自然の美しさを観賞することはとても大切です。

キンボール姉妹の容貌は何という美しさを放っていることでしょう。彼女の美しい模範と、彼女の奥ゆかしさ、夫を支持する謙遜な態度、そして神の神権者を全面的に、絶対的に信頼し、信じ、助けておられる彼女の姿を目につくことは、本当に素晴らしいことです。

「私は普通ならあきらめてしまうような事柄に対しても、決して否定的な態度をとったことはありません」と、キンボール姉妹は言っておられます。

大管長と共に出かけなければならぬスケジュールがあっても、キンボール姉妹は、過去50年間受けてきた最も楽しい、また最も生きがいのある訪問教師としての責任をよく果たしておいでです。姉妹の皆様、今月はいかがでしょうか。割り当てられた家庭訪問を、もう達成されましたでしょうか。達成なさった方は、心の中で手を挙げて下さい。私たちは、彼女の素晴らしい模範に従いたいと思います。

彼女はこのように言っておられます。

「同僚と私は、月の第一木曜日にいつも家庭訪問をするようにしています。私は訪問教師の務めが大好きです。これが大きな特権であり、とても大切であることを、すべての女性たちに理解していただきたいと

思います。私はこれまで度々繰り返し申し上げてきましたが、扶助協会の訪問教師とホームティーチャーは教会の活力の基です。目と目を合わせ、個人と個人が交わりを持つこのプログラムによってこそ、私たちは全教会員の必要を知ることができるのです。」

キンボール姉妹は大学を卒業後も、何度か大学のクラスに出席し、文学や歴史の勉強をなさいました。しかし彼女にとって一番の楽しみは、聖典を勉強することです。

私たちも子供たちに、毎日、1節でも2節でも聖句を読んで聞かせることができたら何と素晴らしいことでしょう。

私は最後に、キンボール姉妹の証を皆様にお伝えしたいと思います。姉妹の御主人は重い病気にかかり、手術を何度もお受けになりました。そして姉妹は、手術後の看護を、夜も寝ずになさいました。その手術と、姉妹の温かい看護のお陰で無事に退院なさった大管長は再び元気を回復し、予言者として再び人々の前に立つことができるようになられたのです。

姉妹はこのように証なさっています。

「主のみ手があったのです。そうでなければこのようなことはないはずです。主人は主がなすようにと望んでおられる特別の使命を与えられています。そのために主は、主人の命を長らえて下さったのです。」

皆様に申し上げます。主より与えられた戒めに従順に従い、教会の指導者の言葉に耳を傾け、そして私たちの模範となる方に倣って、この永遠の道を歩もうではありませんか。私はこの道がまさしく永遠の道でありますことを皆様に証し、イエス・キリストのみ名を通して述べさせていただきます。アーメン。



母親の責任と祝福

第二副管長

マリオン・G・ロムニー

母 親に次のような賛辞を送った人がいます。

「ほかのどんな言葉よりも意味のある言葉

誠と真理と愛の言葉

それは『お母さん』

年老いて目はかすみ

頭には白いものが見えても

この地上にあって日々真理を受けるに

値する人、それは『お母さん』」

母親という言葉はどこの国に行っても、最も美しい言葉のひとつに数えられています。そして、愛、家庭、家族、神、天国などの言葉と語源的に関連を持つことが少なくありません。

アブラハム・リンカーンが母親を賞賛した言葉に次のようなものがあります。

「私の現在そして未来は天使のような母に負うところが大きい。」

ジョセフ・F・スミス大管長はこう語っています。

「私は子供の頃、誠実な母親の愛に匹敵するものは、この世にないことを知った。

…母親の愛は神の愛に近いものである。」

またある人は次のような言葉を残しています。

「ゆりかごを揺する人の手は世界を支配する人の手である。」(ウイリアム・ロス・ウォーレス, *The Hand That Rules the World*「世界を治める人の手」)

クラーク副管長は教会の女性の素晴らしいについて、かつて次のように話したことあります。

「この世の初めより、キリスト教会の女性は類まれなる信仰と献身を示してきた。キリストが十字架におかかりになった時、その場にいた使徒はたったひとりであった。しかし、母マリヤ、マグダラのマリヤ、ヤコブの母マリヤ、セベダイの子らの母、それにガリラヤから主に従ってきた女性たちは皆そこにいた。安息日が終わった時に初めて墓に行ったのはマグダラのマリヤであり、彼女は復活したもうたイエスがお会いになった最初の人間であった。」(マタイ27:56 ; 28: 1, 9 参照)

「その時以来今日に至るまで、女性は教会を養い育ててきた。女性は教会が負うべき重荷の半分を担い、半分以上の犠牲を捧げ、数々の辛酸と悲しみに耐えてきたのである。

近代の教会にあって、女性は疑いのない信仰と清き知識を示し、それが神権者を力づけ、教会をあらゆる苦難の中で前進させ

る力となっている。女性の愛にあふれた信頼と献身は、たけり狂う嵐の中で船をしっかりとつなぐ碇となるのである。」(Conference Report「大会報告」1940年4月5日, p. 21)

母親と忠実なすべての女性に賛辞を送ってきたのは人間だけではありません。天の父なる神もそのような女性を大いなる誉れとしておられるのです。神は母親に、第一の位を保ったすべての靈の子供たちを前世から地上へと導く神聖な責任をお与えになりました。そして、この地上に生を受けたひとりの女性に、世の贋い主にして真の神の御子であらせられるイエス・キリストの母になるという類なき誉れが与えられたのです。これ以上のことのが何か必要でしょうか。死すべき人間は、これよりも大いなる機会、大いなる誉れといったものを心に描こうとするでしょう。しかし、マリヤが得た祝福に勝るものは見いだすことができないのです。

しかし、どのような機会や誉れを与えられるにしても、責任を伴わないようなものはひとつもありません。義務を忠実に遂行すればより大きな機会、誉れが与えられ、怠ければ持っていたものを失い、悲しみや時には絶望に陥ることもあります。

母親であることには何の例外もありません。母親の責任は子供を訓練することにあります。女性は子供を生むことによって母親という尊い称号を与えられるのです。主はこの神権時代に啓示を与え、子供を教え訓練する責任は両親にあることははっきりと述べられました。これは家庭の内と外とを問わず、ほかのだれにも転嫁することのできない責任です。そして両親に与えられた、子供を教え、訓練し、養育する責任は、

母親に負うところが非常に大きいのです。

もう一度クラーク副管長の言葉を引用してみましょう。

「教会の姉妹の皆さん、教会の若人の純潔が保たれるかどうかは皆さん的手に委ねられていると言えよう。皆さんは徳の高さというものをかけがえのないものとして大切にしなければならない。そして慎しみという徳を回復させ、純潔の美をもって顔を飾るのである。

イスラエルの母親たちよ、息子たちに尊敬と敬虔の念、それに清らかな女性たちを守ることを教えなさい。また娘たちには、清く汚れない体が何物にも代えられない宝石であることを教えなさい。そして息子、娘の双方に純潔が生命よりも大切であることを教えなさい。」

私はオーストラリアへの伝道へ出発した時のことを今でも覚えています。駅まで一緒に来た父は、予定の汽車が到着するのを待つ間に私にこう言いました。「いいかね、私たちはお前の伝道中、お前のために祈るつもりだ。喜びも悲しみも共にしたいと願っている。そして帰ってくる時には、お前が乗った汽車を迎えにこの駅に来たいと思っている。しかし、お前が伝道中に純潔を失ってしまうようなことになるよりは、お前の遺体を入れた棺を受け取りに来る方がまだだとも思っているのだよ。」

「これらが義に満ちた家庭という搖りかごの中で行なう責任として、管理神権者が皆さんに期待していることである。私たち神権者は、私たちの本来の務めを損なわない限りにおいて援助をする。しかしこの務めにつける責任は母親である皆さんに委ねられている部分が非常に大きい。もし皆さんがこの務めをないがしろにするならば、

全世界は罪と堕落の淵に沈んでしまうであろう。この偉大な務めにあるあなたを神が助けたまわんことを。」(J・ルーベン・クラーク *Conference Report「大会報告」* 1940年4月5日)

母親である皆さん的手に委ねられているのは、若人の純潔の問題だけではありません。教会の若人の福音の原則に対する知識、従順な態度もまた皆さんに負うところが大きいのです。悲しみ、絶望は神が与えられた責任を果たそうとしないところから生じます。この因果関係は避けることのできないもので、簡単に解決できる問題ではありません。それは主に、^{おも}母親に放っておかれたりした子供たちの、何か足りないところのある生活に原因があります。そして、こうした状態が嵩じてくると、遂にその子供を失ってしまうことにもなるのです。

より大きな機会、高い誉れといったものは、この喜びに満ちた責任を忠実に果たす時に与えられていくものです。そして子供たちも清く義しい男女へと成長し、皆さんの永遠の喜びとなるのです。子供たちは皆さんを敬い、かつてのニーファイのように、自分は「善い父母から生まれた」(Iニーファイ1:1)と言うことでしょう。子供たちがそう言うのは皆さんが彼らに生を受けさせたからだけではありません。真理と正義の道の中で訓練し教えてくれるからなのです。このことをニーファイは「父の知っていたすべての学問の中からいくらかの教えを受けた。」と言っています。そしてニーファイの甥にあたるイノスはこう言っています。

「私の父が父の言葉で教え、また主の愛と誠命とを私に教えたから、父が正しい人であることを知っている。かのように父に教

えを受けたから、私は私の神の御名を讃美する。」(イノス1)

イエス・キリストの福音が忠実で高潔な女性にもたらす報いは、世のいかなるものをもってしても代えることのできないものです。回復された事柄の中には、私たちがよく知っている、家族の絆は死後も続くという素晴らしい教義があります。私たちはこの現世においてだけでなく、死の扉を越えて不死不滅の生命を受ける時にも母親との絆を保つことができます。私たちは栄光の復活の時に優しく抱き合い、あいさつを交わし、皆さんを「お母さん」と呼ぶでしょう。こうして皆さんは永遠に光栄を受けることになるのです。

昇華し永遠の生命を受けるに値する女性たちは、やがて靈の子供をもうけます。偉大な末日聖徒の詩人エライザ・R・スノーは、新しい啓示の光を受けて想像力を刺激され、天の母のことについて書きました。皆さんもこの「天の母」になることができるのです。この素晴らしい詩を皆さんも御存じのことでしょう。

「み親は一人か 深く思えば
永遠の真理は告ぐ 天に母ありと

この身を横たえ 世を去るときには
父母と高きにて われは会えるや

仰せのみわざみな 成しとげしとき
受け入れみそばに 住まわせたまえ」
(讃美歌140番「高きに栄えて」)

神が、私たちが力を尽くして求める時に祝福を与えて下さいますよう、へりくだつてイエス・キリストのみ名を通してお祈りします。アーメン。



悔い改めと赦し

第一副管長
マリオン・G・ロムニー

感謝すべき事柄はたくさんありますが、そのひとつに、罪の清めのために備えられた悔い改めの道があります。私は贖いによって人に悔い改めの賜を授けて下さった主イエス・キリストに感謝しています。イエス・キリストが私たちのために、進んでその命を捧げて下さったことに感謝しています。キリストはほかの道を選ぶこともできました。死を免れることもできたのです。なぜなら、キリストは神の子であり、人間のように堕落の影響下にはなかったからです。キリストはその内に、永遠に生き長らえる力を持っておられました。キリストはこのように言われました。「私は羊のために命を捨てるのである。だれかが、わたしからそれを取り去るのではない。わたしが自分からそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる力があり、またそれを受ける力もある。」(ヨハネ10:15, 18)キリストはこの死を超越した力を父なる神から受け継いでおられました。

正義の要求に応え、その負債を支払って人類に復活をもたらすためには、死を超えた力を持つ御方が必要でした。人類の罪に対する正義の要求を満たすためには、罪のない御方である神、すなわち罪のない神の御子が求められたのです。人は自分で自分

を贖い、それによって、復活し、自分の罪を償い、靈的に生まれ変わるということはできません。

繰り返しになりますが、私は贖い主に感謝しています。それは今述べたようなことがあるからです。主は負債を支払い、悔い改めの道を備えて下さいました。それによって人は自分の罪を悔い改め、贖いの血の効力を受け、罪の清めを受けることができるのです。つまり、人は自らなし得ることをすべて果たして初めて、キリストの恵みによって救われるのです。私たちにできること、またしなければならないことは悔い改めることです。私は悔い改めの原則を愛しています。

私はここ数カ月の間にこの悔い改めの原則の大切さを何度も感じてきました。いろいろな所で、宣教師、聖徒、また教会員でない方々が神のみこころにそった悲しみを味わっている姿を見てきました。人々は私にこう言いました。「ロムニー兄弟、私に望みはあるのでしょうか。福音のはしごの一番下の段に足をかけることができるだけでよいのです。」

私は彼らが悲しんでいる様を見るにつけ、過去の時代、自らの罪を悔い改めた人々の悲しみを思い起こしました。そのひとりに

ゼーズロムがいます。彼はアルマとアミュレクに敵対して自分がしたことを悔やみました。「自分に罪があることを悟りその心を非常に悩ました。ゼーズロムはまことにようやく地獄の苦しみに取り囲まれたのである。」その苦しみは激しいもので、ゼーズロムは「サイドムに居て燃えるような熱病にかかり床についていたが、この病気はかれの罪悪のために心にはげしい苦しみを覚えて起ったのである。」(アルマ14, 15章参照)

アルマも教会を滅ぼそうとして味わった苦しみを次のように述べています。

「私は自分が犯した一切の罪のために非常に良心のとがめを受け永遠の責苦を感じた。…私は地獄の苦痛を感じ、…言いようのない恐怖で、責苦を受ける者の苦痛を感じた。」(アルマ36章参照)

しかし私は、この人たちが罪を悔い改めて赦しを得た時に味わったやすらぎについても思い起しました。「お前に言うが、私がその時に感じたほどの劇的な苦痛がこの世にまたとあろうか…またその時に感じたほどの甚しく美しい喜びがこの世にまたとあろうか。」(アルマ36：21)

以上のことから、私は自分自身の心に安らぎを覚えると共に、私に心を打ち開けて下さる人々の力になりたいと思いますし、悔い改めに伴う悲しみを味わっているすべての人が心に平安を得ることができるよう励ましを与えたいと願っています。アルマの物語と同じように、パウロが残した「…神のみこころに添うた悲しみは、悔いのない救いを得させる悔改めに導き…」(IIコリント7:10)という言葉も私たちに慰めを与えてくれます。過去の時代だけでなく現代においても、神のみこころにそった悲しみを示し、悔い改める人はだれでも、キリスト

のものとに希望、平安、慰めを見いだし、救いを得ることができます。赦しというものは悔い改めと同じように広い意味を持っています。人は心から悔い改めるならば、すべてその罪を赦されます。自分が犯した一切の罪を悔い改めるならば、私たちの救い主、主イエス・キリストの贖いの力によって、しみのない状態で神のみ前に立つことができるのです。一方、悔い改めの原則を生活の中に取り入れない人は、「神の子による罪の贖いがなかったと同じような有様であって、ただ一つ死の縄目だけは解かれるのである。」(アルマ11:41) これが神の憐れみの計画の本質です。

兄弟姉妹の皆さん、教会員の中にも罪の告白によって悔い改めを完うすることをせず、苦しみや悩みを不必要に延ばしている人が多くいます。救い主の次の言葉を覚えておられると思います。「汝悔い改めよ。われ汝に今言いたる懲しめを与えざらんがために汝その罪を告白せよ。」(教義と聖約19:20)

別の啓示ではこのように言われています。「人罪を悔い改めしや否は、見よ、彼は自らこれを告白しその罪を捨てければ、その悔い改めたることはこれによりて知るを得べし。」(教義と聖約58:43)

「死に当るべき罪を犯さずして」(教義と聖約61:2; 64:7参照)謙遜な心をもって告白をする人々の罪は赦されます。こうあります。「すでにその罪を悔い改めたる者は赦され、主なるわれもはやこれを忘るべし。」(教義と聖約58:42)

しかし、この戒めに完全に従うにはどうしたらよいのでしょうか。罪の告白はだれにすべきでしょうか。教義と聖約第59章で主は安息日に関する戒めと合わせて、次の

ように言っておられます。

「されどこの主の聖日に於ては、いと高き者に汝の捧げ物と聖式とを奉りて、兄弟たちに向い主の前に於て汝の罪を告白するを忘るべからず。」(教義と聖約59:12)

自分が犯した罪の一切を主に告白する、これは当然のことです。その罪が主と自分とだけに関わる全く個人的なものであり、ほかのだれにも影響しないものであるなら、主に告白するだけで十分だと思います。

他の人に影響を与えた場合は、その相手にも罪を告白し、赦しを求めるなければなりません。

また、その罪がイエス・キリスト教会の会員としての資格や権利を危うくするものである場合は、監督や適切な管理役員に告白する必要があります。ただし教会の役員に罪を赦す力があるというわけではありません。(その力を持っているのは、主御自身と特にその権能を委任された人だけなのです)教会は正式に任命された役員を通して事実関係をすべて調べた上で決定を下し、教会の規律に照らして状況に応じた措置を講じます。

完全な告白をして自分の罪を捨て、主に對して、また自分が影響を与えた人々やイエス・キリストの教会に對して自分の行ないを清算した人は、キリストの恵みに頼り、確信をもって主の赦しを求める、新しい人生に歩みを進めることができるのです。

このようにして義しい生活を送る準備をし、永遠の生命への道を歩もうではありませんか。そうして初めて、自己不信、失意、恐れ、疑い、自己嫌惡といった前進の妨げとなる罪の意識を取り除くことができるのです。罪を捨てることや告白を引き延ばせば、それだけ自分の贖いの日を遅らせるこ

とになります。

「過去という重い石をかかとに下げより高い己を目指して飛躍しようとするあなたの力を弱めるのでなく蝶が喜びをもって、さなぎの時からを破って出る時のように過去を離れ、自己の真実の姿を目指して歎びのうちに立ち上がりうではないか」

私たちにその気持ちがあるなら、これは今日にもできることです。アミュレクは次のように約束しています。「もし悔い改めて心をかたくにしないならば、偉大な贖いの計画はすぐにあなたたちにその効果を及ぼすであろう。」(アルマ34:31)

また、ジョセフ・F・スミス大管長はこう語っています。

「従順、信仰、悔い改め、罪の赦しを得るためのバプテスマを受け、贖われた状態で、生きそして死を迎える子供たちは、サタンの力に支配されることはない。彼らは罪を知らずにこの世を去った幼な子と同じようにサタンの力を受けない者となるのである。」(Gospel Doctrine「福音の教義」p. 570)

私たちが皆、神の恵みによってそうなることができるよう、贖い主イエス・キリストのみ名によってお祈りします。アーメン。





完全な者となる

十二使徒評議会会員
マーク・E・ピーターセン

兄 弟姉妹の皆様、このように大勢の方々をお迎えして、まことに胸の高鳴る思いが致します。この場に皆様と共に集えるという特権に心から感謝します。また、素晴らしい歌を歌って下さいました聖歌隊の皆様に感謝します。何と美しい歌声でしょうか。私は特に、先程の「汝、聖なるかな」という歌に深い感銘を受けました。私たちは、全能の神が清く聖なる御方であることを常に忘れてはなりません。神をないがしろにしたり、みだりにそのみ名を唱えたり、あるいは、神の期待に背くようなことをしてはならないのです。

主は私たちに戒めを与えて下さいました。それは、私たちが神に似た者となるための戒めです。私たちは神の子供であることを忘れてはなりません。使徒パウロは、われわれは神の子孫であると述べています。イエスは「天にましますわれらの父よ」と呼びかけて神に祈るよう教えられました。神はまさしく私たちの御父であり、私たちは父なる神の子供なのです。そして、私たちは神のようになることができます。それは可能であるばかりか、父なる神がそのように命じておられるのです。皆様も御存知かと思いますが、イエスは山上の垂訓の中で次の偉大な戒めを与えられました。

「あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。」(マタイ5:48)

この偉大な目標に到達する方法を示すために、主は私たちに様々な戒めを与えておられます。しかし、戒めだけではありません。主は聖徒たちを完全な者とするために、教会を与えて下さいました。皆様にとって教会がどんなに大切なものか、お分かりでしょうか。

神は私たちの御父です。そして、私たちは御父のようになりなさいと命じておられます。私たちは自分自身の力で神のようになることはできません。そこで、私たちが完璧を受けるその手段として、教会が与えられたのです。ですから、私たち一人一人が教会の中にあって活潑でなければなりません。教会なくして完全な者となることはできません。教会に不活潑であっては、救いを得ることはできないのです。救いは教会で活潑に活動することによりもたらされます。私たち一人一人が教会にあって活潑な会員になるべきなのです。集会に出席し、監督や支部長から与えられた責任を受け入れ、家庭において福音に従った生活をし、愛と思いやりに満ちた家庭を築くのです。

主は「自分を愛するようにあなたの隣り

人を愛せよ」(マタイ22:39)と言われました。最も身近にいる隣人は、夫や妻や子供たちです。心から彼らを愛し、思いやりを示して下さい。虐待するようなことがあってはなりません。キリストのような思いやりを持つのです。もし私たちが不親切で思いやりのない行ないをするなら、それは悪魔から出るものです。家族の中を愛で満たし、家庭の中で福音を教えようではありませんか。そして、教会に活発に集うようにしようではありませんか。

私は厳肅な気持ちで、この教会が唯一まことの神の教会であることを証します。この教会はイエス・キリストの教会です。救いは主のみ名と主の教会からしかもたらされません。私は、主イエス・キリストの教会がこの末日に回復されたことを証します。この教会はまことに神の教会です。また私たちを救いに導く主の道です。これらのこととを主イエス・キリストのみ名により、心から証します。アーメン。





「みんな、どこにいるの」

七十人第一定員会会員
マリオン・D・ハンクス

兄 弟姉妹の皆さん、今ここで証ができることを光栄に思っております。私たちは東南アジアの聖徒の皆さんと親しく接する機会を得、そこで素晴らしい経験をさせていただきました。そして指導者の兄弟姉妹たちの強い証を聞くことができました。

東京神殿の献堂式では、誓約ということについて多くのことが語られました。誓約とは契約を交わすこと、つまり約束することです。そして特に神との間に交わされる誓約は、神聖な誓約と呼ばれます。神殿内で交わされる誓約のひとつに、結婚の誓約があります。ジョセフ・フィールディング・スミス大管長はこの誓約を「神殿における誓約の集大成であり、他の誓約をすべてひとつにまとめ、成就するものである」と語っています。私たちは、神殿結婚の備えをし、主の聖なる宮居にその儀式を受けに行きますが、その時私たちは聖壇をはさんで向かい合ってひざまずきます。すると主から権能を授けられた職員が、ひとつの質問に答えるように言います。その質問は、大きくふたつの部分に分けられます。まずひとつは、私が理解しているところでは、こういう意味になります。

「あなたはこの神の息子（娘）を永遠の伴侶として受け入れますか。彼（彼女）を

この世から永遠にわたる旅路において、そのままの姿で受け入れますか。」

私たち人間が、結婚というものに完全さをもたらすことはできませんし、また完全さを要求することもできません。しかし、愛する伴侶を愛という環境で包み込むことができるよう備えをすることはできます。そうすることによって、夫も妻も、目指す人格に到達することができるのです。このように準備できてこそ、初めてひとりの他人を自分の永遠の伴侶として受け入れられるのです。

質問のもうひとつの部分は、夫婦もしくは新しい家族としての私たちに向けられたもので、「結婚生活において主を受け入れますか」というものです。すなわち、主を結婚生活の伴侶として、そして主のみたまを私たちの家族の導き手として受け入れますか、ということです。もし備えができていれば、私たちはこの質問にも「はい」と答えることができるでしょう。

こうして神殿に行き、以上の質問に「はい」と答えて神殿を出て来た人は、交わした約束を守るという神聖な誓約を神と結んだことになります。主は私たちに素晴らしい祝福を結び固めて下さっています。その祝福を受けるために、だれもが続けて神殿

に参入したいと思うようになるでしょう。私たちは誓約をどのようにして守ればよいのでしょうか。それは、主の戒めに従うことによってです。また夫婦がお互いを愛をもって心から受け入れることによってです。さらに、主のみたまと力が常に家庭にとどまるような生活を送ることによって誓約を守ることができます。すなわち、眞の家族を確立してこそ、初めて主と交わした約束を守ることになるのです。ですから私たちは、互いを思いやり、愛と尊敬の気持ちを示し、互いに誠実である必要があります。そのような家族では、家族一人一人の存在が非常に大切なものです。



私の今までで一番楽しかった思い出は、5人の子供がまだ小さかった頃に起こった出来事です。妻が集会に出席するために家を留守にしておりました。一番下のひとり息子は外で遊んでいました。4人の娘と私は家の中にいました。すると息子が家に入って来てこう言いました。「みんなどこにいるの？」その時家を留守にしていたのは母親だけなのです。彼にはほかの5人の姿が目に入ったはずです。しかし彼は「みんな」がどこにいるのかと尋ねたのです。彼にとって母親は「みんな」でした。つまり、母親がいなくては完全ではなかったのです。家庭では、一人一人が大切であり、貴重な存在です。

神殿が大切な理由はそこにあります。すなわち、私たちが神聖な誓約を交わし、それを守るならば、この世から永遠にわたって家族が共にいることができるのです。

私はこれが主の業であることを証します。福音はこの地上に回復されました。イエス・キリストの教会がこの地上に回復されたのです。また神権ももたらされました。そして神の王国の鍵が再び人に託されたのです。その鍵はキンポール大管長がお持ちです。私たちは、聖なる神権を持つ者としてふさわしくあるならば、その祝福を受けることができるのです。そして、この鍵を通して、私たちは主の宮居において主と永遠の誓約を交わすのです。私は永遠の国において家族のだれかが欠けているために、「みんなどこにいるの」と言うことのないようにしたいと思っています。皆さんにもそのようなことがないように願いつつ、イエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン。



奇跡の国

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

き ょうこのようにしてこの会に集うこと
ができる、心から感謝しています。再び
このようにして大阪の地を訪れることがで
き、心から感謝しています。私は15年前に
見た奇跡について皆様方にお話したいと思
います。

11月のある日、私は飛行機で大阪にやっ
てきました。この地域の宣教師たちと会合
を開くためです。古い岡町の建物で大会を
開きました。それは古びた日本式の建物で
した。宣教師は一人一人証を述べました。
彼らが語る言葉の中には信仰があふれてい
ました。その中にただひとり、とつとつと
した日本語で、しかもほんの少ししか証を
述べなかつた宣教師がいました。その集会
の後、私は宣教師一人一人と面接をしま
た。その若い宣教師が私の部屋に入ってきた
時、私は、彼と握手をして背の高いその
宣教師の顔を見上げました。そして私は、
どうかしたのかと尋ねました。彼はその場
に泣き崩れました。ようやく気を取り直し
た彼を見て、私はどうしたのかと再び尋ね
ました。「私は日本に来て3カ月になります
が、まだ日本語を話すことができません」と
彼は答えました。その当時はまだ宣教師
訓練センターがありませんでした。彼は、
日本語が雑音にしか聞えないと言いました。

どの日本語の言葉も区別がつかないと答
えました。彼は死にたいほどがっかりしてい
ますと言いました。彼は母親に、理由があ
って家に帰らなければならないようすと
手紙で知らせました。このような状態でこ
れ以上伝道を続けることはできないと言
うのです。それから私たちはしばらく話をし
ました。彼は私に、祝福をして下さいと頼
みました。私は彼の頭の上に手を按き、聖
なる神権のみ名によって祝福を授けました。
その時、私は彼が日本語を学び、上手に話
すことができるようになると感じました。
それから彼と握手をして別れ、彼は再び伝
道の業に戻っていました。そして3カ月後
に、彼からひとつの便りを受け取りま
した。その手紙の中には「奇跡です。私は今、
日本語でレッスンをしています」と書かれ
ていました。その後、彼はゾーン・リーダー
になり、伝道部長の補佐を務めるようにも
なりました。日本に来る宣教師たちを訓
練する言語訓練の責任者にもなりました。
伝道を終えて、再び学校に戻り、大学も無
事に卒業しました。それからアメリカの有
名な大学の奨学金を得るようになりました。
彼が奨学金を得るようになった理由のひと
つは、彼が日本語に精通していたからです。
それから彼は博士号を得て、アメリカ政府

で働くようになりました。その後、3年間日本に滞在し、そしてワシントンに住むようになりました。数年前、天皇陛下がアメリカを訪問した時、彼は同じ部門で働く5万人の政府関係者の中から選ばれて、天皇陛下がアメリカ中西部を旅行された時に、その公式通訳者として働きました。この日本の国では奇跡が起こってきました。この大阪の地でも奇跡が起こるのです。もし私たちが信仰を持って生きるならば、これからも数々の奇跡が起こることでしょう。

私はまた、この日本の地で起こったもうひとつの奇跡も見てきました。5年前に東京の地域大会で、神殿が献堂される時まで5万人の教会員になるようにというチャレンジを差し上げました。菊地長老は、私たちにそのチャレンジを達成したことを教えて下さいました。

そこで私は今、皆様方にもう一つのチャレンジを差し上げたいと思います。1985年までに教会員を10万人にしていただきたいということです。それには、毎年1万人の改宗者を得ればよいわけです。私たちは、それを信仰によって達成することができます。私は皆様方にはそれができると確信しています。私は日本の民を知っています。日本人は心の中で決心したことを必ず成し遂げる民であることを知っています。特に、ひざまずいて主に助けを願い求めるならば、達成することができます。この日本の地は、教会が将来、驚くべき勢いで発展する所です。この集会の初めに、聖歌隊の皆さんがあまい讃美歌を歌って下さいました。この歌はパーレー・P・プラット長老が作詞したものです。プラット長老はこのみ業のために命を捧げた人です。その讃美歌の歌詞に次のように記されています。

夜あけだ 朝あけだ
シオンの旗掲げよ
あかるい夜あけだ
おこせか
嚴にあまねく

兄弟姉妹の皆さん、私はこの言葉を心から信じています。この明かるい夜あけが今日本に始まっていることを知っています。この国は日出する国です。日が出するよう、教会が出する国にしようではありませんか。主の権能によって、私たちはそれを実現することができるのです。

私は、ヒーバー・J・グラント大管長が1901年にこの国を奉獻した時の話に深い関心を持っていました。当時、み業はなかなか思うように進みませんでした。6年間働いて、わずか7人の改宗者しか得られませんでした。そのような中で、ヒーバー・J・グラント長老は次のように言われました。

「私には、この伝道部が教会の中で最も成功した伝道部のひとつになるという搖るぎない確信がある。最初はゆっくりとした歩みかも知れない。しかし刈り入れは偉大なものとなり、やがてそれは世の人々を驚かすものとなるであろう。神がそのみ手をこの国之上に注いでこられたからである。」

この言葉は、グラント大管長が予言者として語られた言葉です。また皆様方日本の民について述べられた言葉です。私たちはそれを成し遂げることができます。もし私たちが福音に忠実に生活し、私たちが交わるすべての人々に模範を示し、愛と友情と感謝の気持ちで人々に手を差し伸べるならば、必ず私たちはこの予言を成就することができるでしょう。教義と聖約121章33節に次のように記されています。この聖句は教会歴史の暗く、悲しむべき時代に記されたものです。聖徒たちは暴徒によって家を

追われました。しかし、予言者ジョセフ・スミスは主の靈感によってこう語りました。

「流水いつまでもか濁りてあらん。如何なる力かよく諸天の運行を止めんや。何人かよくかよわき腕をさし伸べて、神の命じたまえる水路を流るるミズーリの流ながれを止め、またはこれを逆流せしむることを得んや。もし、よくこれを為し得れば全能の神が末日聖徒の頭上にいと高き所より知識を注ぎたもうを止むることを得ん。」

愛する兄弟姉妹の皆さん、これは主のみ業です。このみ業の発展を阻止しようとする人が現われるかもしれません。しかしだれもそれを止めることはできません。この教会の行く末は決まっています。その使命

は全能の父なる神が定められたものです。すなわち、私たちの教会はこの地上に転がり出でて全地を満たすのです。そして、私たちはそのみ業の一端を担っています。何と素晴らしい機会でしょか。私たちが負っている責任は何と大きなものでしょ。

私は、今日が主の約束の日であると信じています。主は予言者ニーファイを通して次のように語りました。

「国民は一つより多くあるを知らずや。汝らの神にして主なるわれが万人を造りしを知らずや。またわれが海の島々に住む者のことを忘れざるを知らずや。」(IIニーファイ29:7)

日本はこの聖句にある海の島々の国です。



そして古代アメリカの民に約束されたと同じように、主が、この海の島々に住む民をいつも心にかけておられることを、私は信じています。

先日、私は1500人の宣教師と会いました。この日本の地では、現在1500人の宣教師が働いています。その内1200人はアメリカ大陸から来た宣教師です。私は彼らの顔を見ながら、ここにもうひとつの奇跡があると感じました。この独立国家日本が、1200人の外国人を喜んで受け入れ、しかもその外国人の行なう事柄に対して何の規制も課していないのです。何と素晴らしいことではないでしょうか。私はこの状態が永遠に続くように願っています。世界の歴史をひもといてみると、こうした情勢は変化するものであることがわかります。ですから、今こそ、私たちが自由にそのみ業を進める時だと思います。私たちは今、松下電器株式会社のご厚意によってこの会場に集っています。これは私たちが行なっていることに好意を示して下さっていることのしではないでしょうか。この神の祝福がある間に、私たちは互に祝福を分かち合おうではありませんか。

来年の8月は、この国に伝道が開始されて80年になります。私は今一度、東京の大会で申し上げたことを繰り返したいと思います。来年の8月、あるいは9月1日に、すべてのステーキ部、伝道部が初めてこの国を訪れた4人の宣教師に感謝して何らかの記念事業をするように計画していただきたいと思います。その備えとして、まずここに集っているすべての人々にモルモン經を今一度読むようチャレンジしたいと思います。私がそう申し上げるのは、それを通して皆様方の生活に靈性が増し加えられる

からです。また、神に近くあることができるからです。

次に、ここに集っているすべての成人会員が、ふさわしい生活をして、神殿推薦状を得るようにしていただきたいということです。なぜならば、この神殿推薦状は、皆様が教会の標準を守って生活していることの証明書だからです。また、皆様が主の聖なる宮居に入るにふさわしいことを保証するものだからです。

最後に、来年の8月までに、皆様方が主の導きと助けを求める、信仰と主のみ業を愛する気持ちを他の人々と分かち合っていただきたいと思います。皆様方は必ずそれを実行することができます。神の祝福があつて、それらを達成することができるでしょう。もしそれを行なうならば、皆様方は今まで経験したことのないような喜びを得るに違いありません。

兄弟姉妹の皆様、私は皆様に、そしてこの国に心からの私の愛をお伝えしたいと思います。主がこの国とこの国の民を祝福して下さいますよう祈っています。また皆様方とその家族の上に祝福がありますように。私はこのみ業が真実であることを証申し上げます。私は永遠の父なる神が生きておられるることを知っています。イエスがキリストであり、私の救い主、贍い主であり、私に救いをもたらす御方であることを知っています。また、生ける神の御子であることを証します。私はまた、ジョセフ・スミスが予言者であり、この神のみ業を全世界に知らしめる人であったことを知っています。そして今この場に、今日の祝福を与える予言者が集っていることも証します。これらのことを行なうことをイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



福音を分かち合う

大管長
スペンサー・W・キンポール

愛する兄弟姉妹の皆様、本日皆様方とお会いでき私の心は喜びで一杯でございます。この麗しい国の麗しい人に会うことができ感無量でございます。1975年8月の地域大会以来、この国において教会が目をみはるほどの発展を遂げてきたことに、私は強く胸を打たれております。

また、1830年4月6日に、ニューヨーク州フェイヤットで教会が設立されて以来、この教会全体も目覚ましい発展を遂げてまいりました。教会の設立に立ち会ったわずか6名の会員から、今日では実に450万人の会員を擁するようになっています。私は150年の教会歴史のうちの85年を生きてきて、その驚くべき発展をつぶさにこの目で見てまいりました。

しかしながら、それでもその数は少ないと思います。私たちはすべての国民、民族、国語の民、人々に福音を宣べ伝えるよう主から責任を託されており、その責任を果たそうとするためには、もっと歩みを速めることが必要でございます。

小さいソルトレーク市には街角ごとに礼拝堂があり、ステーキ部もたくさんあります。このような状態を全世界で実現するようにしなければなりません。それは確実に実現されつつあります。そこで私たちは皆

様に、皆様方の偉大な国における教会の発展に尽力して下さるようお願い致します。と申しますのは、教会の伝道プログラムと教会の発展はひとえに、皆様方一人一人と主に負っているからであります。皆様がステーキ部や伝道部、または皆様自身の家庭で行なっておられる業については特にこのことが言えると思います。今朝このようにして大勢の皆様方を前にし、私は素晴らしい機会が私たちの前途に横たわっていることを感ずるのであります。

もしも今日この会場においての皆様方が1年以内に他の家族をひとつ教会に導くならば、やがて私たちの利用している建物では足りなくなるほど、教会は急速に世界各地に広まるに違いありません。

隣近所の人々を見過ごしにしないようにして下さい。福音を必要とし、待ち望んでいる立派な人々が大勢いらっしゃいます。そのような人々は機会さえあれば、福音を耳を傾けるのであります。しかし、福音を彼らに伝えることができるのは、皆様方や私たちを置いてほかにいません。福音は値ぶみのできない貴いものであります。幼い子供たちですら、この福音を他の人々に分かちえるとは、何と驚くべきことでしようか。少年や少女も、学校で、また遊ん

でいる時に、友達や知人に福音の教えを伝えることができます。

現在、3万人以上の若い男女、また夫婦の方々が専任宣教師として伝道に携わっていることは実に素晴らしいことであります。しかしそれとても、伝道プログラムのごく一部分にすぎません。警告を受けた者は隣人に警告するようにと、主は言っておられます。すべての男女、子供たちは、この大会を終えてお帰りになる時に、親戚や友人の方々に福音を伝えようとの決意を新たにして下さるようお願いします。

この教会のすべての若い男性、また多くの若い女性は、伝道に出るようこれからも計画して下さるようお勧めします。また、若い男性や若い女性が清くふさわしい生活を送れるように、家庭の夕べや家庭生活において彼らを教え、しつけるようにして下さい。なぜならふさわしい生活を送っていない人は宣教師になれないからであります。

宣教師を召す今ひとつの理由は、これら若い男性たちに2年間訓練を得る機会を与え、彼らが将来ワード部の監督やシオンのステーキ部の高等評議員、ステーキ部長会の一員になる準備をさせることであります。

さて、もうひとつの種類の伝道活動があります。それは古いも若きも年齢を問わず、全員が行なわなければならない伝道活動です。死者や、自分自身の家族の系図と神殿活動がそれです。いまや、日本には神殿があり、これまで以上に神殿に参入しやすくなりました。ほどなくして、東洋の偉大な国々のほとんどに神殿が建てられる日が来ることでしょう。私たちはすべての家族がそれぞれの家庭の夕べで、また家族の集いで、さらに教会の集会においても、いつも神殿と系図のことを語り合うよう願っています。

皆様方全員が記録をつけて下さるように、すなわち家族の記録を持たない家族のないように願っています。先祖の記録だけでなく、日記を書いて自分自身の記録も残すようにして下さい。

兄弟姉妹の皆様、信仰箇条第12条には次のようにあります。「われらは、王、大統領、統治者、長官に従うべきを信じ、また法律を守り、敬い、支うべきを信ず。」私たちはこのことを信じており、出向いた先々の地でこのことを教えて参りました。皆様の国に、また皆様の指導者に忠実であって下さい。



い。国の法律を守って下さい。良い公民、良い隣人であって下さい。

愛する兄弟姉妹の皆様、この素晴らしい地域大会を終えるにあたって、皆様方一人一人に今一度私の深い愛をお伝えしたいと思います。そしてこの大会においで下さったことを心から感謝申し上げます。

本当に忘れがたい栄えある大会でございました。私たちは皆この大会をいつまでも忘れないことでしょう。もう一度私の気持ちを申し上げたいと思います。5年前の1975年8月にこの地を訪れて以来の、この美しい国における教会の発展に私は深く心を打たれております。

先程、ヒンクレー長老はこの国でこれまでに起こったことについて詳しく話して下さいました。私はこのヒンクレー長老が述べられたことに賛意を表し、提案なさったことに心から従いたいと思います。

14歳の少年ジョセフ・スミスが森に入って祈ったことで、多くの驚くべき出来事が起きました。御父と御子が親しく訪れたまい、ジョセフ・スミスに語りかけたもうたのでございます。御二方はこの14歳の少年にみ姿を現わし、回復された福音の貴い教えを与えられたのでした。

14歳の少年が森に入って祈った結果、全世界の大勢の人々が福音の教えに耳を傾け、まことの教会に加わったのであります。

14歳の少年が森に入って祈ったことで、現在3万を越える専任宣教師が世界各地に出かけて行き、御父の子供たちに福音を宣べ伝えているのであります。

福音は宣べ伝えられ、教会は栄え、人々から主は讃美を受けていらっしゃいます。神は実に生きておられます。イエス・キリストは神の御子であり、すでに栄光を

受けられた御方です。私たちは皆様方とひとつになって、これらの大いなる祝福の故に主に感謝を捧げるものであります。

兄弟姉妹の皆様、皆様の周りに家族を引き付けておくようにして下さい。もしも何か誤解があるならば、それを晴らすようにして下さい。互いに赦し、忘れるようにして下さい。過去の退廃的な気持ちを抱き続けることのないように、また愛と命をそこなうことのないようにして下さい。皆様の家庭を整えて下さい。互いに愛し合い、また自分自身のように隣り人を愛して下さい。本日、教会の幹部の皆様がお話をされたように神の戒めを守り、神に近づくようにして下さい。

今や私たちは皆様にお別れを言うべき時が来たようであります。皆様方の頭に、また家族の上に祝福を残したいと思います。また主のために行なうことには主の祝福があるように願っています。どうぞこれから主が与えようとされている祝福を受けるにふさわしくあって下さい。兄弟姉妹の皆様、私たちは皆様方をこよなく愛しております。この大会で皆様方にお会いし、また交わることによって皆様方に対する愛が一段と増し加わりました。この大会からお帰りになられます時に大会で味わった気持ちをそこなうことのないように気を付けていただきたいと思います。

私は深くへりくだって証を述べると共に、皆様方と家族の上に祝福があるよう主にお祈り致します。真理と讃れをしっかりと保つようにして下さい。私は皆様に私の愛と祝福をお残し致します。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



誓約に伴う神権者の責任

十二使徒評議員会会員
マーク・E・ピーターセン

兄 弟の皆様、ありがとうございました。皆様の歌声は、英語でも日本語でもすばらしいものです。どの言葉で歌っても、みたまは同じです。

キンボール大管長より、ここで話をするようにと言われました。私は十二使徒評議員会会員のマーク・E・ピーターセン長老です。

今朝、このように大勢の神権者をお迎えして、実に胸の高なる思いが致します。皆様を心から歓迎します。この地の教会の組織にあって、皆様が大いなる力を發揮しておられることを感謝します。神の神権を授かる兄弟たちがこのように大勢おられることをうれしく思います。これは神の神権です。私たちはこの神権をメルケゼデク神権とも呼んでいます。正式な名称は「神の御子の神権の聖なる神権」です。しかし、神のみ名をみだりに口にするのを避けるために、この神権をメルケゼデク神権と呼ぶように言われています。

この会場には、アロン神権をお持ちの方もおいでだと思います。アロン神権もまた聖なる神権です。私たちはアロン神権をお持ちの方々が、いつの日かメルケゼデク神権を受けられるように願っています。

神権を受ける人は、誓約によってそれを

受けます。これはどういう意味でしょうか。私たちは神権を受ける時、神と誓約を交わすのです。誓約とは、神と私たちの間で交わされる契約です。つまり、神のすべての戒めに従って生活することを約束することです。教義と聖約の第84章には神権の誓詞と誓約が具体的に記されています。

「汝ら神の口より出るすべての言によりて生くべければなり。」(教義と聖約84:44)

これは聖なる約束であり、私たちが決して破ることのできないものであります。

神はまた私たちに別の誓約を与えてくださいました。バプテスマを受ける時に、私たちは生涯主に仕えるという約束をします。また主の聖餐にあずかる時に、別の誓約を交わします。その誓約がいかに大切なものであるか、考えていただきたいと思います。主の聖餐はどのような意味を持っているでしょうか。それは主が十字架におかかりになったことを示しています。私たちは裂かれたパンを主の肉の記念としていただきます。また十字架上で流された救い主の血の記念として水をいただきます。主の贖罪は、歴史上最も偉大な出来事です。従いまして、主の晩餐である聖餐の儀式は、この教会で最も重要な儀式のひとつなのです。

主の贖罪はふたつの部分に分かれています

す。ひとつは、主が十字架上で私たちのために亡くなられたということです。もうひとつは、救い主が死からよみがえられたということです。主は私たちに、贖罪を象徴するふたつのものを与えてくださいました。世の人々は、十字架がキリスト教の象徴であると考えています。しかし、救い主はそのような象徴を私たちにお与えにはなりませんでした。救い主が与えてくださったのは、贖罪を表わすふたつの象徴です。この象徴により、主が私たちのためになしてくださったことを思い起こすのです。主が十字架におかかりになったことを象徴するものは、主の聖餐です。主が葬られた後に復活されたことを象徴するものは、罪の赦しを得るために水に沈められるバプテスマです。浸礼は主が認めておられるバプテスマの唯一の方法です。私たちは水に沈められることによって葬られ、水から上がるこことによって復活と同じ意味のことを受けるのです。主が墓に葬られたように、私たちは水の中に沈められます。そして、主が墓からよみがえられたように、水から出て来て、新しいみたまに満ちた生活を始めるのです。皆様は、主の聖餐とバプテスマの儀式がいかに重要なものであるか、お分かりになったことと思います。これらの儀式は誓約によって執行されます。私たちは全能なる神に、全身全霊をつくして仕えることを約束するのです。同じことが神権の誓詞と誓約にも言えます。これら3つの偉大な誓約が、一点において一致しているのです。それは神に仕え、神の戒めを守るという点です。では、神権を持つ者として他にどのような責任があるでしょうか。

第1の責任は、福音に従って生活し、身も心も清くすることです。悪い思いを抱い

てはなりません。また、よくない習慣を身につけてはなりません。あらゆる面で正直に行動します。うそをついたり、ごまかしたりせず、だれに対しても不親切な行為は慎みます。キリストのように思いやりのある人間になるのです。不親切はこれに反する行為です。ですから、私たちにとってひとつの大切な義務は、親切に思いやりの心を持って行動することなのです。

また、私たちは道徳的に清く汚れない状態を保たなければなりません。徳を失ってはなりません。すべての男性は妻に対して忠実かつ誠実であるべきです。末日聖徒の男性は、妻以外の女性に心を寄せてはなりません。ここで聖句を参照したいと思います。教義と聖約第42章の22節です。是非書き留めていただきたいと思います。第42章の22節です。これはすべての聖典の中で、最も大切な聖句のひとつです。

「汝ら誠心を以て妻を愛してこれと結び合うべし。その他の者に愛着することなれ。」

実に興味深いことです。主は「汝ら誠心を以て妻を愛し」という言葉でこの聖句を始めておられます。まごころから愛するという表現を使っている聖句は、聖典の中で他にひとつしかありません。それは「心をつくして主なるあなたの神を愛せよ」という聖句です。このことから、妻を愛せよという戒めの重要性が、お分かりいただけると思います。心をつくして神を愛し、同じく心をつくして妻を愛するのです。

では、「妻と結び合うべし」とはどういう意味でしょうか。それは、妻を心から愛し、思いやりを示し、いつも妻のことを考えるということです。また、妻に対して親切に振る舞うことです。言い争いをせず、常に

親切に思いやりの気持ちを示すのです。

この聖句の最後の部分について考えてみましょう。「その他の者に愛着することなき」と記されています。つまり、「心をつくしてあなたの妻を愛し、その他の者に心を奪われてはならない」ということです。主は私たちに、女性に対して情欲の念を抱かないようにと言われました。もしそのようなことをするならば、心の中で姦淫を犯したことになります。また男性に対しても情欲の念を抱いてはなりません。男性との道徳上の罪は女性との道徳上の罪と全く同じです。私たちは神権を持つ者として、ひとつ戒めを心に留めておく必要があります。それは「汝ら、主の器をもてるものは潔くあれ」(教義と聖約38:42)という戒めです。

神権者に与えられた第2の責任は、家族の長になることです。神権者として家庭を管理するのです。しかし、正義の心をもって管理しなければなりません。もしも義からざる方法で管理しようとするならば、その人の神権は終わりであると、主は言っておられます。私たちは義をもって家庭を治めるべきなのです。すなわち、思いやりをもって管理するのです。妻子に暴力をふるってはなりません。子供をしつける時にも思いやりの気持ちを持つべきです。愛なくして家庭の中に平安はありません。ですから、私たちは家庭の中に真実の愛を築き上げるのです。妻には夫や子供を愛することを教え、子供たちには両親を愛することを教えます。また、特別に時間を取って子供たちに福音を教え、福音に従って生活できるように必要な援助を与えます。子供たちは福音を知らないければ、それに従うことはできません。子供たちが福音を理解す

るかどうかは皆様の肩にかかっています。理解というものは、教えられることによって生まれます。

両親は家庭にあって子供たちの教師であるべきです。それには、両親自ら福音を理解していなければなりません。皆様は毎日福音を勉強していらっしゃるでしょうか。是非そうしていただきたいと思います。福音を勉強せずに、どうして福音を理解することができるでしょうか。自分で福音を理解せずに、どうして子供たちに福音を理解させることができるでしょうか。自分が知らないことを人に教えることはできません。ですから、毎日福音を勉強していただきたいと思います。

私たちは非常に邪悪な時代に住んでいます。靈的な力を可能な限り得る必要があります。救い主について毎日少しずつ読むことができれば、それは私たちを守る大きな力になるでしょう。そして、その力は子供



たちにも与えられるのです。これが子供たちを改宗しなければならない理由です。子供たちはイエス・キリストについて毎日少しづつ読む必要があるのです。

では、どうすればそれができるでしょうか。読書計画を立ててみてはいかがでしょう。新約聖書の四福音書から始めて、モルモン經のニーファイ第三書へと進むのです。これらの聖典をすべて、しかも家族と一緒に読むと決心したとしましょう。毎日1章ずつ読めば、1日に10分とはかかりません。しかし、それは1日を始める何とすばらしい方法でしょうか。今日の朝、家族が集まってマタイによる福音書の第1章を読んだとします。明日の朝は第2章を読みます。その翌日には、第3章を読みます。こうすれば、28日間でマタイによる福音書を読み終わります。それからマルコによる福音書に進みます。マルコによる福音書には16章ありますから、16日で読み終わります。同じようにルカ、ヨハネと読み進み、ニーファイ第三書に入ります。このように1日1章聖典を読むことで、皆様や子供たちは世の悪から守られるのです。

家族と共に毎日家族の祈りを捧げることを忘れないでください。また、子供たちが毎日個人の祈りを捧げるようになってください。毎週月曜日の夜には、家庭の夕べを開いていただきたいと思います。家庭の夕べは本当に大切です。そこで福音を勉強し、一緒に祈ることができます。また、楽しい活動を行なって愉快に過ごすこともできます。どうぞ、家庭の夕べを楽しい時間にしてください。そうすれば、子供たちは喜んで、家庭の夕べを楽しみに待つことでしょう。

では、神権者に与えられた第3の責任に

ついてお話ししたいと思います。それは、ワード部や支部において活発な会員となって神権を行使することです。皆様は、監督や支部長から与えられた責任を喜んで引き受けておられると思います。監督や支部長を心から支持してください。また、皆様の召しのひとつであるホームティーチングを一生懸命に行なってください。組織の副会長や教師に召されている人は、責任の内容を研究し、教えるべきレッスンに精通して、与えられた召しを立派に果たしてください。皆様の家族にも、教会で活発になるよう教えてください。私たちは教会に活発でなければ、救いを得ることはできません。教会から離れている人は、自らを救うことはできないのです。不活発な人も同じです。私たちは教会にあって真に活発であるべきです。教義と聖約の第4章の中で、主は次のように述べておられます。

「すべからく心をつくし、勢力をつくし、思をつくし、体力をつくして神の役務をなせ。」(教義と聖約4：2)

すなわち、私たちは心をつくして熱心に神に仕えるのです。また、神のみ業に全力を注ぐのです。与えられた英知を十二分に発揮して主に仕えるのです。

これまでお話ししたことは、すべて私たち神権者に課せられている責任です。私たちは主に仕え、これらの戒めを守るという神聖な誓約を交わしていることを忘れないでください。主に対するこの約束を破らないようにしようではありませんか。すべての皆様が主に忠実でありますように、イエス・キリストのみ名により、へりくだつてお祈りします。アーメン。



「しもべは聞きます。 主よ、お話しください」

七十人第一定員会会員
マリオン・D・ハンクス

ア イスルキヨウダイ、オハヨウゴザイマス。皆さんと共に主イエス・キリストを礼拝できることは、栄誉なことです。また、主の代理の者として主のみ名により語れることは特権です。私たちは今朝、素晴らしい主の勧告を学んできました。こうして心と思いが備えられた今、私たちはさらに多くのことを学んでいきたいと思います。

私たちは来年度、神権定員会のレッスンや個人学習を通して、旧約聖書を学びます。そこで私は今朝、旧約聖書の中から皆さんもよく御存じの話をふたつ引用したいと思います。こちらから見渡しますと、この会場には若い方が大勢いらっしゃいます。年齢的にではなく、福音との交わりにおいてまだ若い方もおいでのことでしょう。また教会内で数々のことを経験された方々もいらっしゃると思います。これからお話し致しますふたつの物語は、一方は若い少年の、もう一方は経験を積んだ老人の話です。両方共、主に仕えるという召しを受けました。ところが、この召しに対して一方は主が望んでおられる通りの答えを出しましたが、もう一方は違った答え方をしました。正しい答え方をしたのは少年の方であり、とりかえしのつかない過ちを犯してしまって後

で悲痛の内に悔い改めなければならなかつたのは、老人の方でした。この少年は後に偉大な予言者となったサムエルです。皆さんはサムエルの話を覚えておいででしょうか。本当に胸躍る話です。

サムエルの母はハンナという名の人で、サムエルをみごもるまでずっと子供に恵まれませんでした。彼女は、世の清く美しい妻たちであればだれでもそうであるように、何を犠牲にしてでも母親になりたいと願っていました。ある日彼女は神殿に行き、子供を授けて下さるように祈りました。今朝の開会の祈りで、長浜副ステーキ部長は、この会場に集った多くの方々が断食をしておられるということを言わされました。同じようにハンナも、断食をしていました。そして主に、かわいい男の子を授かるように祈り求めたのです。後にその祈りは聞き届けられて彼女は男の子を産み、その子をサムエルと名づけました。

ところでハンナは、子供を授けていただきたいと祈り求めていた時に、主にひとつの約束をしていました。すなわち、もし子供を授けてくれるならば、その子を一生主に仕える者として捧げるということです。ですから彼女は、サムエルが自分ひとりで身のまわりのことができるようになるとす

ぐに、サムエルをエリという名の大祭司のもとに行かせ、神殿で主に仕えるようにさせました。

ある晩、サムエルがこの年老いた大祭司のそばで眠っていると、主の声が語りかけました。しかしサムエルは、それが主の声だということがわかりませんでした。そばに寝ていたエリが呼んだと思ったのです。その声が「サムエルよ、サムエルよ」と呼んだ時、サムエルは「はい、ここにおります

す」と答えました。エリが呼んだものばかり思ったサムエルは、エリを起こして、「わたしはここにおります」と言いました。しかしエリは、「わたしは呼ばない。帰って寝なさい」と言いました。サムエルは狐につままれたような気持ちでしたが、とにかく戻ってまた床に着きました。するとまた主の声が「サムエルよ、サムエルよ」と呼びました。そこでサムエルはまたエリのもとに行き、「わたしは、ここにおります」と



答えました。エリは面倒くさそうに、「子よ、わたしは呼ばない。もう一度寝なさい」と言いました。しかしもう一度主の声が「サムエルよ、サムエルよ」と呼びました。サムエルは、今度はエリを振り起こし、「あなたがお呼びになりました。わたしは、ここにおります」と言いました。エリはようやく覚りました。そして「その声はわたしではない。主の声だ」と言い、また呼ばれたら「しもべは聞きます。主よ、お話しください」と答えるように言いました。そこでサムエルは、主の声に対して教えられた通りに答えたのです。それから後、主がサムエルに対して何をお話しになり、またどのようなことが起こったかはサムエル記上の最初の数章に書いてあります。これは非常に興味ある物語です。

この中で私たちが心に留めなければならぬことは、年端もゆかず経験もない少年が、主に呼ばれた時に、「しもべはあなたの言うことを聞き、それを行ないます」と言ったことです。彼は幼い頃のその経験を生涯決して忘れませんでした。主はサムエルを何度もお呼びになりました。そしてサムエルの答えはいつも同じでした。こうしてサムエルは偉大な予言者になったのです。

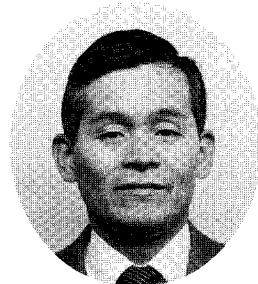
では、もうひとつの話を簡単に紹介しましょう。皆さんよく御存じの、ヨナという人の話です。ヨナは成人で、しかも経験に富んだ人でした。このヨナに神の声が降り、ヨナを伝道に遣わすということが告げられます。神権の召しが下されたのです。ヨナはその召しについて思い悩みました。邪悪なニネベの民のもとに行って、悔い改めなければ滅びるであろうと告げなければならなかったからです。彼はその召しを拒み、神のもとから逃れようと試みました。

ヨナは神の目の届かない所に隠れるができると思ったのです。この話の続きは皆さんもよくおわかりのことと思います。

このサムエルとヨナの物語は、共に読む人に訴えるものを持っています。少年サムエルは、幼い頃に心から主の召しに応じるすべを学びました。主に召された時にはいつもそれを行なうということです。それに対してヨナは、主のもとから、つまり主の召しから逃げようとしました。しかし幸いなことに、このヨナも、悔い改めてまた別の機会が与えられたと記されています。

福音を少しでも御存じの方は、主からの召しにもかかわらずそれを拒む人々が、どれほど悲しい目に遭うかおわかりのことだと思います。そのような話を皆さんに紹介したいのですが、今はもう時間がありません。その代わりに、次のことを皆さんにお願い致したいと思います。直接であっても神権指導者を通してであっても、主が皆さんに語りかけられる時、どうか、サムエルがどう答えたかを思い起こしていただけないでしょうか。また、ヨナがどう答えたかということを思い出していただけないでしょうか。どのように答えるかによって、皆さんのが喜びをもって、しかも主のお役に立てる者として生活できるかどうかが決まるのです。主の助けがあつて私たちが主の求めに応じることができるよう、イエス・キリストのみ名により祈ります。アーメン。





神聖な任務に備えて

地区代表
安芸 宏

兄 弟たち、おはようございます。キンボール大管長、このたび私たち西日本に住む者を大阪の地にお招き下さりありがとうございます。キンボール大管長、ロムニ副管長、ピーターセン長老、ヒンクレー長老、ハンクス長老、菊地長老、またそのご夫人方、スマス姉妹、キャノン姉妹、その他スタッフの方々、本当にご苦労さまでした。この2週間余り、アジア各地での大会、東京における神殿献堂式、地域大会と連日お休みの暇もなく私たちのためにお働き下さり、感謝の言葉もございません。また、松下電器産業株式会社様の想像を越えたご厚意、ご配慮、ご協力を心からお礼申し上げます。

さて、愛する兄弟、神権者の皆さん、私は神の予言者、聖見者の前で、神のみ旨にかなった話をするように、ここに立っています。心からみたまの導きがあるよう願っております。

私は神の御子イエス・キリストが再臨され、直接この地上を治め、中国、韓国、アメリカ、ドイツなどの国名を必要としなくなる日まで、日本に生まれ日本人であることを誇りとして過ごしたいと思います。兎小屋の建ち並ぶ日本との批評もありますが、世界地図の上で探し出すのが難しいこの狭

い国土に、約1億2千万人、一平方キロに306人という高い人口密度を擁し、なお世界で2、3位を競う経済大国となっていることは、「生めよ、増えよ、地に満ちよ」との神のみこころにかなって祝福を受けた証拠であると思います。両親を尊敬し、家長として父親が家族を導くという素晴らしい制度を長く維持し、親切、勤勉、正直、礼儀正しさ、人から受けた親切に感謝の心を忘れず、一度交わした誓約は自分の命よりも大切にと厳しく教えられ、万一約束を破った時には人前で笑われてもかまわない、單に人前で笑われるだけでも非常に不名誉だと、誠実に約束を守った私たちの先祖。ちょうど罪のきざすのを見て、恐れおののくようにわれを成らせたまえと祈ったニーファイのような、高潔な人格をめざしてそのようなことを習慣とした先祖を心から誇りといたします。

主は確かに、この日本と日本人を祝福し、極東の一角にご自分の大切な民をお守りになり、盛衰興亡の激しい世界歴史の中で、静かに主の時のためにしておられたと思います。主はご自分の教会を回復されて150年、世界で初めて非キリスト教国の日本にご自身の宮居、神殿をお建てになりました。

時は満ち、主の再臨を目前にした今日、

主は伝家の宝刀を抜こうとしておられるかのようにみえます。アジアの民の救いのために、備えよ、進めよと号令がかかったのです。しかし、前方に黄色の信号を見るとアクセルを踏み込んで一気に交叉点を走り抜ける運転者、被告女性の弱味につけこんで破れん恥な罪を犯しながら、罷免を免れて退職金、年金を受けようと町長選挙に立候補する裁判官、他人の研究成果を盗用して恥じない大学教授、結婚制度を人間進化の一段階にすぎないと、あえて悪魔の計画に加胆して軽視する評論家の台頭など、名譽欲、社会的地位への執着、富、享樂という名の偶像への礼拝が半ば公然と横行しているかのように思えます。

愛する神権者の皆さん、私たちはいたずらに時を過ごすことはできません。主が人類の永遠進歩のために備えられた福音の道を人々に知らせなければなりません。隣人に警告をしなければなりません。

「この故に、今や神権者皆各々その義務を覚れ。また己が任命せられたる務めを全

く勤勉に勤むべし」(教義と聖約107:99)と言われています。

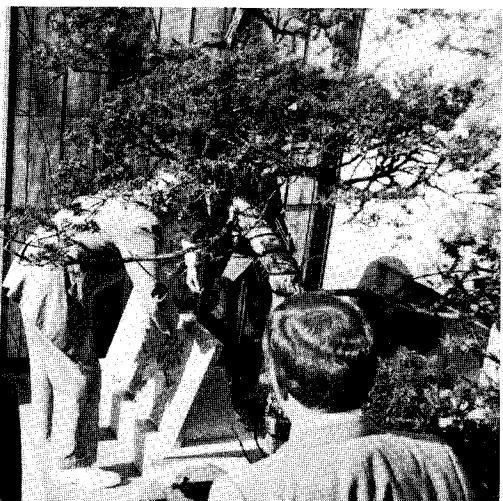
私たちは神聖な神権者の努めを果たす備えをしなければなりません。私たち神権者に頼る人々に、私たちが選ぶ道を知らせる必要があります。水泳のできない人が救助員のような顔をしてはなりません。同じように、すでに自分の持ち場を離れて己れの考えの中をさまよっている人が人々の道案内をしてはならないのであります。

次の事柄について、一人一人お考え下さい。

1. 私は末日聖徒イエス・キリスト教会の大管長スペンサー・W・キンボール長老を予言者、聖見者、啓示を受ける者として支持しているか。また大管長以外に、すべての神権の鍵を行使する権限を託されている人は地上にいないことを認めているか。

2. 他の教会幹部と地元の管理役員を支持しているか。

3. 教会が受け入れている律法と教義に従って生活するよう努力しているか。



4. 末日聖徒イエス・キリスト教会が公式に認めていない教義を教え、あるいは実施しているグループや個人に同情を寄せたり、関係を持ったりしていないか。

5. 什分の一を完全に納めているか。
6. 隣人と全く正直な交際をしているか。
7. 知恵の言葉を守っているか。

8. すでに神殿に入った神権者は、常に正規に認められたガーメントを着用しているか。

9. 教会において義務を果たすよう心から努力しているか。聖餐会、神権会、その他の集会に出席し、教会の規則、律法、戒めを守っているか。

10. 監督や支部長に話していない未解決のままの純潔の律法に関する罪はないか。

11. すでに解決しておかなければならぬ過ちを過去に犯しながら、まだ支部長や監督のもとで完全に解決していない事柄はないか。

これらすべてに「はい」と答えられた人は心に平安があることでしょう。

今こそ立って、自分の家族のため隣人のために、神の方法で雄々しく働き続けようではありませんか。「はい」と答えられなかった事柄は、両親やホームティーチャー、支部長、監督、聖典、聖徒の道などから学び、祈り、悔い改めて、一日も早くすべてを「はい」と言える状態にしようではありませんか。私たち神権者は自分を整えるだけでは十分できません。人が救われるよう助けなければなりません。

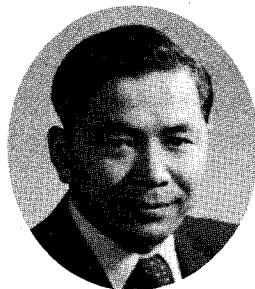
「汝ら長老、祭司、教師また会員に至るまで、あらゆる人々精力を尽しその手の働きを尽して為すべきことを為し、わが命じたることを準備し且つこれを為し遂ぐべし。」

(教義と聖約38:40)

主は、サタンの誘惑が巧妙、強力になった今日、両親がその子供を見守り、訓練するため、予言者を通じ、家庭のタベの実施と、安息日の3時間プログラムが啓示されました。また報告制度の変更も指示されました。

家長である神権者、支部長、監督としての神権者、ステーキ部長、地方部長として召されている神権者、そして神の家族の援護者として召されているホームティーチャーとしての神権者に、皆等しく、神聖な神の代理人としてその権能が付与されています。この力によって、この力を結集して、すべての家庭で家庭のタベ、統合された3時間プログラムが有効に実施できるように助け合おうではありませんか。そして名誉欲、社会的地位への執着や富、享樂という名の偶像礼拝をやめて、生ける真の神を礼拝する祝福された民、日本人になろうではありませんか。そして、アジア各地の人々と神殿の業を通して結び合おうではありませんか。

私は心から神が生きたまい、イエスは罪の贖いのために十字架にかかり、今救い主として生きたもうことを証いたします。確かにジョセフ・スミスは骨肉を具えた神にまみえ、この教会を回復されました。私たちは今生ける神の予言者キンボール大管長をお招きし、そして今ここに同席できる光栄を心に思いながら、この後正しく神様の代表者とし、神権者として、自分の家族を守り、隣り人を守るという素晴らしい任務に励もうではありませんか。心からの証と気持ちをすべてイエス・キリストのみ名によって申し上げます。アーメン。



教員を守護する神権

日本大阪ステーキ部長

中野正之

心から敬愛する神権者の皆さん、尊敬しますキンボール大管長が去る10月26日の夜大阪空港に到着され、お出迎えにあがった時から、私の心や靈や魂のすべてが洗い清められた思いがしています。再び以前のような自分であってはならないと深く心に刻んでいます。皆さん方も御存じのように、敬愛するキンボール大管長は奇跡の人でございます。これまで幾度となく生死の境を越えて現在に至っているのです。この度香港、フィリピンや台湾、韓国、東京そして大阪の地域大会に尊い予言者としての務めを果たすために、大管長は主イエス・キリストの見守りをいただいていることがよくわかります。本日神権者の皆さんと予言者の前でこうしてお話しする機会を心から喜びしております。

皆さんと共にここで考えたいことは、教員を守護する原則についてです。そのことを少しお話したいと思います。

皆さんはアロン神権者として主から聖任され、神権の権威と権能の一部を神様から付与されているのです。その時から、神様は皆さんに大きな信頼を寄せ、神の教会におけるある種の職務を、すなわち救い主御自身が執行された職務を行なう権能を授けられたのです。この職務を遂行する時、皆

さんの行動はイエス・キリストや使徒と同じように神聖で権威あるものとなります。

主が1830年に予言者ジョセフ・スミスを通して授けられた、教会の組織と管理に関する啓示の中にこの原則が示されています。教義と聖約第20章には、執事、教師、祭司、教員たる者の義務について記されている箇所があります。主はそこで教員を守護するという責任について述べておられます。すなわちホームティーチングの原則について語っておられるのです。53節には、「教師の義務は常に教員を守護し、彼らと共にありて彼らを強くすべきものとす」とあります。この言葉はホームティーチングの土台となるものです。この責任は主が神権者に対して与えられた責任のすべてを含んでいます。この啓示は、教会が組織されまだ祭司や教師や執事や長老が召される以前に与えられたものです。皆さんはこの神権を受けられた時、当然それに伴ってこの責任を受けていたのです。近代の啓示によりこの責任が教師に与えられたことには意義があります。常に教員を守護し、彼らと共に強くある、これはすべての神権者に対する律法であり、基本的な原則です。すべての神権者にとって、教員を守護するのはいつでしょうか。「常に」です。では、どこ

するのでしょうか。「家庭」においてです。ホームティーチャーは会員の家庭を訪れて、教義と聖約50：47、51に記されたことを行なうのです。

祭司は「各会員の家庭を訪れて、彼らが声を挙げてもひそかにても祈りを為し、すべて家庭の務めにいそしむよう勧めをなす」のです。家庭の務めをなし、それにいそむよう導くことが、ホームティーチャーの責任です。

また「教会員のしばしば集会することをはかり、またすべての会員にその義務をつくすようなさしむ。」(教義と聖約20：55)このこともホームティーチャーの義務です。ですから、教会員を守護するということには、ふたつの義務があります。ひとつは家族としての義務であり、もうひとつは個人としての義務です。

家族の務めとして声を挙げてもひそかにても祈りをなすということは、主がアダムとイヴに礼拝をするようにと言われた以前から続けられていたことです。また主は教会員個人の義務としても与えられています。

「^{よこしま}邪曲なきよう……虚言、蔭口、悪口……なき様注意」し、「教会員のしばしば集会することをはか」(20：54、55) るよう言われています。これらの教えと勧めと励ましは、常に教会員を守護し、彼らを強くするための原則なのです。

ジョセフ・スミスは17歳のウイリアム兄弟によってホームティーチングを受けられました。ウイリアム兄弟は予言者ジョセフ・スミスの家庭を訪れ、このようにジョセフ兄弟に話しました。

「ジョセフ兄弟、あなたは自分の宗教に従って生活しようとしていますか。家族のために祈っていらっしゃいますか。家族に

福音の原則を教えていらっしゃいますか。食事の祝福をしていらっしゃいますか。家族の皆さんと、平安と一致のある生活を送るよう努めていらっしゃいますか。」そしてその後、奥様であるエマ姉妹に対して、「教会の教えに従って生活しようと努めていらっしゃいますか。両親に従うよう、子供たちに教えていますか。祈るよう子供たちに教えていますか。」と尋ねて帰ったのです。

ホームティーチャーは主の代理人として神権者の義務を説く力が与えられています。ロムニー副管長は私たちにこのような言葉



を投げかけています。

「ホームティーチャーの務めを果たす義務はメルケゼデク神権に聖任された時、またアロン神権の祭司、教師の職に聖任された時、同時に与えられるものである。ホームティーチングという奉仕により、神権者が自分の召しを全力を尽くして遂行し、次のような偉大な約束にふさわしくなるのである。およそ忠実にしてその天よりの召しを全力を尽くして遂行する者たちは、『みたま』により聖められてその肉体再新され、またその召しを全力を尽くして遂行する神権者たちは、偉大な約束にふさわしい者となり、教会員にして王国の民となり神の選民となる。」

神権者の皆さん、ホームティーチャーとしての最も神聖な義務を果たす時、天父のみたまが家族にもたらされることを知ることでしょう。父親の皆さん、自分の生活にとって一番大切なものは家族です。常にそのことを心に留めて下さい。家族に心を配り、また現在と永遠にわたり家族と共に過ごしたいと願うならば、福音の教えに従って生活していただきたいと思います。また自分の生活を息子に知ってもらうために、そして息子の生活を知るために一緒に過ごす時間をもつことが大切ではないでしょうか。決して子供に、無償で物を与えることのないようにしていただきたいと思います。息子が神権の意味をよく理解しないまま、アロン神権を受けることがないように。ふさわしくなれるよう準備の機会を、父親の皆さんは与えるべきではないでしょうか。神権者の全員が神権指導者として召されることはないかもしれません。しかし神権を得ることが特権であり大きな祝福であることを認識する必要があるでしょう。

キンボル大管長はこの春の総大会で、新しい神殿の建設計画を発表された際、神殿で行なわれる神聖な儀式がこの地上に住むすべての教会員にとって便利な所で行なわれる日が待ち望まれるとおっしゃいました。

神権者の皆さん、このシオンの大阪の地に、名古屋、福岡の地に主の宮居が建てられ、聖なる神権をもってイエス・キリストに仕え、奉仕できる日のために今から備える必要があるでしょう。

使徒パウロはペテロの第一の手紙5章1—4節でこう述べています。「そこで、あなたがたのうちの長老たちに勧める。わたしも、長老のひとりで……あなたがたにゆだねられている神の羊の群れを牧しなさい。しいられてするのではなく、神に従って自ら進んでなし、恥すべき利得のためではなく、本心から、それをしなさい。……そうすれば、大牧者が現われる時には、しばむことのない栄光の冠を受けるであろう。」

神権を持つ私たちは、イエス・キリストの教会の会員としてふさわしい生活をするよう努めようでありませんか。そして教会員を守護するという大切な務めをなすではありませんか。この教会の進歩と発展は、神権をもつ私たち一人一人が教会員を守護することから始まるのではないかでしょうか。「わが僕らを受け入るる者はわれを受ければなり、また、われを受け入るる者はわが父を受くるなり。而して、わが父を受け入るる者はわが父の王国を受くるなり、この故にわが父のもてるすべては彼に与えらるべし。」(教義と聖約84:36—38) 私たちはこれにふさわしい者となろうではありませんか。イエス・キリストのみ名により申し上げます。アーメン。



自己の才能を伸ばし 神と隣人に奉仕する人となろう

十二使徒評議員会会員
ゴードン・B・ヒンクレー

この麗わしい朝に皆さんと共に集うこと
ができ、心から感謝しています。主は
麗わしい天気をもって私たちにほほえみか
けておられます。

今朝、私は若い女性の皆さん、特にまだ
結婚をしていない独身の女性の方々にお話
したいと思います。私たちは家族や両親に
ついてよく語る機会があります。これも非
常に大切なことです。しかし、母親や結婚
された女性についてはほかの方に話してい
ただくことにして、私は、独身の女性につ
いてお話したいと思います。特にここでコ
ーラスを発表して下さっている美しい女性
の皆さんに申し上げたいと思います。時折、
私たちは自分自身がなきくなつて悲し
むことがあります。自分は美人でもなけれ
ば魅力があるわけでもない。この世には自
分のいる場所などないのだ、と考えてしま
うのです。すべての若い女性が結婚するか
どうか私にもわかりません。若い女性にと
って、結婚は心からの願望です。すべての
若い女性が伴侶を得るよう願うのは当然
のことです。また家族を持ちたいと願うこ
とも当たり前のことです。しかし、何らかの
理由で結婚できない女性もいます。時折、
人はそのような女性を見下すことがあります。
またそうした女性自身も、自分に対し

て批判的になる傾向があります。ここで姉
妹の皆さんにはっきり申し上げたいと思
います。皆さん一人一人は神の娘です。皆さ
ん方の中には神から与えられた何かがあ
ります。したがって自分自身を卑下してはな
りません。この世の中に皆さんいる場所
がないなどと思ってはなりません。また自
分は結婚していないから神の目的に貢献し
ていないと考えてはなりません。申し上げ
る必要のないことだとは思いますが、結婚
は必ずしも幸福を保証するものではありません。
私たちは、人々が問題を抱えて苦し
んでいる様子を耳にしますが、既婚者の中
にも大変な苦悩と悲惨を味わっている人が
実際にいるのです。

ある時、私の秘書がとても気落ちした顔
をしていました。だれが見ても何かあった
なとわかるような顔をしていたので、私は
彼女に、一体どうしたのかと尋ねました。
すると彼女はわっと泣きくずれました。私
はもう一度、どうしたんだね、と尋ねまし
た。すると、彼女はこう答えました。「私は
きょうで35歳になりますが、まだ結婚でき
ません。」そこで私は彼女に、「それがどう
したというのだ」と言いました。

保険統計表のどれを取ってみても、皆さ
んはこれまで過ごしてきた人生よりもも

と長い人生をこの地上で送るはずです。どうぞ、自分自身を忙しくし、何か有益なことを行なって下さい。そして、自分の問題など忘れて下さい。自分を忘れるのです。自分を捨てて人のために奉仕して下さい。主は「自分の命を得ている者はそれを失い、わたしのために自分の命を失っている者は、それを得るであろう」(マタイ10:39)と言われました。これは永遠の真理です。この言葉は男性にも女性にも当てはまります。私たちが自分の個人の問題で日夜思い悩むとしたら、人生は実りのないものとなるに違いありません。反対に、もし私たちが自分自身を忘れ、無私の気持ちで人のために奉仕し、神に仕えるならば、そこから真の人生が始まることでしょう。そうすれば、私たちもっと人々から関心を得て、魅力ある民となることができます。また私たちが住んでいる地域の偉大な力となるに違いありません。それがまた、教会にとっても大きな力となるのです。

若い女性の皆さんに2,3提案したいことがあります。

第1に、自分の仕事において常に傑出した働きをしてもらいたいということです。皆さん方の多くは会社で働いていると思いますが、その仕事の中でまだ完全の域に達してはいないはずです。皆さんもっと熟練できると思います。そうすれば皆さん方の生活はもっと楽しくなり、もっと価値あるものになるに違いありません。時折、じっくりと腰を落ち着けて、どうしたら自分が仕事の中でもっと役立つ人間になれるか考えてみて下さい。また、どうすれば仕事の技術を向上させることができるか考えてみて下さい。そして仕事でそのことを実践するのです。そうすれば、皆さん方の上に

素晴らしいことが起こることに気付かれるでしょう。

次に、書物を読み、精神を高揚させていただきたいと思います。この美しい国日本の文学を学んでいただきたいと思います。その他の国々の文学にも親しむようにしていただきたいと思います。私たちは読書を通してたくさんのことを得ることができます。もちろん、聖典も読んで下さい。男性であれ、女性であれ、いかなる人も聖典に完全に精通している人はひとりもいません。この神聖な書物の中には、興味ある事柄や知恵がたくさん記されています。私たちは皆、この書物から絶えず多くのことを学ぶことができます。そうすれば、精神が高揚され、私たちは他の人々にとつてもっと興味ある民となることができるでしょう。主はそのことをひとつの義務としてこの教会の民に与えておられます。「汝ら最も書き書より智恵ある言葉を探し求めよ。また正に研究と信仰とによりて学問を求むべし」とあります。また、「およそ、われらのこの世に於て達する英智の一切は、何にてもよみがえりの時われらと共によみがえるべし」と述べられました。神に関する学ぶことは永遠の事柄です。聖典を読み、主のみこころを学ぶ上で、若過ぎるとか年をとり過ぎているとかいうことはありません。

次に、キンボール大管長は私たちに日記をつけるように言われました。もし皆さん方が毎日時間をとて何かを書き残していくようにするならば、書く技術を伸ばし、言葉を使う力が増し加えられることでしょう。皆さんは自分の生活で毎日経験する美しい、興味ある事柄を記すことができるだけでなく、他の人々と話を交わす能力をも高めることができます。こうして皆さんは

もっと他の人々の関心を得るようになるでしょう

…次に、音楽を学んでいただきたいと思います。私たちすべてが音楽家であるわけではありません。私は歌を上手に歌うことはできません。ピアノを弾くこともできません。バイオリンを弾くこともできません。

ただ少し口笛を吹ける位です。しかし私は、よい音楽を聴くことが好きです。私の家にはレコードプレーヤーがあります。そして私は世のすぐれた音楽家のいろいろなレコードを持っています。時々そのレコードをかけ、電燈を少し暗くして、この靈感された天才たちの胸に去來したものは何であつ



たろうかと考えるのであります。この経験は、私に何か特別のものを与えてくれます。恐らく、皆さんも同じような何かを感じとることができます。樂器を、たとえばピアノを演奏することができる人は、どうぞ一生懸命練習して下さい。たとえコンサートに出るような演奏者にはなれなくとも、人を喜ばせるエンタテイナーになることはできるからです。そしてこの人生における芸術的な事柄を愛する気持ちがますます高まってゆくに違いありません。私は日本を訪れるたびに、日本女性の生け花の才に驚きの念を抱いています。大分前の話になりますが、私は各地の支部がまだ非常に小さかった頃この国を訪れ、バプテスマを受けた会員全員にすぐ責任を与えるよう、支部長の皆さんにお話しました。そして私は6ヵ月後にもう一度日本を訪れるので、その時にはすべての改宗者が何の責任を果たしているか教えて下さいとお願ひしました。そして再び日本を訪れた時、ひとりのバプテスマを受けた若い女性が教会でどのような責任を果たしているかと彼女の支部長に尋ねました。彼女は、毎週日曜日に壇上の花をいける責任に召されていました。壇上を見上げますと、そこに平らな花器が置かれ、その中に一輪のバラがきれいにいけられていました。本当に見事な生け花でした。私は彼女を見つけ、感謝の言葉を述べました。彼女は私の言葉に笑顔で答えて下さいました。そして、彼女はその教会で立派な男性と出会い、幸福な結婚をしました。彼女がその男性と知り合ったのは、彼女の芸術である生け花を通して彼女自身を美しく保っていたからだと思います。

愛する若い友人の皆さん、決して自分を卑下することのないようにして下さい。皆

さんはすべて神の娘です。皆さんの中には偉大な可能性が秘められています。その可能性には、1日では到達できないかもしれません。しかし皆さん方が熱心に努力し、自分を忘れて人のために奉仕するならば到達できる日が必ず訪れるでしょう。私たちがこのような成長を遂げることこそ福音の神髄なのです。

教義と聖約の50章の24節にこう記されています。「神によるものは光明なり。その光明を受けて神に従うこといよいよ久しき者は、その受くる光明いよいよ明らかなり。その光明いよいよ明らかなりてついには完き暁となるべし。」

これは絶えざる進歩の原則について述べているところです。神に向かって進歩、成長するのです。私は、皆さん方が幸せな結婚をなさるように願っています。皆さん方がそうできるように祈っています。私は皆さんに約束をしたいと思います。皆さん方が自分の知識を伸ばし、才能を育み、自分自身を魅力的に保ち、無私の気持ちで神と人々のために奉仕をするならば、皆さんは主から祝福を受け、恐らく結婚もすることができるでしょう。たとえ結婚できなくても、私たちは永遠の父なる神の娘として平安で、満足のゆく、素晴らしい人生を送ることができるに違いありません。これらのことができるように皆さんに代わってイエス・キリストのみ名によって祈りたいと思います。



備え

中央扶助協会会長
バーバラ・B・スミス

今、ここでお話しできることを感謝致します。皆様方は、予言者、十二使徒、七十人第一定員会会員、そしてその他の中間管理役員ならびにその奥様方、技術者がこちらを訪問するに当たって、長い間この大阪地域大会のために備えてこられました。また、この部屋とほかにテレビの備えられた3つの部屋にいらっしゃるすべての姉妹たちと共にこの会に臨み、素晴らしい歌声を聞くことができますのは、私にとって大きな喜びです。皆様は、本当によく準備して下さいました。

昨晩、私たちが大阪空港に着きました時、何人かの人々が出迎えて下さいました。皆様方は、ほほえみを浮かべ、ていねいなおじぎと握手、そして英語のあいさつで私たちを歓迎して下さいました。それから、私たちはバスまで案内され、そこでまた大歓迎を受けたのです。ホテルに到着すると、そこには私たちの心を打つプレゼントが用意されており、さらに、私たちの靈を高め力づけてくれる美しい花と新鮮な果物が飾られていました。また、心に光を投じる日本語のモルモン経も置いてありました。これを見まして、私たちが心を尽くし、勢力を尽くし、思いを尽くし、体力を尽くして務めを果たせるように願っておられる皆様

のお気持ちがよくわかりました。

私たちが無事大阪に来ることができましたのも、すべて皆様の行き届いた準備のおかげです。皆様は、私たちが健康を保って無事に到着できるようにと断食し、祈って下さいました。また、この大会に出席するために貯金をし、家をあけ会社を休むために前から準備してこられました。船や飛行機、車、バス、電車を使い、大きな犠牲を払って長い旅をしておいでになりました。アリガトウゴザイマス。

天父は、このような犠牲を通して私たちがすべての祝福を受けるように望んでおられるのです。主は私たちに、心を尽くし、勢力を尽くし、思いを尽くし、体力を尽くして仕えなければならないと言っておられます。このような奉仕は、私にマリヤとマルタの話を思い起こさせます。この話はルカ伝10章に書いてあります。私は、マルタはイエス・キリストがおいでになることを知っていたので準備していたのだと思います。しかし、イエスがおいでになつても準備ができていなかつたので忙しく立ち働いていました。一方、マリヤはイエスの傍らにすわってイエスの話を聞いていました。マルタはそれを見て、不平を言いました。その時イエスは、「マリヤはその良い方を選

んだのだ。そしてそれは、彼女から取り去ってはならないものである」（ルカ10：42）と言われたのです。イエス・キリストは、いつの日か私たちのところへおいでになります。私たちは、その日のために準備をしなければなりません。教義と聖約には、「汝ら主の道を備えよ」、また「われわが民と共に住わん時の備えを為さん」と記されています。さらに主は、「備えと聖めとをなすべし」とも言っておられます。

主は、私たちが自分自身を備えて、自分に適した、だれにも取り去られることのない務めを身につけることができるよう、特に女性のために、扶助協会をお与え下さいました。私は、皆様が自らを備え、聖めて、心を尽くし、勢力を尽くし、思いを尽くし、体力を尽くし、主に仕えることができるよう、ここに10の提案をしたいと思います。私は、皆様に女性に生まれたことの喜びを味わっていただきたいと思っています。

まず第1番目は、扶助協会に定期的に出席することです。ヒンクレー長老がお話しになったように実行し、学んで下さい。

2番目は、扶助協会に行く前にテキストをよく読んで下さい。準備をして扶助協会に臨むのです。レッスンの原則をどのようにして生活に取り入れるか、またその原則を通して家族にどのような祝福がもたらされるかについて考えてみましょう。

3番目は、神とその御子イエス・キリストに対する信仰を持つことです。神が生きておられること、また神は私たちを成長させるために教会の責任をお与えになることを知り、理解して下さい。皆様は、神のお選びになった指導者を支持することによって神の王国を設立する担い手となることが

できます。

4番目は、祈ることです。教会で、家で、個人で、また家族で祈って下さい。また、病気の時や特別に祝福が必要な時は、神権者、既婚者であれば御主人から祝福を受けるようにお勧めします。

5番目は、祝福師の祝福を受けることです。

そして6番目に、人生の計画を立てることです。目標を立て、努力し、達成して下さい。福音の中で、一步一步成長して下さい。そして、繰り返し勧告されているように、自分の成長を日記に記録して下さい。

7番目は、神殿に参入できるよう自分自身をふさわしく整え、そして神殿に行くことです。

8番目は、家庭訪問教師の責任を立派に果たすことです。担当の姉妹たちを愛し、見守って下さい。彼女たちのために祈り、彼女たちを教え、そして彼女たちから学び取って下さい。また、常に忠実であるように努力して下さい。

9番目は、模範的な生活をすることによって神の栄光を表わすことです。

そして最後に、皆様方の家庭を、幸福とほほえみと愛の場所にすることです。常に積極的にふるまい、福音の原則に従って生活して下さい。

これらの事柄をすべて実行する時に、皆様は、自分がだれも「取り去る」ことのできない「良い方」の役割を選んだことに気づくことでしょう。そして、教義と聖約88章119節に書かれている「汝ら組織して必要な物をことごとく調べよ」という勧告に従った皆様は、そこに記されているように、祈りの家、断食の家、信仰の家、学問の家、栄光の家、秩序の家、神の家をどの



ようにして建てるかを知るのです。ここで
言う家とは、教会や神殿を指しているの
ですが、女性にとって、この原則は家庭にお
いても適用されるべきものです。既婚者、
独身者を問わず、主の大いなる日に備えて

すべてこれらのことが達成できるよう私は
心から願っています。これらの祈りと証を、
主イエス・キリストのみ名によって申し上
げます。アーメン。



天と地を結ぶ愛

中央若い女性会長
イレイン・E・キャノン

オ ハヨウゴザイマス。皆様とこのように共に集うことができまして、心からうれしく思います。お会いしてまだ1日しか経っていませんが、私は皆さんに大好きになりました。もうすでに若い女性の指導者の方々と素晴らしい会を持ちましたが、その会は、私が知っている中で一番よく準備の整えられた会でした。その会で私たちは共に涙を流し、若い女性とその指導者のために共に祈り、またプレゼントを交換しました。そして心に喜びを覚えると共に、その場に天父がおられることを感じたのです。

霧の都ロンドンにいた時のことです。ある会合があって、そこでたくさんの国の方と言葉を交わす機会がありました。会が終わって、皆あちこちに輪を作って談笑していました。どの方も自分の国の言葉で話しているのですが、私には何を言っているのかよくわかりました。愛を交換していたのです。

ところがその時、スカートのすそが引っ張られるのを感じました。私のまわりには、人々がちょうど救い主を取り囲むようにして立っていました。どうしたのかなと思っていると、またスカートが引っ張られました。振り返ると、3歳位のかわいい女の子

が私のスカートを引っ張っていたのです。かがんでその子の小さな顔をじっと見つめると、その子も私の大きな顔をじっと見つめました。何とも言えない素晴らしいひとときでした。彼女は私にこう言いました。「おばさんのこと大好き。おばさんと一緒に天国に行きたいわ。」私はその子を見つめながらこう考えました。「私もあなたが好きよ。全然知らない私のことを受け入れてくれたんですもの。」天国とはこのようなものです。私たちは、ありのままの姿で受け入れられるのです。私は皆さんることはよく知りません。名前も知りませんし、年齢やお子さんの数も知りません。でも、皆さんが主に対してどういうお気持ちでいるか、私は感覚を通して知ることができます。また皆さんのが私たちをどのようにもてなして下さったか、互いにどのようにもてなし合っているかを知っています。今朝バスでこの会場にやって参りました時から、私にはそのことがわかりました。沿道には教員の方が立っていて、道案内をしてくれました。また指導者会の会場から外へ出ると、託児室の方角を示す、お母さんが赤ちゃんを連れた標識を持って立っている人がいました。確かに私は皆さんることは知りません。でも皆さんのが本当にやさしい心を持

った方々であることをひしひしと感じるのです。ですから私は、皆さんことを心から愛しています。そして、皆さんと一緒に天国に行きたいと思います。

さて、先程ヒンクレー長老が、この人生を過ごす上で非常に大切なことを私たちに教えて下さいました。またスミス姉妹は本当に偉大な女性の指導者であり、私たちの素晴らしい模範です。このおふたりがお話し下さったことをよく心に留めて下さい。またこれから、ふたりのすぐれた神権指導者から、お話をうかがいます。このおふたりの話にもよく耳を傾けて下さい。この2週間、私は教会幹部の方々のお話を何度も何度もお聞きしました。これからの私は、今までの私とは違うと思っています。私は幹部の方々を愛しています。幹部の方々と共に天国に行きたいと思っています。また本日の午後の大会では、キンボール大管長からお話をうかがいます。大管長は最もキリストに近い方です。大管長がキリストに近い方であるように、私も大管長に近い人間になれたらと思います。

私はここに聖句を少し用意してまいりました。これを家にお帰りになってからよく読んでいただきたいと思います。私たち女性を啓発してくれる、特別な聖句です。まず教義と聖約25章ですが、これは、教会員の女性であればだれでも精通しておくべき章だと思います。何度も何度も、繰り返し熟読して下さい。私はこの章を英語でも、フランス語でも、スペイン語でも知っています。今度は日本語に挑戦するつもりです。息子が読み方を教えてくれると思いますから。次にルツ記とエスティル記を何度も読んで、このふたりの女性の心情をよくくみ取って下さい。モルモン経の中では、アルマ

書の19章から23章までです。ラモーナイ王の妻について研究して下さい。それから使徒行伝の9章、列王記下の5章を読んで下さい。このふたつはあまり話題に上らない物語ですが、祈りながら何度も繰り返し読めば、女性としてのあなたに深い理解をもたらしてくれる聖句であることがわかり、子供や神権者をよく助けることができるようになります。

どうぞ、御父のまわりに集まる子供たちが互いにどういう気持ちを抱くかを理解して下さい。そうすれば、この地上に天国が訪れる事でしょう。

私は日本語で証をするように準備しました。これは、私たちすべてにとって本当に神聖であるこの証を、皆さんがどのような言葉で表現するのか知りたかったからです。発音がおかしくてもどうぞお許し下さい。でも、この証は何度もしてきました。そして、この証を通して、神聖な事柄について皆さんと意思の疎通をはかれることがわかりました。同じように、私たちは神様との意志の疎通ができるように、何度も何度も練習しなければならないのではないですか。

イスルキヨウダイシマイタチ。ワタシハココロカラ、シュヲアイシティマス。コレガ、シュノキヨウカイデアリ、マタスペンサー・W・キンボールガシュノヨゲンシャデアルコトヲ、アカシシマス。カミサマガイキティラッシャリ、ワタシタチヒトリヒトリヲアイシティラッシャルコトヲ、ワタシハイエス・キリストノミナニヨッテアカシシマス。アーメン。



ふたりの姉妹の模範

七十人第一定員会会員
菊地 良彦

愛 する姉妹の皆様、お早うございます。私は、いつも素晴らしいお話を下さるキャノン姉妹に心を惹いています。またスマス姉妹は、私たちにとってとても大切な話を下さいました。ヒンクレー長老も非常に具体的に、皆様方姉妹たちにとって大切なことをお話し下さいました。ヒンクレー長老のお話なさったことは、私が常日頃、女性について考えている事柄です。

東京では、ロムニー副管長が、母親のことを話して下さいました。私はその話に強く胸を打たれました。

きょう私は、皆様方が靈的によく備えておられるのを感じます。皆様方からとても強い靈的な力を感じます。

皆様がそのような備えをしておられることを、私は深く感謝しています。また、美しいコーラスに感謝しています。ありがとうございます。とても美しいコーラスです。ありがとうございます。

私はきょう皆様に、ふたりの立派な姉妹についてお話をしたいと思います。そのひとりは、ニーファイ姉妹とでも呼びましょうか、ニーファイの奥さんです。そしてもうひとりは、私たちの指導者の奥様です。

モルモン經には数多くの素晴らしい話が記されています。信仰の話や改宗の話、大

勢の予言者たちの話、啓示や奇跡、教義の話、裁きに関する教え、そして主御自身がお話になっていらっしゃる、いろいろな美しいお話を、そこに記されています。

確かにモルモン經は、「ユダヤ人、と異邦人とにイエスは永遠の神なるキリストにましますことを確信させる」神聖な書物です（モルモン經の前文参照）。

きょうこの場においての姉妹たち、またテレビで大会の模様をご覧になっておられる姉妹たちは皆、御自分がニーファイの妻であると仮定して下さい。そして今、エルサレムを発って、荒野を8年間も旅していると考えて下さい。

ニーファイ第一書の17章には、次のように記録されています。

「私たちはみな荒野を旅して多くの艱難をふみこえ……私たちの妻は荒野の中で子供を生んだ。」（Iニーファイ17：1）

衛生用品や水、薬、そのほか出産に必要な物が十分になかったにもかかわらず、彼女たちはたくさんの丈夫な子供を産みました。

荒野では多くの悲しみや日中の暑さ、夜の寒さ、食糧の欠乏、そのほかいろいろな苦難に直面しました。聖典にはこう記されています。

「私たちはこれまでまことに書きつくし難いほど多くのつらい難儀に逢った。」(17: 6)

そればかりではなく、彼らは荒野では火を使わず、すなわち食物を焼くことも煮ることもせず、生肉を食べました。そのことが聖典に記されています。

皆様が御自分の愛する娘さんや息子さんに、きょう「生肉」を食べさせなければならぬとしたら、どうお感じになるでしょうか。

しかし彼女たちは、主から与えられた戒めをよく守り、自分たちの神権指導者をしっかり支持して、その艱難辛苦にめげずに荒野を旅しました。そこで、「われは荒野の中に汝らの光とならん」と、イエス・キリスト様は彼らに言われました。「もし汝らわが命令を守らば、われは汝の前に道を備うべし。故に汝らわが命令に従わば約束の地に導かれ、かくして汝らを導く者のわれなることを知るなり。」(I ニーファイ 17: 13)

これは現代の姉妹たちにとって、大きな教訓であると思います。ニーファイ人の女性たちは自分の夫である神権者、また指導者である当時の予言者に立派に従いました。聖典には次のように記されています。

「皆は非常によろこび」(17: 6)を得、また「つぶやかずに旅行に堪えるようになった。」(17: 2)

姉妹たちの皆様、扶助協会に出席し、教会のプログラムに参加するだけでなく、神権指導者や夫によく従って下さい。このことは非常に大切です。彼らが皆様を正しく管理なさる時に、「つぶやかずに」彼らに従うようにして下さい。そうすれば主の祝福が豊かに注がれて、彼女たちは「子供ら

に充分の乳を飲ませることができ、まことに男子のように身体が強かった」と、聖典に記されています (17: 2)

現代の私たちには、この話を教訓として大切にしていきたいと思います。

ニーファイは兄たちからたびたび不平不満を言われましたが、ニーファイの妻はいかなる艱難辛苦にあっても、絶対的に夫を支持しました。このことを是非、教訓としていただきたいと思います。

私はきょう、もうひとりの女性についてご紹介したいと思います。それは私たちの予言者の奥様であり、私たちの教会の模範者である、カミラ・E・キンボール姉妹です。

この偉大な女性の示して下さった模範についてお話ししたいと思います。私たちはキンボール姉妹のことをもっと知る必要があります。私はこの機会に、この方のことを是非ご紹介したいと思います。そして、偉大な教訓を学んでいただきたいと思うのです。

キンボール姉妹は次のように言っておられます。

「私にとって一番大切なのは夫です。私は夫の世話をし、夫に必要なことを何でもします。……夫を手伝うこと以上に大切なことはほかにありません。」(Church News 「チャーチ・ニュース」1979年1月6日, p. 6)

この言葉から私たちは、彼女の美しい、優しい心を知ることができます。

「たとえ夫から頼まれなくても、何か必要なことがあれば、喜んで夫の手伝いをしたいといつも思っています。」

このことを立派な教訓として学んでいただきたいと思います。

「私は女性の役割の大切さを痛感してい

ます。公の生活の中で女性の果たす役割が大きいことを決して忘れません。」キンポール姉妹はこう言っておられます。

また私たちはキンポール姉妹の模範から、知識を増し加えることが女性にとって大切であるということを学ぶことができます。彼女は次のように言っておられます。

「そのことは非常に大切であると、私は思います。すべての女性は、進歩成長し、学び続けるという責任を負っています。ゆっくりと腰をおろし、何もせずに物思いにふけっている時間など全くありません。」

キンポール姉妹は、御主人をわざらわすことのないよう、ご自分のできることは何でもしたいと望んでおられます。家庭のことについてすべての責任を果たしておられます。水道代やガス代、電気代を支払い、

家屋の補修を手配し、庭の草を取り、芝生を手入れすることは、ご自分の責任であると考えておいでです。

キンポール姉妹はまた、次のようにも言っておられます。

「数カ月前からカレンダーに目を通して、あらかじめ予定に組んでおかなければならぬ事柄にいつも心を留めるようにしています。」

またキンポール姉妹は、ご自分にとって一番大切なのは教会に関すること、兄弟姉妹のこと、神のみ業に関することを優先することであると考えておられます。

キンポール姉妹はとてもお忙しい方ですが、多忙な時間の合間に、花や野菜の手入れを楽しんでおられます。また、お忙しい中で、読書をすることや、自然の美しさを



観賞することが、ご自分にとって楽しみのひとつであるとおっしゃっています。

皆様の方から少し見えにくいかもしれませんが、キンポール姉妹はとても色白で、とても美しいお顔です。この美しい容貌の中から、私たちはキンポール姉妹の持つておられる美德を学ぶことができます。とても優しいお方です。私は、このように美しい姉妹から、美しいことを学ぶことが大切だと思います。

キンポール姉妹は、次のようにも言っておられます。

「私は普通ならあきらめてしまうような事柄に対しても、決して否定的な態度をとったことはありません。」

これは、バーバラ・スミス姉妹がお喜びになる言葉だと思います。キンポール姉妹は、大管長と共に出かけなければならないスケジュールの合間に、過去50年間、毎月、訪問教師の責任を果たしてこられました。彼女はこのように言っておられます。

「同僚と私は、月の第一木曜日にいつも家庭訪問をするようにしています。私は訪問教師の務めが大好きです。これが大きな特権であり、とても大切であることを、すべての女性たちに理解していただきたいと思います。私はこれまでにも度々繰り返し申し上げてきましたが、扶助協会の訪問教師とホームティーチャーは教会の活力の基です。目と目を合わせ、個人と個人が交わりを持つこのプログラムによってこそ、私たちは全教会員の必要を知ることができます。」

キンポール姉妹は大学を卒業後も、何度か大学のクラスに出席し、文学や歴史、その他の勉強をなさいました。しかし一番の楽しみは、聖典を勉強することです。また

姉妹は、次のように言っておられます。

「私は自分が妻であり、主婦であること自覚しています。ほかの女性と何ら違わないと思います。私は自分の家庭のことをするのが大好きです。……時には、社会の第一線を退いた御主人を持つ友達が夫婦と一緒に楽しい旅行に出かけたりするのを見ると、少しはうらやましく思ったりもします。しかし、この教会の仕事に代えられるものはないことを知っています。」

それだけではなく、キンポール姉妹は、重い病気にかかり、手術を受けられた大管長を手厚く看護なさいました。大管長は姉妹の温かい看護によって、再び元気を回復なさいました。姉妹はこのように証なさいています。

「主のみ手があつたのです。そうでなければこのようなことはないはずです。主人は主がなすようにと望んでおられる特別の使命を与えられています。そのために主は、主人の命を長らえて下さいました。」

私は皆様に証申し上げます。神様は本当に生きておられます。

偉大な夫の後ろには偉大な妻が必ずいるとよく言われます。このことは真実だと思います。ここにおいでるヒンクレー姉妹もそうです。とても優しい立派なお方です。バーバラ・スミス姉妹も、イレイン・キャノン姉妹もそうです。

私は皆様が、これらの指導者の美德を覚え、美しいモルモンの姉妹になられるように心から祈っております。私は妻に心から感謝しています。彼女の助けと立派な働きに心から感謝しています。

イエス・キリストのみ名を通して述べさせていただきます。アーメン。



証

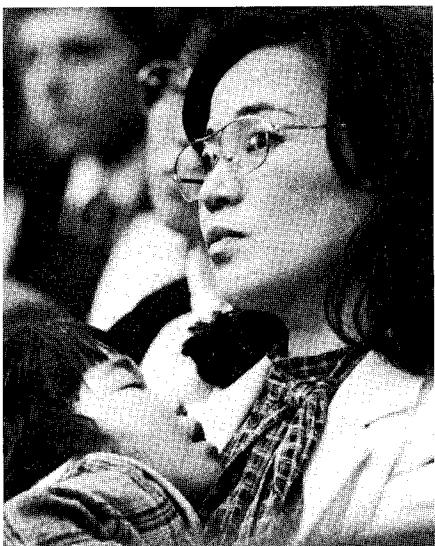
大管長夫人
カミラ・E・キンポール

愛する姉妹の皆様、あのようなおほめの言葉をいただいた後で皆様の前に立つのは少し恥ずかしいような気がいたします。私がここで申し上げられることは、私が今、こうしていられるのは、すべてイエス・キリストの福音のおかげであるということです。私は、戒めが守れるよう主が助けて下さることを願い祈っております。私は、主が示して下さった教えこそ、この世においてもまた来たるべき世においても幸福と平安をもたらす唯一の確かな道であることを知っています。皆様の御子さんがそのような安全な道を歩むことができるよう、立派にお育てになることを心から願っております。また、すべての御子さんが初等協会の歌を学ぶように望んでおります。

神の子です わたしやあなた
いろんなおめぐみ かんしゃします
わたしを助けて導いて
いつかみもとへ行けるように

子供たち、また私たちがこのことをよく覚えて成長し、この人生がいかに大切なものであるかを日々知ることができれば、私たちは自分の望む方向を目指して進むことができます。皆様方に心からの愛を示したいと思います。私たちがこの日本の地を訪問するに当たり、皆様方は暖かく歓迎し、ま

た多くの心遣いをして下さいました。皆様方がこの世で平安と幸福と成功を勝ち得ることができますよう、家庭にあって、さらに人々との交わりにあって皆様一人一人の上に天父の祝福がございますようにお祈りしています。私は、天父が私たちを愛しておられること、またイエス・キリストは私たちの贖い主であり救い主であられることを知っております。これらすべてのことを、イエス・キリストのみ名によって証致します。アーメン。





母親と未婚の女性たちの義務

第一副管長

マリオン・G・ロムニー

ま ず十代と成人して間もない人々に 2, 3 申し述べて、この話を始めたいと思います。

青春時代は楽しい時期です。皆さんはこの時期を最も有意義なものとしなければなりません。しかし、このことはしかと心に刻んでおいて下さい。今日という日を楽しく過ごしても、明日という日はそれが悲しみとなる、そのようなことのないようにしていただきたいと思います。

ロムニー姉妹が私と結婚をする前のことですが、彼女には当時16歳の、秘書の仕事をしていた妹がいました。ある晩、その妹が母親に電話をして、今夜は友達の家に泊りたいと言いました。しかし、母親の返事は「許しませんよ。家に帰っていらっしゃい」というものでした。妹はそれに言いさからいました。しかし母親も一步も譲りませんでした。翌朝、妹は食事の席についてもまだ、家族の者たちに何やかやと言い立てていました。「わかって欲しいわ、私はもう16歳なのよ。」もちろん母親はそのことを知っていました。また、1年経てば16から17になり、さらに1年経つ毎に18, 19, そしてはたちを迎える、それから10年経てば30、また10年経って40歳。そしてあとは歳をとらないということを知っていました。ただ、

母親はそれだけではなく、16, 17, 18, 19歳の間に、娘が残りの人生に悲しみや悔いを投げかけるようなことをしてしまう場合もあり得ることを知っていたのです。

若い時代を楽しく過ごすことは良いことです。しかし、今日したことが明日の悲しみになるようなことがないように、十分気を付けましょう。喜びと幸福につながる習慣を若い内に築いておいて下さい。

日々、朝夕に主に一対一で親しく語り合う習慣を築いて下さい。

清い生活を送る習慣を身につけて下さい。清くないものは主のみもとに行くことができないと、主御自身が言われたことを心にとめて下さい。家の内外、自分の体、衣服、言葉、行ない、また、思いを清めて下さい。救い主はこう言われました。「すべて心の清き者は神を見ることを得べき故にさいわいなり。」(IIIニーファイ12:8)

さて、次は母親の皆さんに申し上げます。

生活費を得るためにどうしても外に出て働かなければならないというのでの限り、家に留まって家族と共にいるようにして下さい。子供たちにそれぞれの責任を教え、訓練することを決して忘れないようにして下さい。子供たちを必ず「光明と真理の中に」導く上で自分にできることをすべて行

なうように勧告いたします。

私たちは皆、子供を訓練する責任は両親にあり、家庭を管理するのは父親であるということを承知しています。しかし、母親は家庭にあって子供と過ごす時間が長く、従って子供に対する責任の重さも父親のそれと変わらないということはよく知られているところです。母親は子供たちに対してより大きな影響力を持ち、大きな責任を負っているということを述べた指導者もいます。例えば、ブリガム・ヤングはこのように言っています。

「母親の義務は子供たちを見守り、幼い時期の教育を施すことにある。なぜなら、幼児期に受けた感銘というものはいつまでも続くものであり、……もし母親が適切な配慮をするなら、自分たちの喜びとなっているものを、子供たちの心に植え付けることができる。……これらの義務と責任は、父親に対してよりも、母親に多くが委ねられている。」(Discourses of Brigham Young 「ブリガム・ヤング説教集」p. 201)

子供の生活を見ると、その母親の教育ぶりがわかるというのは、私たちの間だけでなく、世間一般に広く認められているところです。モルモン経の中に、ヒラマンの息子たちとして述べられている2千人の若者の話があります。圧倒的に不利な事態に直面した時、ヒラマンは彼らに、敵との戦いに赴く気持ちがあるかどうかを尋ねました。彼らの答えはこうでした。

「『神はわれらと共にましまして必ずわれらを倒れさせたまわないから、われらは行って戦おう。われらの同胞がもしも日頃われらに迫らないならばわれらはこれを殺さないであろう。かれらは迫ってきている。同胞であるこの敵がアンテプスの軍に勝た

ないようわれらは行って戦おう』と答えた。

わが子らはまだ戦ったことがなかったが死ぬことを恐れず、自分の命よりも親の自由を重んじ、また疑いを抱かないならば神が必ず自分らを救いたもうとその母から教えを受けていた。

かれらはその母の言葉をわれに話して…

『われらはこれを疑わない』と言った。」

(アルマ56:46-48)

母親の皆さん、小さな子供たちは学校を終えて家に帰って来た時に、そこに母親がいて欲しいと望んでいることを思い起こしていただきたいと思います。最近、初等協会に集っている何人かの子供たちが、家に帰りたくないと言うのを聞いたことがあります。理由はというと、母親が外で働いていて家にいないからというのです。これを聞いてエ斯特ル・ハル・ドゥーリトルの一文を思い出しました。

学校から帰って

お母さんがいない時

すぐ帰って来るってわかっていても

私は寂しい。

家にある家具が変な形に見えて

何かとても寂しい

でも母の足音が聞こえてくると

不思議や不思議

ひとりでにうれしくなる

母親という言葉はどこの国に行っても、最も美しい言葉のひとつに数えられています。そして、愛、家庭、家族、神、天国などの言葉と語源的に関連を持つことが少なくありません。

アブラハム・リンカーンが母親を賞賛した言葉に次のようなものがあります。

「私の現在そして未来は天使のような母に負うところが大きい。」

ジョセフ・F・スミス大管長はこう語っています。

「私は子供の頃、誠実な母親の愛に匹敵するものは、この世にないことを知った。……母親の愛は神の愛に近いものである。」

またある人は次のような言葉を残しています。

「ゆりかごを揺する人の手は世界を支配する人の手である。」(ウイリアム・ロス・ウォーレス, *The Hand That Rules the*

World「世界を治める人の手」)

年老いて目はかすみ

頭には白いものが見えても

この地上にあって日々真理を受けるに値する人、それは『お母さん』

結婚を望みながらも、自分の意志を越えたところで、ことが思うように運ばず、まだその機会に浴していない姉妹たちに申し上げます。人生は永遠であるということを



心に深く刻んで下さい。私たちはこの世に来るはるか以前から生を受けていましたが、これから後も永遠に生き続けるのです。私たちがこのように地上に生を受けているということは、私たちが第一の位を保ったということを証しています。したがって、私たちは「第二の位を保つ者は、とこしえに栄光をその頭に附け加えられん」（アブラハム3：26）という約束を受け継ぐことができるのであります。この約束には、夫や子供が与えられるということも含まれています。もし人が第二の位を保つなら、つまり、この現世にあって福音の原則と儀式を受け入れ、最後まで忠実であり続けるなら、次の世において、日の光栄の王国の昇栄に伴うすべての祝福にあずかることができるのです。

忠実な教員であるということは、第二の位を保つために大きな第一歩を踏み出し

ていることにはかなりません。落胆してはいけません。福音の原則を生活の中に取り入れ、自分の召しを遂行し、常に明るい態度を忘れないようにしましょう。常に祈りを捧げ、「正直、真実、貞潔、慈善、高徳」であり、主に信頼し、忠実でいるなら、皆さんに与えられる報いは確かなものとなります。この現世での生活を越えたところに目を向けて下さい。リバティーの牢獄の中で苦しむジョセフ・スミスが助けを求めた時に、主が答えとして授けられた励ましの言葉を見てみましょう。

「わが子よ、汝心安かれ。汝の不幸汝の困苦はただこれ束の間なり。

然り而して、もし汝よくこれを耐え忍ばば、神は汝を高きに挙げたまわん。かくして汝あらゆる敵に勝つことを得ん。」（教義と聖約121：7—8）





回復された事柄の中には、私たちがよく知っている、家族の絆は死後も続くという素晴らしい教義があります。私たちはこの現世においてだけでなく、死の扉を越えて不死不滅の生命を受ける時にも母親との絆を保つことができます。私たちは栄光の復活の時に優しく抱き合い、あいさつを交わし、皆さんを「お母さん」と呼ぶでしょう。こうして皆さんは永遠に光榮を受けることになるのです。

昇栄し永遠の生命を受けるに値する女性は、やがて靈の子供をもうけるのです。偉大な末日聖徒の詩人エライザ・R・スノーは、新しい啓示の光を受けて想像力を刺激され、天の母のことについて書きました。皆さんもこの「天の母」になることができるのです。この素晴らしい詩を皆さんも御存じのことでしょう。

「み親は一人か 深く思えば
永遠の真理は告ぐ 天に母ありと

この身を横たえ 世を去るときに
父母と高きにて われは会えるや

仰せのみわざみな 成しとげしとき
受入れみそばに 住まわせたまえ」
(讃美歌140番「高きに栄えて」)
神が母親の皆さんを祝福したもうように。
また未婚の姉妹たちが良き母親となる上で
助けが与えられるように。また、すべての
未婚の姉妹たちが偉大な母親となるための
備えをされるように。これらのことが成就
するように、へり下って祈るものです。また、
これまでに見てきた偉大な教えが永遠
の真理を表現したものであることを証します。
イエス・キリストのみ名によって。ア
ーメン。



輝く未来へ向けて

日本・韓国地域
代表役員

菊地 良彦

昨年の地域大会で、十二使徒定員会会員のゴードン・B・ヒンクレー長老は、80年前に最初の伝道部長として日本で伝道したヒーバー・J・グラント長老（当時十二使徒定員会会員、後に第7代大管長に召された）の当時の日記からその一部を引用して次のように述べられました。

「私には、この伝道部が教会の中で最も成功した伝道部のひとつになるという搖るぎない確信がある。最初はゆっくりとした歩みになるかもしれない。しかしその刈り入れは偉大なものとなり、やがてそれは世の人々を驚かすものとなるであろう。神がそのみ手をこの国の上に注いでこられたからである。」（本誌p.24）

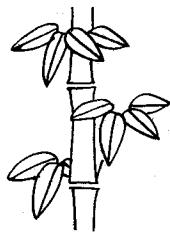
また、ヒンクレー長老は同じ大会で次のようにも述べられました。

「この国はまさに日出する国であります。そしてこの国では今、日の出するように、教会が著しい発展を遂げています。」「この国は、将来教会の驚くべき発展を遂げる国です。」

何という祝福の言葉でしょうか。

1981年9月1日は、この日本の地で伝道が開始されてから、ちょうど80周年目の日に当たります。そこで皆様と共に、「日本における教会開設80年祭」を盛大に祝したいと思います。

ヒンクレー長老はまた、「80年前に日本を訪れた宣教師を記念する日を祝うように」と提案して下さいました。



私たちの家庭、ワード部、支部、ステーキ部、伝道部、そして日本全国の地域で、この日本の地に福音を携えてきて下さった4人の宣教師に感謝してこの日を祝したいと思います。そして、私たちが皆、家族と共に神のみ使いが与えて下さったこの「値の知れぬ大切な祝福」、「さらに大いなる光と真理」をしっかりととかみしめて生活したいと感じています。(本誌p. 21, 22参照)

この1981年を「輝く未来へ大きく羽ばたく」基礎づくりの年となるよう、ひとつの心、ひとつの思い、ひとつの希望、ひとつの神の王国を築く大いなる光に導かれる年にしようではありませんか。

そのために、次の3つの事柄を提案したいと思います。

1. 大いなる光の道を一層広めよう
2. 光の中で大きく成長しよう
3. 主の宮居に参入し、確かな知識を得よう

神の予言者スペンサー・W・キンボール大管長は、東京神殿の献堂式で次のように言われました。

「私は、皆様方が毎日接する人々と福音を分かち合うために、直ちに特別な努力を払うことによって主と救い主に感謝の気持ちを表わして下さるようチャレンジします。」

皆様方の上に神の導きがあつて、この日本の民の上に注がれている神の祝福に応えることができるよう心から祈っています。

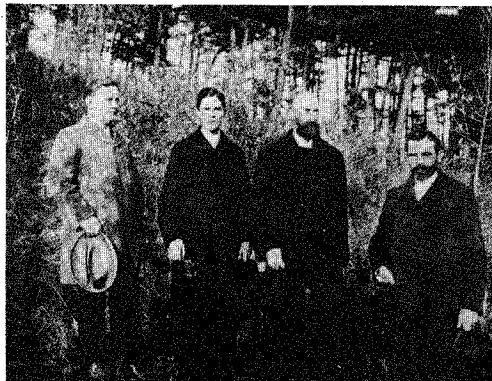
伝道80周年をいふどる

◇日本における伝道80周年を祝う◇

昨年の東京地域大会において、十二使徒評議員会会員のゴードン・B・ヒンクリー長老は、来る8月に日本のすべての聖徒たちが80年前に日本を訪れた宣教師を記念し、それを祝うように提案されました。1901年9月1日、4人の宣教師たちによって日本の地に最初に蒔かれた真理の種は今、豊かにその実を結んでいます。

私たちは彼らの働きに感謝の念を覚えずにはいられません。その功績を末長くたたえるために、今年はふさわしい年と言えましょう。

日本における伝道開始80周年にあたり日本の地は再び奉獻されることになりました。



左よりケルチ、泰勒、グラント、エンサンの各長老（1901年9月1日横浜にて）

1981年をさらに伝道の飛躍につながる新たなステップの年にしたいものです。

◇全国的な規模の指導者大会を計画◇

全国的な規模の指導者大会が、今年実施されることになりました。大会には教会幹部も出席し、今までには見られないバラエティーに富んだプログラムが組まれる予定です。

今後の日本の教会の発展を考える時、指導者の養成が急務となっています。それぞれ指導者が今一度、基本的な立場に立って

自らの特質と力を養おうというのがこの大会の大きな目的です。大会を実施するにあたり、皆で指導者としてのあるべき姿を学び、備えることが非常に大切になってきます。

なお、大会についての詳細は逐次、お伝えします。

教会の主なプログラム

◇各地で盛大なSAPの祭典◇

昨年、岐阜県ひるがの高原にて行なわれたSAPの祭典、グリーンコンファレンスは盛況で、参加者それぞれが証を強める非常に意義ある大会でした。

今年もそのようなSAPの大会が各地で計画されています。そのいくつかを次にご紹介します。

- | | |
|----------|------------------------|
| 2月11—13日 | 岐阜ひるがのホワイトコンファレンス(スキー) |
| 3月21日 | 福岡マラソン大会 |
| 3月27日 | 広島武道大会(剣道) |
| 4月28日 | 大阪スカーレット祭 |
| 5月5日 | 名古屋卓球大会 |
| 8月5—7日 | 北海道地区SAP大会 |
| 8月15—17日 | 九州地区SAP大会 |
| 10月10日 | 大阪 LDS 音楽祭 |
| 11月3日 | 東京スピーチコンテスト |



鈴木正三長老、 地区代表に召される

昨年10月、新たに鈴木正三長老が地区代表に召されました。地区代表は地域代表役員の下にあって、ステーキ部を指導します。鈴木長老の担当地区はステーキ部のある福岡地区と沖縄地区になります。

日本基督教団 日本の聖徒たちの信仰を支える 22人の祝福師たち

現在、日本には祝福師として働く兄弟たちが22名います。彼らはそれぞれ担当地域にあって聖徒たちの靈的な面での生活を支える大きな力となっています。今回はその兄弟たちをご紹介します。



川田 益雄
(名古屋ステーキ部)



福山 照夫
(名古屋西ステーキ部)



平川 友正
(大阪ステーキ部)



中野 正之
(大阪ステーキ部)



高良 慎清
(大阪北ステーキ部)



安芸 宏
(大阪北ステーキ部)



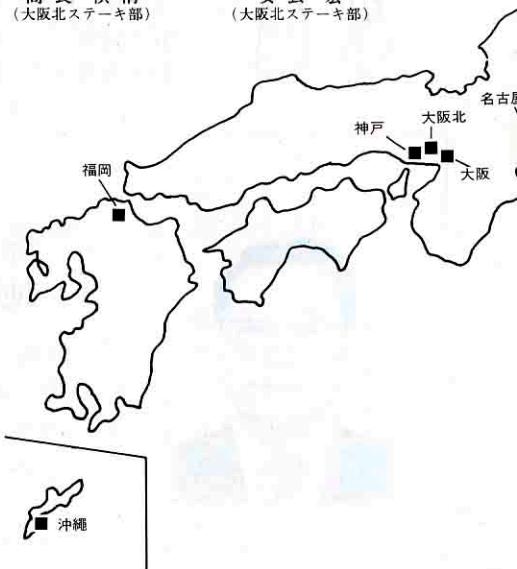
矢野 信保
(福岡ステーキ部)



福屋 航二
(神戸ステーキ部)



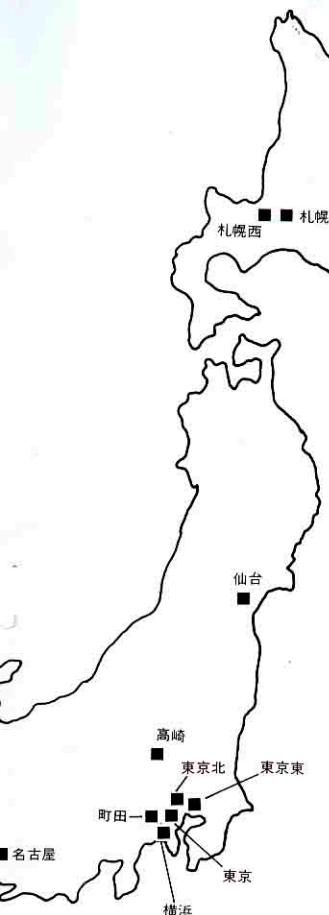
糸数 哲雄
(沖縄ステーキ部)



末日聖徒イエスキリスト教会

浦和ワード部

付属図書館



札幌西



浦和ワード部

付属図書館



鮫島 邦彦
(札幌ステーキ部)



高丸 浩一
(札幌西ステーキ部)



阿部 順夫
(仙台ステーキ部)



荻本 信美
(高崎ステーキ部)



丸山 周兵
(東京北ステーキ部)



奈良 富士哉
(東京北ステーキ部)



丹羽 三吾
(東京北ステーキ部)



念垣 郷太郎
(東京東ステーキ部)



辻本 泰明
(東京ステーキ部)



福井 弥
(町田ステーキ部)



鈴木 正三
(町田ステーキ部)



小室 敬
(横浜ステーキ部)



渡部 正雄
(横浜ステーキ部)

祝福師の祝福を希望する方は監督または支部長より推薦状を受けて、適切な時期に祝福を受けるようにしましょう。



1993年1月20日発行

郵便番号107-8001 東京都港区南青山1号

郵便番号120-1150 福島県郡山市便物町

末日聖徒イエス・キリスト教会 東京地域大会

末日聖徒イエス・キリスト教会 大阪地域大会